

The background features a large, light pink circle on the right side. On the left, there are colorful, abstract shapes resembling leaves or petals in shades of orange, blue, green, and red. A thick, multi-colored ribbon (red, green, blue, yellow) curves across the middle of the page. The text is positioned in the upper left quadrant, partially overlapping the pink circle and the ribbon.

函館短期大学

保育学科

講義要項 2015

保育学科 函館短期大学（平成 27 年度入学生）授業科目一覧

1 年次開講科目

2 年次開講科目

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	掲載ページ
基礎教育科目	教養ゼミナール（S L）Ⅰ	通年	演習	1	卒	1
	社会人基礎論Ⅰ	後期	講義	1	卒	2
	基礎栄養学	後期	講義	2	主	3
	健康食生活論	前期	講義	2		4
	生物学	前期	講義	2		5
	日本国憲法	後期	講義	2	幼	6
	外国語 英語・仏語・中国語	前期	演習	2	幼保	7～9
	体育実技	前期	実技	1	幼保	10～11
	保健体育	後期	講義	1	幼保	12
	情報機器の操作Ⅰ	前期	演習	1	卒幼	13～14
	情報機器の操作Ⅱ	後期	演習	1	卒幼	15
	ボランティア実習Ⅰ	その他	実験実習	1		16
	コンソーシアム基礎教養Ⅰ	その他	その他	2		17
	コンソーシアム基礎教養Ⅱ	その他	その他	2		17
	コンソーシアム基礎教養Ⅲ	その他	その他	2		17
	コンソーシアム基礎教養Ⅳ	その他	その他	2		17
コンソーシアム基礎教養Ⅴ	その他	その他	1		17	

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	掲載ページ
基礎教育科目	教養ゼミナール（S L）Ⅱ	通年	演習	1	卒	18
	社会人基礎論Ⅱ	前期	講義	1	卒	19
	基礎生態学	前期	講義	2		20
	言葉と表現	前期	講義	2		21
	ボランティア実習Ⅱ	その他	実験実習	1		22
	コンソーシアム基礎教養Ⅵ	その他	その他	2		17
	コンソーシアム基礎教養Ⅶ	その他	その他	2		17
	コンソーシアム基礎教養Ⅷ	その他	その他	1		17
	コンソーシアム基礎教養Ⅸ	その他	その他	1		17
	国際交流	後期	実験実習	1		23
	文化交流	後期	実験実習	1		24

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	掲載ページ
専門教育科目	音楽Ⅰ	通年	演習	2	卒幼保レ	25
	図画工作Ⅰ	通年	演習	2	卒幼保レ	26
	社会福祉	前期	講義	2	保主	27
	社会的養護	後期	講義	2	保	28
	児童家庭福祉	後期	講義	2	卒保主	29
	保育原理	前期	講義	2	保主	30
	子どもの保健Ⅰ	通年	講義	4	保	31
	乳児保育	通年	演習	2	保	32
	教育原理	前期	講義	2	幼保主	33
	教育心理学	後期	講義	2	卒幼保	34
	家庭支援論	後期	講義	2	(幼選)保	35
	健康	前期	演習	1	㊦保レ	36
	環境	前期	演習	1	㊦保	37
	表現	前期	演習	1	㊦保レ	38
	健康指導法	後期	演習	1	※2・3レ	39
	環境指導法	後期	演習	1	※2・3	40
	表現指導法A	後期	演習	1	※2・3レ	41
	表現指導法B	後期	演習	1	※2・3レ	42
	音楽基礎	前期	演習	1	※2(幼選)	43
	造形表現基礎	前期	演習	1	※2(幼選)	44
	保育内容総論	後期	演習	1	保	45
	保育実習指導Ⅰ	通年	演習	2	保	46
	子どもの保健Ⅱ	後期	演習	1	保	47
	人間関係	前期	演習	1	㊦保	48
	言葉	前期	演習	1	㊦保	49
	人間関係指導法	後期	演習	1	※2・3	50
	言葉指導法	後期	演習	1	※2・3	51

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	掲載ページ
専門教育科目	幼児体育	前期	演習	2	幼保レ	52
	相談援助	前期	演習	1	保主	53
	子どもの食と栄養	後期	演習	2	保	54
	臨床心理学	前期	演習	2	※2	55
	障害児保育	前期	演習	2	保	56
	社会的養護内容	後期	演習	1	保	57
	保育実習Ⅰ	その他	実験実習	4	保	58
	保育実践演習	通年	演習	2	保	59
	発達心理学	後期	演習	1	(幼選)保	60
	保育相談支援	後期	演習	1	保	61
	総合表現	後期	演習	1	保	62
	教職概論	後期	講義	2	幼保	63
	教育課程総論	前期	講義	2	幼保	64
	教育の方法と技術	前期	講義	2	幼	65
	教育相談	後期	演習	1	幼	66
	教育経営論	前期	講義	2	幼	67
	教育実習	前期	実験実習	5	幼	68
	教職実践演習(幼稚園)	後期	演習	2	幼	69
	幼児理解	前期	演習	1	幼	70
	音楽応用	後期	演習	1	※2(幼選)	71
	保育実習指導Ⅱ	前期	演習	1	※1	72
	保育実習指導Ⅲ	前期	演習	1	※1	73
	保育実習Ⅱ	その他	実験実習	2	※1	74
	保育実習Ⅲ	その他	実験実習	2	※1	75
	レクリエーション指導法	後期	講義	2	レ	76
	レクリエーション現場実習	その他	実験実習	1	レ	77
	音楽Ⅱ	前期	演習	2	※2(幼選)	78
図画工作Ⅱ	後期	演習	2	※2(幼選)	79	
国語	前期	講義	2	※2(幼選)	80	

【注】： (1) 履修登録を申告する授業科目に関しては自身で印を記入し、単位数の合計を確認すること。

(2) 必修区分欄の「卒」「保」「幼」「㊦」「レ」「(幼選)」「主」は次のとおりである。

「卒」… 本学における卒業必修科目

「保」… 保育士資格必修科目

○ 但し、※1「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」を修得

※2「臨床心理学」「健康指導法」「人間関係指導法」「環境指導法」「言葉指導法」「表現指導法A」「表現指導法B」「音楽Ⅱ」「音楽基礎」「音楽応用」「図画工作Ⅱ」「国語」「造形表現基礎」の中から6単位を修得

「幼」… 幼稚園教諭二種免許必修科目

○ 但し、※3「健康指導法」「人間関係指導法」「環境指導法」「言葉指導法」「表現指導法A」「表現指導法B」の中から2単位を修得

「㊦」… 幼稚園教諭二種免許選択必修科目

○ 但し、「健康」「環境」「表現」「人間関係」「言葉」の中から5単位を選択し修得

該当科目の単位合計が5単位であるため、これらの科目はすべて修得する事になる。

「レ」… レクリエーション・インストラクター資格必修科目

(幼選)… 幼稚園教諭二種免許選択科目

「主」… 社会福祉主事任用資格取得にかかわる科目

これらの科目のうち3科目を履修することが資格取得の条件となる

基礎教育科目

1年次配当科目

教養ゼミナール（S L） I	1
社会人基礎論 I	2
基礎栄養学	3
健康食生活論	4
生物学	5
日本国憲法	6
外国語（英語）	7
外国語（仏語）	8
外国語（中国語）	9
体育実技（フィットネス）	10
体育実技（球技）	11
保健体育	12
情報機器の操作 I	13, 14
情報機器の操作 II	15
ボランティア実習 I	16
コンソーシアム基礎教養 I	17
コンソーシアム基礎教養 II	17
コンソーシアム基礎教養 III	17
コンソーシアム基礎教養 IV	17
コンソーシアム基礎教養 V	17

2年次配当科目

教養ゼミナール（S L） II	18
社会人基礎論 II	19
基礎生態学	20
言葉と表現	21
ボランティア実習 II	22
コンソーシアム基礎教養 VI	17
コンソーシアム基礎教養 VII	17
コンソーシアム基礎教養 VIII	17
コンソーシアム基礎教養 IX	17
国際交流	23
文化交流	24

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
教養ゼミナール(SL) I	10110	保育学科教員	1	通年	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 本学の建学の精神である学園三訓の理念に則り、学生生活及び将来の進路に関して、学生と教員が相互に交流し学ぶことによって、社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。						
《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において感謝の念を常に抱き、自己の行動に責任を持ちつつ他者を労わる人間性を備えることができる。 ・社会生活全般において協調する姿勢を示し、健康な判断と正義を尊重し、円満な人間関係を築くことができる。 ・専門職業人として自律した生活を実践することができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 学科および担当教員の指示に従うこと。 ①年度当初は、各SL単位で年度の活動方針、内容の決定、SL長等の役割分担について検討する。 ②授業目標に示す通り、1年次は短期大学生としての生活や学習に慣れるための、導入教育を意識した授業展開が望まれる。これらは個別のSLで各担当教員が行う他に、合同SLを開催して集団の中で学習する機会を設ける。その内容としては、SL交流会、本学つどいの広場・系列保育所・附属幼稚園の見学等が考えられる。 ③個別SLのテーマは各教員と学生が協議し、設定する。 ④年間行事予定に即して、スポーツ大会、大学祭の準備等を適宜計画し、実施する。 ⑤交通安全講習会等の合同SLは学生部等により別途計画し、実施する。						
《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ＊各担当教員と良くコミュニケーションを図り、指示された必要な準備をして参加すること。						
使用教科書 なし						
参考書 使用する場合は、各担当教員より別途指示する。						
評価方法 学年末において、他の授業科目の評価方法に準じて、合格・不合格の判定および学習評価を行うものとする。 なお、学期末の学習評価及び評点による成績評価は行わない。						
その他 その他、必要な事項は担当教員の指示に従うこと。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
社会人基礎論 I	10120	加納洋人／林原和哉 黒澤香織／村木永親	1	後期	講義	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 社会で実際に仕事をする際に必要となる基礎的知識・能力を学ぶ。 ① 実社会に出て必要となるコミュニケーション能力やマナーを身につける。 ② 現代社会の動きを自分で捉える能力と、職業人として将来を見通すことができる社会的常識を身につける。 ③ 就職活動で必要となる基礎的知識を身につける。 《到達目標》 ① 対人、電話応対など社会に出て必要となるコミュニケーション能力を養う。 ② 敬語、立ち居振る舞いなどのマナーを身につける。 ③ 新聞、テレビのニュース、報道番組に関心を持ち、情報を自分で集めることができるようにする。就職試験の時事問題を解くことができるようにする。 ④ 就職活動で必要となるエントリーシート、小論文を書くことができるようにする。面接試験、グループディスカッションの場で自分の意見を言うことができるようにする。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 社会人とは何か。なぜ働くのか。社会人と学生の違い。キャリアをどう形成してゆくか。仕事の取り組み方と進め方の基本。 第2回 ビジスマナーの基本。会話の基本、敬語の使い方、接遇の仕方の基本を学ぶ。 第3回 電話応対の基本、さまざまな場面での接遇の基本について学ぶ。 第4回 企業と社会、企業の分類、会社の仕組み、組織、ルール、時間管理について学ぶ。 第5回 仕事の取り組み方と進め方、「ホウレンソウ」(報告・連絡・相談) PDCAサイクルについて学ぶ。 第6回 現代社会とは何か、新聞記事を読んで理解する。新聞の読み方、政治面、経済面、国際面、社会面、文化面、社説、解説・特集記事とは何か。 第7回 ニュースの読み方の基本。社会面の記事、ニュースの読み方。カレントトピックスと基礎的時事用語の解説。 第8回 政治、国際、経済記事の読み方。現代の政治課題、国際問題の基礎と用語の解説。 第9回 報告書、レポート、小論文の書き方の基本。資料の収集はどう行うのか。論理的な思考能力を身につけよう。 第10回 ディスカッションの仕方、会議の仕方の基本。 第11回 就職活動の基本。正規・非正規雇用の違いって何。エントリーシート、履歴書の書き方。企業の人事担当者はどこをみているのか。 第12回 面接の基本。面接者はどこをみているのか。身だしなみ、あいさつ、言葉遣いの基本。 第13回 集団面接、グループディスカッションの基本。 第14回 採用試験の理解。筆記試験、SPI試験の対応の仕方。 第15回 キャリアをどう磨くか。5年後の自分、10年後の自分を考える。 (外部講師による特別講義を行う場合がある。) 《授業外に行うべき学修(予習・復習、準備学習等)》 普段から新聞等で情報を得て整理する。配布プリントを読んで復習をする。 《標準学修時間の目安》 1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。						
使用教科書 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト, 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団監修, 日本能率協会マネジメントセンター, ISBN-13: 978-4-8207-4916-5 C3034						
参考書 なし						
評価方法 授業ごとに実施する小テスト(40%)、授業中の発言、対応能力の審査(30%)、 課題・レポート審査(30%)を数値化して、総合評価する。						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
基礎栄養学	10150	福田悦子	1	後期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 人間が健康な生活を営むためには、栄養に関する知識が必要不可欠です。最初に栄養素と、これらが体内でどのように代謝され、どんな機能をもつかについて学ぶ。 次に幼児期の栄養問題を取りあげる。幼児期の体重当たりのエネルギーは、成人のおよそ2倍を必要とする。他方、この時期は消化・吸収・代謝が未成熟なので、栄養について特別な配慮が必要である。また、幼児期は社会性が発達する時期で、食習慣が確立するなど、人生の基礎をつくる重要な時期であり、この時期の栄養について広く学ぶ。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 五大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）のはたらきを説明できる。 ・ 栄養素の消化・吸収の概要を説明できる。 ・ 幼児期の生理・身体機能の発達についてまとめることができる。 ・ 幼児期の食事で大切な事項を挙げて、あるべき食習慣について説明できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 栄養とはなにか <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養と健康 ・ 栄養素と栄養学の成立（歴史） 第2回 栄養素（1）炭水化物の構造とはたらき 第3回 栄養素（2）たんぱく質の構造とはたらき 第4回 栄養素（3）脂質の構造とはたらき 第5回 栄養素（4）ビタミンの種類とはたらき 第6回 栄養素（5）ミネラルの種類とはたらき、水の生理作用 第7回 栄養素の吸収 消化器系の構造とはたらき 第8回 栄養素の排出 排出器系・循環器系の構造とはたらき 第9回 ライフステージの区分（1）各ステージの特性 第10回 ライフステージの区分（2）幼児期の生理・身体機能の発達 第11回 幼児期の栄養（1） <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の食生活、食行動の特徴 ・ 栄養量の配分・食事回数・間食 第12回 幼児期の栄養（2） <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会性の発達と食 ・ 幼児期の食育と望ましい食習慣の確立 第13回 幼児期の栄養アセスメント 第14回 栄養上の問題とアセスメント 第15回 まとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 授業で学習した内容について、確認し、考えて、次の授業に出席すること。 《標準学習時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回の講義あたり予習復習を含めて4時間の学修が必要である。 						
使用教科書 なし						
参考書 本学図書館には、皆さんが必要とする参考書類はほとんど揃っています。これらの中から自分が理解できるものを選んで利用して下さい。 基礎栄養学 建帛社 / 栄養学総論 南江堂						
評価方法 レポート、学習姿勢などをもとに評価します。						
その他 教科書は使用しません。講義用のプリントを配布します。関係新聞切り抜き利用。 授業ごと関連プリント配布します。 本学図書館には、幼児教育や栄養学関係の参考書類が沢山あります。また、本学の学生は、函館大学の図書館を利用することができます。積極的に図書館を利用しましょう。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
健康食生活論	10250	清水陽子	1	前期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 健全な食生活を営むためには、食生活について正しい認識が必要である。 1 人間にとって食べるとはどのようなことかを、食の持つ生理的・社会的・文化的・歴史的・教育的機能等から食生活における変遷をたどりつつ解明する。 2 食を生活の中にどのように位置づけ、どのように営んで行くのかを考え、健康維持のために関する正しい選択力や知識を身に付けることを学ぶ。 《到達目標》 ・人間にとって食べるとはどのようなことかを、いろいろな角度から考えて説明できる。 ・食を生活の中にどのように位置づけ、どのように営んで行くのか実践することができる。 ・健全な食生活を営むための食に関する正しい選択力や知識を身に付けることができる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 食生活とは（人間が食事に求めること） 第2回 人間の食生活の成り立ち①（現代の日本の若者たちの食生活） 第3回 人間の食生活の成り立ち②（食生活を支える行動） 第4回 食生活から見た食物（食生活からみた伝統的料理） 第5回 食生活と環境との関わり①（自然とのかかわり・生活文化とのかかわり） 第6回 食生活と環境との関わり②（社会経済とのかかわり） 第7回 生存と食の歴史①（食は命なり） 第8回 生存と食の歴史②（食生活と生存の歴史） 第9回 人間と食文化①（食文化を考える・食の過程） 第10回 人間と食文化②（おいしくつくる） 第11回 人間と食文化③（楽しく食べる） 第12回 人間と食文化④（健康のために食べる） 第13回 人間と食文化⑤（健康は生きがいのためにある） 第14回 食生活は学問とどうかかわっているか(食学とその領域・栄養学からみた人間と食生活のかかわり) 第15回 これからの食生活（食生活の問題点） 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 事前に教科書に目を通し、自分自身の食生活を見直す。 《標準学修時間の目安》 次回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学習が望ましい。						
使用教科書 「食生活論」, 足立己幸編著, 医歯薬出版株式会社, ISBN978-4-263-70233-8						
参考書 なし						
評価方法 定期試験（70%）、レポート（30%）により評価する。						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数	
生	物 学	10160	上 平 幸 好	1	前期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 生物としてのヒトについて、新たな知識を身につける。授業ではヒトを中心に、その構造と機能、発生と発育についての学習を行い、さらに生物学的なヒトの多様性と進化について理解を深める。最新の研究成果を踏まえた講義を行います。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・生物のもつ特性について理解し、その説明ができる。 ・ヒトの特性について、生物学的観点から説明ができる。 ・ヒトを構成する細胞・組織・器官・器官系の概要を説明できる。 ・細胞内部にある小器官の機能を理解し、その説明ができる。 ・生命の連続性について、その概要を説明できる。 ・遺伝の内容と遺伝物質について理解し、説明ができる。 ・ヒトの発生と発育について理解し、その説明ができる。 ・ヒトの誕生を進化史より理解し、説明ができる。 							
講義計画・準備内容 《講義計画》 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 生物とは？ (生物のもつ特性とは何か) 第2回 生物としてヒト (ヒトの特性とは?) 第3回 生物体の成り立ち 1 (人体の階層性について) 第4回 生物体の成り立ち 2 (細胞の構造と小器官) 第5回 生物体の成り立ち 3 (組織・器官・器官系) 第6回 細胞を構成する物質 (細胞の化学的成分について) 第7回 細胞におけるエネルギー生成 (エネルギー変換とATP産生) 第8回 生物体の働き (核酸の種類とタンパク質の合成、DNAとRNAの役割) 第9回 生物体の調整 (細胞の増殖について、分化した細胞がつくる組織) 第10回 生命の連続性 (生殖細胞と受精、発生、赤ちゃん誕生) 第11回 遺伝と遺伝子 (遺伝とは、その内容について) 第12回 生物の多様性 (多様性とは? ヒトの生物的多様性を考える) 第13回 生物進化とヒトの進化 1 (生物の繁栄と絶滅について) 第14回 生物進化とヒトの進化 2 (類人猿までの進化史、ヒトの拡散) 第15回 まとめ (日本人のルーツを探る) 《授業外に行うべき学習(予習・復習・準備学習等)》 <ul style="list-style-type: none"> ・配布したプリントをファイルに綴込み整理してください。次回の講義前には、そのプリントに再度目を通してから、授業に臨んで下さい。 ・授業では、最初の5分間に、前回は行った授業内容の説明を簡単に行ってから、先に進みますので、理解のできなかった個所については、遠慮なく質問して下さい。 ・課題提出を2回ほど予定しています。十分な時間を与えますので、自分の力で成し遂げて下さい。解らないところは丁寧に説明・指導しますので、心配いりません。 ・定期試験の前には、講義計画を踏まえて理解すべき個所の解説をしますので、不安がることなく、新しい知識を吸収するよう期待します。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・本講義は2単位です。次回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。 							
使用教科書 毎回、最新の資料を配布し、授業を進めます。							
参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理学 人体の構造と機能 I, 系統看護講座, 医学書院. ・DNAからみた人類の起源と進化 (分子人類学序説), 長谷川政美, 海鳴社. ・日本人になった祖先たち(DNAから解明するその多角的構造), 篠田謙一著, NHKブックス 							
評価方法 定期試験の結果 (50%)、課題提出 (25%)、学習態度等 (25%) の総合評価を行います。							
その他 なし							

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数		
日本国憲法	10070	永盛恒男	1	後期	講義	2		
授業目標・到達目標 《授業目標》 憲法は国家の基本を定める重要な法規範である。過去には、イラクに自衛隊を派遣するなど、憲法論議は今日の問題でもある。ところで憲法は、大きく基本的人権の部分と統治機構の部分とに分けることができる。 本講義では時間の関係上、自由や平等という基本的人権の部分を中心にしたいと思う。皆さんは中学や高校である程度憲法を学んでいると思うが、更に詳しくわかり易く講義したいと思っている。必要に応じてプリントを配布し、できる限り授業に興味をもてる様工夫したいと思っている。学生諸君の積極的な受講を望みます。 《到達目標》 ・憲法の内容を説明できる。 ・生存権的基本権を説明できる。 ・法の下での平等について大要を説明できる。 ・教育を受ける権利を説明できる。								
講義計画・準備内容 《講義計画》 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 憲法とは何か ・概念、歴史 ・基本原理 第2回 人権の規定に比べて、義務の規定が少ないのはなぜか ・憲法上の義務 ・授權規範と制限規範 第3回 憲法遵守義務 ・法の支配 第4回 国民主権 ・憲法制定権力 第5回 外国人の参政権 ・国民とは何か ・最高裁1995年2月28日判決 第6回 人権規定の私人間効力 ・三菱樹脂事件 第7回 人権規定のカタログ 第8回 法の下での平等 ・女性の再婚禁止期間規定 ・非嫡出子の相続分差別規定 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第9回 信教の自由 ・首相の靖国神社参拝 ・政教分離原則 第10回 生存権的基本権 第11回 教育を受ける権利 ・義務教育 ・教科書検定 第12回 国会 ・国会の地位、組織、権限及び両議院の権能、運営 第13回 内閣 ・内閣の地位、組織、権限 第14回 裁判所 ・司法権の意義と独立 ・裁判官の地位 ・裁判所の組織と権限、種類と原則 ・違憲審査権 第15回 地方自治 ・地方自治の本旨 ・地方公共団体の構造、権限と財政 ・住民の権利 </td> </tr> </table> 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 （予習）出来れば、次回の授業内容の指示にしたがって教科書を読んでおくことが望ましい。 （復習）受けた授業で取ったノートの内容を参照し、関連事項について図書館などで調べておくことが望ましい。 《標準学修時間の目安》 ・1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							第1回 憲法とは何か ・概念、歴史 ・基本原理 第2回 人権の規定に比べて、義務の規定が少ないのはなぜか ・憲法上の義務 ・授權規範と制限規範 第3回 憲法遵守義務 ・法の支配 第4回 国民主権 ・憲法制定権力 第5回 外国人の参政権 ・国民とは何か ・最高裁1995年2月28日判決 第6回 人権規定の私人間効力 ・三菱樹脂事件 第7回 人権規定のカタログ 第8回 法の下での平等 ・女性の再婚禁止期間規定 ・非嫡出子の相続分差別規定	第9回 信教の自由 ・首相の靖国神社参拝 ・政教分離原則 第10回 生存権的基本権 第11回 教育を受ける権利 ・義務教育 ・教科書検定 第12回 国会 ・国会の地位、組織、権限及び両議院の権能、運営 第13回 内閣 ・内閣の地位、組織、権限 第14回 裁判所 ・司法権の意義と独立 ・裁判官の地位 ・裁判所の組織と権限、種類と原則 ・違憲審査権 第15回 地方自治 ・地方自治の本旨 ・地方公共団体の構造、権限と財政 ・住民の権利
第1回 憲法とは何か ・概念、歴史 ・基本原理 第2回 人権の規定に比べて、義務の規定が少ないのはなぜか ・憲法上の義務 ・授權規範と制限規範 第3回 憲法遵守義務 ・法の支配 第4回 国民主権 ・憲法制定権力 第5回 外国人の参政権 ・国民とは何か ・最高裁1995年2月28日判決 第6回 人権規定の私人間効力 ・三菱樹脂事件 第7回 人権規定のカタログ 第8回 法の下での平等 ・女性の再婚禁止期間規定 ・非嫡出子の相続分差別規定	第9回 信教の自由 ・首相の靖国神社参拝 ・政教分離原則 第10回 生存権的基本権 第11回 教育を受ける権利 ・義務教育 ・教科書検定 第12回 国会 ・国会の地位、組織、権限及び両議院の権能、運営 第13回 内閣 ・内閣の地位、組織、権限 第14回 裁判所 ・司法権の意義と独立 ・裁判官の地位 ・裁判所の組織と権限、種類と原則 ・違憲審査権 第15回 地方自治 ・地方自治の本旨 ・地方公共団体の構造、権限と財政 ・住民の権利							
使用教科書 憲法への招待、渋谷 英樹、岩波書店、ISBN4-00-430758-9 ポケット六法（平成27年版）、井上正仁、山下友信、有斐閣、ISBN978-4-641-00915-8								
参考書 なし								
評価方法 筆記試験、学習姿勢を主たる要素とする。 レポートは課さない。								
その他 なし								

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数		
外国語(英語)	10071	シマダ・レナテ	1	前期	演習	2		
授業目標・到達目標 《授業目標》 This course focuses on the four main skill areas: reading, writing, hearing and speaking with a special emphasis on hearing and speaking with a correct intonation. (この講義では、4つの主要スキルである、リーディング、ライティング、ヒアリング、スピーキングに重点をおく。さらに、ヒアリングとスピーキングを正しいイントネーションで行えるようにすることに力を置く。) Technics of simple daily conversation and stressed, new patterns introduced and practiced in the form of short dialogs, substitution and transformation drills or the students are challenged to come up with their own original ideas. Sometimes the students might be asked to say something on their own before seeing the correct words in the book, or practice the material with a classmate to multiply the amount of time they can spend actually speaking English. (単純な日常会話、短いダイアログ形式の練習、穴埋めや変形練習を行い、学生が自分でアイデアを考えることにも努力する。学生には、正確な単語を確認する前に、自分自身の言葉で説明させる。また、実際に英語を話す時間を多くもてるように、学生同士で練習できる教材を用いる。) 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの英文を正しく読むことがで、内容を把握できる。 ・先生が話す英語の内容を正しく聞き取ることができる。 ・テキストの文章を正しいイントネーションで発音することができる。 ・学生同士で簡単な日常会話ができる。 								
講義計画・準備内容 《講義計画》 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 第1回 Orientation (オリエンテーション) Written assignment (筆記課題) Introduce yourself (自己紹介) 第2回 Lesson 1 Getting Acquainted (クラスで親密になる) Interview a classmate(クラスメートにインタビュー) 第3回 Getting Acquainted - 2 Report to the class last week's interview, etc. (先週のインタビューを報告、等) Dictation (ディクテーション) 第4回 Lesson 2 Adjectives (形容詞) Negative Forms (否定形) 第5回 Yes/No Answers (はい・いいえを答える) Positive Questions (肯定形の質問) Negative Questions (否定形の質問) 第6回 Singular & Plural (単数形、複数形) Contrary Adjectives (反意語) Quiz : Find natural A/B pairs (自然な組合せ) 第7回 L3 : 'Here on business' Focus on meaning 'a' 'an' ? (a, anの意味) 第8回 L3 : continue Dictation (ディクテーション) more contrary adjectives (反意語) </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 第9回 Hand-out Quiz find natural pairs (自然な組合せ) Family relationships (家族関係) 第10回 Bring a photo of your family and Introduce a family member to the class (あなたの家族の写真をもってきて、クラスに紹介してください) 第11回 L4 : Geography in English(英語での地理) country names (国の名前) citizens (国民の名前) 第12回 L4 : continue City names (市の名前) languages spoken (話される言語) 第13回 Workbook L4 ex.1 Z2 Dictation / languages (ディクテーション) talking about the weather(気候について話す) 第14回 Text L4 : continue occupations (職業) Negative answers (否定の回答) 第15回 LL4 : Naomi meets Bill Focus on the meaning (教材の意味を読み取る) Writing it out LL4 (教材の内容を書き取る) </td> </tr> </table> 《授業外に行うべき学習 (予習・復習、準備学習等)》 授業で学習した内容について、確認し、考えて、次の授業に出席する事。 《標準学修時間の目安》 ・次回の授業までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							第1回 Orientation (オリエンテーション) Written assignment (筆記課題) Introduce yourself (自己紹介) 第2回 Lesson 1 Getting Acquainted (クラスで親密になる) Interview a classmate(クラスメートにインタビュー) 第3回 Getting Acquainted - 2 Report to the class last week's interview, etc. (先週のインタビューを報告、等) Dictation (ディクテーション) 第4回 Lesson 2 Adjectives (形容詞) Negative Forms (否定形) 第5回 Yes/No Answers (はい・いいえを答える) Positive Questions (肯定形の質問) Negative Questions (否定形の質問) 第6回 Singular & Plural (単数形、複数形) Contrary Adjectives (反意語) Quiz : Find natural A/B pairs (自然な組合せ) 第7回 L3 : 'Here on business' Focus on meaning 'a' 'an' ? (a, anの意味) 第8回 L3 : continue Dictation (ディクテーション) more contrary adjectives (反意語)	第9回 Hand-out Quiz find natural pairs (自然な組合せ) Family relationships (家族関係) 第10回 Bring a photo of your family and Introduce a family member to the class (あなたの家族の写真をもってきて、クラスに紹介してください) 第11回 L4 : Geography in English(英語での地理) country names (国の名前) citizens (国民の名前) 第12回 L4 : continue City names (市の名前) languages spoken (話される言語) 第13回 Workbook L4 ex.1 Z2 Dictation / languages (ディクテーション) talking about the weather(気候について話す) 第14回 Text L4 : continue occupations (職業) Negative answers (否定の回答) 第15回 LL4 : Naomi meets Bill Focus on the meaning (教材の意味を読み取る) Writing it out LL4 (教材の内容を書き取る)
第1回 Orientation (オリエンテーション) Written assignment (筆記課題) Introduce yourself (自己紹介) 第2回 Lesson 1 Getting Acquainted (クラスで親密になる) Interview a classmate(クラスメートにインタビュー) 第3回 Getting Acquainted - 2 Report to the class last week's interview, etc. (先週のインタビューを報告、等) Dictation (ディクテーション) 第4回 Lesson 2 Adjectives (形容詞) Negative Forms (否定形) 第5回 Yes/No Answers (はい・いいえを答える) Positive Questions (肯定形の質問) Negative Questions (否定形の質問) 第6回 Singular & Plural (単数形、複数形) Contrary Adjectives (反意語) Quiz : Find natural A/B pairs (自然な組合せ) 第7回 L3 : 'Here on business' Focus on meaning 'a' 'an' ? (a, anの意味) 第8回 L3 : continue Dictation (ディクテーション) more contrary adjectives (反意語)	第9回 Hand-out Quiz find natural pairs (自然な組合せ) Family relationships (家族関係) 第10回 Bring a photo of your family and Introduce a family member to the class (あなたの家族の写真をもってきて、クラスに紹介してください) 第11回 L4 : Geography in English(英語での地理) country names (国の名前) citizens (国民の名前) 第12回 L4 : continue City names (市の名前) languages spoken (話される言語) 第13回 Workbook L4 ex.1 Z2 Dictation / languages (ディクテーション) talking about the weather(気候について話す) 第14回 Text L4 : continue occupations (職業) Negative answers (否定の回答) 第15回 LL4 : Naomi meets Bill Focus on the meaning (教材の意味を読み取る) Writing it out LL4 (教材の内容を書き取る)							
使用教科書 なし								
参考書 An English dictionary								
評価方法 筆記試験、宿題提出、授業態度を総合して評価する。								
その他 テキストは、プリントで対応する。								

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
外国語(仏語)	10071	竹花和晴	1	前期	演習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 フランス語はヨーロッパ諸語の中で最も重要な言語の一つであります。また、全世界的な学術と外交用語でもあります。文化や経済等の国際交流が発展するなかで、フランス語は益々その重要性を増しつつあります。 本授業は保育学科の学生を対象としており、フランス、カナダ、スイス、ベルギー、アフリカ等のフランス語圏諸国で現在話されている生きた会話を学習すると共に、調理レシピ(recipe)や文献の読解への道筋を開くことの契機にしたいと考えております。 《到達目標》 1 フランス語独特の発音を習い、実際に発音できる。 2 フランス語独特の表記を習い、書く事ができる。 3 フランス語で簡単な会話ができる。 4 フランス料理のレシピを読むことができる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 フランス語の歴史、現在のフランス語、日本におけるフランス語等について 第2回 フランス語独特の発音や表記等について 第3回 フランス語独特の発音や表記、数字の発音 第4回 教科書第1課の規則動詞と助動詞を伴う会話 第5回 教科書第2課の「旅先の宿泊施設での会話」(上) 第6回 教科書第2課の「旅先の宿沖施設での会話」(下) 第7回 教科書第3課の「フランスの生活」と不規則動詞等について 第8回 教科書第3課の「フランスの生活」と数と伴う会話 第9回 教科書第4課の「観光と乗り物」(上)に伴う会話 第10回 教科書第4課の「観光と乗り物」(下)と否定文等について 第11回 「フランス料理のレシピ」1(原文)の読解 第12回 「フランス料理のレシピ」2(原文)の読解 第13回 「フランス料理のレシピ」3(原文)の読解 第14回 全授業の「まとめ」1 第15回 全授業の「まとめ」2 《授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習等)》 授業で学習した内容について、確認し、考えて、次の授業に出席すること。 《標準学修時間の目安》 次回までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。						
使用教科書 「LE FRANCAIS POUR LE VOYAGE」(やさしく学ぶ旅のフランス語), 中村敦子, 第三書房, ISBN4-8086-2147-9 C1085						
参考書 「仏和辞書」中または小辞典(出版社は随意)						
評価方法 授業への出席と学期末の試験を総合して評価する。						
その他 外国語習得の要諦は、第一にたゆまざる学習の継続であるとおもわれる。そして、学習したことを、理解し、応用できることであると考えられる。						

科 目 名	教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単位数
外国語(中国語)	東出隆司	1	前期	演習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 現代は多言語の時代と言われています。アジアの言語の一つとして、中国語を学んでみましょう。一つの外国語を学ぶことは、一つの新しい扉を開けることと同じと言えます。保育ということも担うにも広い視野がますます求められています。その国の言葉を学ぶということは、その国の文化そのものを学ぶことにもなります。日本と中国両国は歴史的にも長い交流があることはご存知の通りです。また、両国の言語は漢字を使って表現するという点で、日本人にとって大変馴染みやすい言語です。近年、隣国中国は経済的にも目覚ましい発展をとげ、その影響力も近年ますます強くなってきています。この中国語の学習を通して、日本文化の源である中国文化にも触れていただけることを嬉しく思います。言葉はコミュニケーションの道具ですので、まずは授業を通して、中国語を使って自己紹介ができるようになる程度の語彙と発音、表現などを身につけることを目標とし、一緒に学びましょう。 《到達目標》 中国語を使って自己紹介ができる。					
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回と2回 先ず中国語全体の特徴と構成を把握していただきます。中国語を発音する為のピンインを学び、中国で使われている簡体字の仕組みなどを学びます。ここでは、中国語全体の理解に努めて下さい。映像なども見て学習します。 第3回 発音のチェックと声調(四声)の確認をします。日本語にはない“声調”と幾つかの特徴ある発音とその音の出し方を学びます。発音はこの後も適宜チェックを繰り返しながら進められます。中国語では“音”をどう捕まえるかが大事な要素となります。表現法や漢字を使っているなどの共通の点も多いので学習自体は難しくないとはいえませんが、“音”が離れています。この点を少し時間をかけて学びます。 第4回 自分の名前の中国語での表記と発音を勉強します。同時に中国語での基本的な挨拶の言い方を学びます。これから自己紹介は始まります。 第5回 数字を学習します。数字は月日や時間、年齢、買い物などの様々なシーンで必要となりますので、しっかり学習しましょう。 第6回 簡単な疑問文を学びます。相手に何かを尋ねる、逆に尋ねられて時の答え方などを学びます。主に前回は習った数字を使ってのやりとりとなります。 第7回 家族の紹介の仕方を学びます。親族の呼称や、人数、年齢の言い方などを同時に学びます。これで、自分や家族の紹介が出来るようになります。 第8回 この回は、語彙を少し増やす勉強をします。自分の趣味に関するもの、職業、好み、などの表現ができるようそうした語彙を使いながら学びます。自分が何がすきかを表現できるようになります。 第9回 時間の表現を学びます。自分の一日の行動について言えるようにし、また、年月日を定める表現、疑問詞を使っての疑問文の作り方を学び、いつ何をするかを言えるようにします。 第10回 可能な表現を学び、自分は何ができるか、何が得意か、が言えるようにします。またその事を相手に尋ねられるようにもします。 第11回 二者択一疑問文や、方法、理由を尋ねる疑問文を学び、それらを使って相手に尋ねる、そうした疑問文に答える練習をします。 第12回 自分の意思を表す表現法と、禁止の表現を学びます。このことで、自分がして欲しいこと、自分がしたいこと、して欲しくないこと、などの表現ができるようになります。 第13回 比較の表現、動作の持続表現などを学びます。また、誰々に～にさせるという使役の表現を学びます。 第14回 様々な補語を取り入れた表現を使って、その程度や、可能性、結果などが表現できるようにします。 第15回 これまで習った語彙や表現方法を使って、自分のことを中国語で紹介できるように文を作り発表して貰います。これは、自分の中国語での発音が相手に正しく伝わっているかどうかの確認となります。どんなに素晴らしい文でも伝わらなければ意味がありません。さらに、その自己紹介に対しての中国語での簡単な質問に、中国語で答えることが出来るよう準備します。これができることで、この間の中国語の学習が総合的に理解できたと判断できることとなります。 《授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習等)》 殆どの方が「中国語」を学ぶのは初めてという方ですので、当初は予習よりも復習を重点に行います。「中国語」の「音」をどう捉えるかが最初の段階で一番の課題となります。ですので、出来るだけ多く聴く機会を持つことが肝心です。その意味では、コンピューターを利用したり、NHKの中国語講座などもありますので、折に触れて自分から積極的にそうした機会を作ってください。ピンインが読めるようになった段階では、今度は自分から積極的に発音してみ、その自分の「音」が正確かどうかを互いに確かめたりすることが進歩に繋がるといえます。外国語はどの言語でもそうした積極性が大切だと思います。 準備学習はピンインが読めて、正確に発音出来るようになった段階から図書館の資料や辞書などを活用し語彙数を増やすよう努めましょう。復習はそうした意味からも、自分の音を確認することに多くを費やして下さい。 《標準学習時間の目安》 ・毎週1回の授業あたりその週のうちに1時間程度の予習と、1時間程度の復習時間を持つことを目指す。とりわけ初めは中国語の“音”が大切です。その“音”を取るには積極的に、NHKテレビまたはNHKラジオの中国語講座を視聴するなどし、授業以外でも“音”に触れて貰いたいと思います。放送時間に合わない場合、録画・録音または再放送を活用し、出来るだけ“音”に多く触れるようにする。また、折に触れてテキスト付属のCDを聴くことに努め、これにより、週の間にそれぞれ予習・復数合わせて2時間の自主学習時間を持ち、授業時間と合わせて4.5時間の学修時間を目指すこととする。					
使用教科書 『中国語のToBiRa(トビラ)』趙秀敏 富田 昇 共著 ISBN978-4-255-45220-3					
参考書 NHKラジオテキスト「まいにち中国語」・テレビテキスト『テレビで中国語』 「日中辞典」「中日辞典」小学館					
評価方法 折に触れ、簡単な小テストをおこないます。これはここまで習った単語の習熟度を知る為のものです。 期末最終講日に、口試(口頭)試験を実施します。各人が自分のことを中国語で自己紹介をして貰います。実施要綱は授業で説明します。これが出来れば中国語の基本が全てこの自己紹介の中で試すことができます。発音・四声・そり舌音・文の構成・語彙・消化する積極性などが試されます。 筆記(筆記)試験もあります。語彙・ピンイン・簡体字などの理解度を試されます。 小テスト、口試、筆記の三つの成績を合わせて評価いたします。					
その他 函館大学図書館は、中国関係書籍が充実しております。時間がありましたら、行って見て下さい。中国の留学生もおられますので、機会がありましたら交流して見ましょう。また、コンピューター上には、中国語学習関係のサイトも多数ございますし、中国の雅虎やフーなども覗いてみて下さい。					

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
体育実技(フィットネス)	10072	原 崎 千鶴子	1	前期	実技	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 健康、体力づくりに必要な安全で効果的な有酸素運動、筋力トレーニング、ストレッチの基本動作を習得し、生涯にわたり楽しく実践できる運動方法を身に付けることを目的とする。 具体的には、有酸素運動で心臓や肺の働きを改善し運動不足を解消させ、筋力トレーニングで骨や筋の働きを改善し障害予防、関節、靭帯に負担をかけない正しいストレッチ方法で柔軟性を回復させる動きを習得することを目的とする。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活でも活用できる立位、座位、仰臥位などでの正しい姿勢を身に付けられる。 ・楽しく安全で効果的な有酸素運動（エアロビックダンスなど）を体験できる。 ・目的に合った筋力トレーニングを安全で効果的に実践でき、障害予防に役立てられる。 ・正しい姿勢でのストレッチの方法を学び柔軟性を高められる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 フィットネスの効用についての解説とトレーニングマシンの使い方の説明 第2回 障害予防の筋力トレーニングと柔軟性の向上のストレッチの実践 第3回 有酸素運動（低強度）、筋力トレーニング、ストレッチ 第4回 有酸素運動（低強度）、筋力トレーニング、ストレッチ 第5回 有酸素運動（低強度）、筋力トレーニング、ストレッチ 第6回 有酸素運動（低強度）、筋力トレーニング、ストレッチ 第7回 有酸素運動（中等度）、筋力トレーニング、ストレッチ 第8回 有酸素運動（中等度）、筋力トレーニング、ストレッチ 第9回 有酸素運動（中等度）、筋力トレーニング、ストレッチ 第10回 有酸素運動（中等度）、筋力トレーニング、ストレッチ 第11回 有酸素運動（中等度）、筋力トレーニング、ストレッチ 第12回 有酸素運動（中等度）、筋力トレーニング、ストレッチ 第13回 グループ分けと練習 第14回 グループ練習 第15回 グループ別実演発表 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 復習：運動習慣を身に付けるために、授業で体験した運動を各自のライフスタイルにあわせて適時取り入れること。 予習：習得したい自身に合ったエクササイズをあらかじめ決めて提出すること。						
使用教科書 特になし						
参考書 フィットネス基礎理論						
評価方法 授業態度及び実技テストによる総合点						
その他 第1回目から軽く運動します。 身だしなみを整えて運動するのに相応しい服装で(基本的にジャージを着用)、シューズを履き受講すること。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
体育実技(球技)	10072	小越康雄	1	前期	実技	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 3種目の室内球技(バドミントン・バスケットボール・バレーボール)を通して、それぞれの技術の向上と体力の維持増進を図り、さらに、他者とのコミュニケーション能力を養うことを目指す。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・各種目特有の動きを身につけることができる。 ・各種目のルールを説明することができる。 ・積極的に参加することにより運動量を増やすことができる。 ・コミュニケーション能力を高めることができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回:オリエンテーション(体育実技における留意点の説明)・からだ慣らし 第2回:バドミントン①(ラケットの握り方、シャトルの打ち方、ルール説明) 第3回:バドミントン②(ストローク、クリアー、ドライブ、ミニゲーム) 第4回:バドミントン③(ストローク、サービス、-halfコートシングルのゲーム) 第5回:バドミントン④(シングルのゲーム、ダブルスゲームのゲーム) 第6回:バスケットボール①(ボール慣れ、パス、ドリブル、シュート、ルール説明) 第7回:バスケットボール②(ランニングパス、ドリブルシュート、halfコートの3対3) 第8回:バスケットボール③(各種パス・ドリブル・シュート、halfコートのゲーム) 第9回:バスケットボール④(オールコートのゲーム) 第10回:バスケットボール⑤(オールコートのゲーム) 第11回:バレーボール①(ボール慣れ、パス、レシーブ、サーブ、ルール説明) 第12回:バレーボール②(パス、レシーブ、サーブ、アタック) 第13回:バレーボール③(パス、レシーブ、サーブ、アタック) 第14回:バレーボール④(ゲーム) 第15回:バレーボール⑤(ゲーム) 《授業外に行うべき学習(予習・復習、学習準備等)》 バドミントン・バスケットボール・バレーボールについて普段から関心を持ち、インターネットや新聞・テレビ等、様々なものに目を通すこと。						
使用教科書						
参考書 なし						
評価方法 授業内において、バドミントン・バスケットボール・バレーボールの実技試験を行う(得点配分80%)、授業参加態度(20%)を考慮し、総合的に評価する。						
その他 運動靴、ジャージ着用						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
保健体育	10073	小越康雄	1	後期	講義	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 健康を維持するためには、日々の生活習慣が重要である。本講義では健康の概念をはじめ、健康増進の施策や健康管理の方法について学び、自らの健康の維持に役立てる能力を養うことを目標とする。 また、現代の日本が抱えている健康の問題点や国民の健康増進に関する基本的な方向、目標等を理解するため、健康管理に関連のある最新情報を紹介し、生涯にわたり心と体を健康に保つための知識を広く解説する。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会が抱える健康課題について説明できる。 ・わが国の健康の現状について説明できる。 ・健康増進の取り組みについて説明できる。 ・健康づくりのための運動や栄養について説明できる。 ・健康管理の具体的方法について説明できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回：オリエンテーション・健康のとは 第2回：疾病の予防 第3回：健康の現状 第4回：傷病の現状 第5回：健康増進の施策 第6回：健康づくり行政 第7回：健康日本21 第8回：健康づくりの課題 第9回：運動と健康 第10回：栄養と健康 第11回：休養による健康づくり 第12回：飲酒と喫煙 第13回：健康管理の方法 第14回：職場の健康管理 第15回：全体まとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、学習準備等）》 教科書、ノート、及び授業内で配布するプリントをよく復習すること。さらに、授業で取り上げる関連内容について普段から関心を持ち、インターネットや新聞・テレビ等、様々なものに目を通すこと。 《標準学修時間の目安》 ・次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。						
使用教科書 イラスト健康管理概論, 朝山正己ほか, 東京教学社, ISBN 9784808260354						
参考書 なし						
評価方法 定期試験、授業参加態度により総合的に評価する。						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
情報機器の操作 I	10130	渡辺真保	1	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 多くの職場、学校、家庭で利用されているワードの基本～中級レベルの操作方法を習得すると同時に、ビジネス文書の体裁を覚え、パソコンを使用して、社会人として適切な文書・資料を作成することができるようになることを目標としています。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft(R) Windows(R)の基本操作を習得する ・ データを正確に、ある一定以上のスピードで入力できる ・ 表、図、イラスト、写真を含めた文書を体裁よく作成できる ・ ビジネス文書の体裁を覚え、適切な社内文書・社外文書を作成できる ・ 電子メールの送受信ができ、安全な利用方法が理解できる ・ インターネットを利用して情報の検索・収集ができ、安全に利用することができる 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 Windowsとアプリケーションソフトの画面構成、文字入力 第2回 エクスプローラー、コントロールパネル、文字の変換と訂正 第3回 辞書機能、文書の保存と読み込み、印刷 第4回 フォルダーの作成と削除、文字・文の複製・削除・移動 第5回 ショートカットメニュー、文字・段落の編集機能 第6回 ガジェット、表の作成と編集 第7回 電子メール、ビジネス文書、文書作成演習問題 第8回 ファイルの検索、クリップアート 第9回 ワードアート、図形描画 第10回 インターネット・エクスプローラー、スマートアート 第11回 段組み、ドロップキャップ、ページ罫線 第12回 はがき作成（文面・宛名面） 第13回 差し込み印刷、グラフの挿入 第14回 DTP機能 第15回 総復習 《授業外で行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学習した操作を復習し、質問がある場合は、次回の授業までにまとめておくこと。 ・ 毎回課題を出すので、完成させておくこと。 ・ 次回の授業でカバーする箇所に目を通しておくこと。 《標準学習時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回の授業にあたり予習・復習を含めて2時間の学習が望ましい。 						
使用教科書 30時間でマスター Word2010, 実教出版, ISBN978-4-407-32092-3 実践ドリルで学ぶ Office活用術2010対応, NOA出版						
参考書 知りたい操作がすぐわかる Word2010全機能Bible, 西上原 裕明,技術評論社,ISBN-13: 978-4774144283						
評価方法 定期試験、課題提出、授業態度を考慮し総合的に評価します。						
その他 学習内容を定着させるために、ほぼ毎回課題を出します。 わからないところがある場合は、授業の時だけでなく、電子メールでの質問も受け付けますので、積極的に質問し解決するようにしてください。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
情報機器の操作 I	10130	山崎 幸路	1	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 パソコンをはじめとする情報機器は、文書・資料を作成し、情報を発信するための道具となっています。パソコン操作を通じて、文書作成を中心に学習します。総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶことが授業の目標です。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft(R) Windows(R)の基本操作を理解し、実務的な操作画面のレイアウトができる ・ インターネットを活用し、情報検索、メールの送受信ができる ・ キーボード操作のタッチタイプの基本を理解し、正しい操作で入力ができる ・ 言語バーと文字変換システムを理解し、文書入力支援のカスタマイズができる ・ ワード編集機能を使って文書作成、地図作成、図形描画と編集ができる ・ 外部データを利用してグラフ挿入し、データ編集ができる ・ DTP機能を理解し、高度なレイアウトと効果的な配色となる文書編集ができる 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 ログインとファイル管理。タッチタイプの基本と習得方法 第2回 インターネット検索。文字変換と記号入力。辞書の利用 第3回 文書入力。書式設定。印刷プレビューと実行。ショートカットキーの活用 第4回 オートコレクト、均等割り付け、網掛けなどを使った文書編集 第5回 表の作成と編集を使った文書編集 第6回 クリップアート、ワードアートを使った文書編集 第7回 図形描画、テキストボックスを使った文書編集 第8回 段組み、ドロップキャップ、ページ罫線を使った文書編集 第9回 はがき作成、アドレス帳の作成、フォーム入力、宛名印刷 第10回 エクセルデータ等の外部データの差し込み印刷 第11回 グラフ挿入とデータ編集 第12回 DTP機能活用、フォント知識、テンプレート、グリッドの設定 第13回 DTP技術の基本操作、写真挿入とトリミング 第14回 高度なDTP技術、テキストボックスのリンク、配色とレイアウト 第15回 実務的複合文書作成練習 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 【予習】 別途プリント配布する〈授業ノート〉とテキストとを併読し、テキストに必要事項を書き込みます。どのようなスキルの学習がなされるのかおおまかに把握しておきます。 【復習】 テキストを読み、実際にパソコンの画面を見ながら操作して、授業内容と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された課題を授業ノートやテキストを参考にして操作演習して課題を完成させます。 《標準学修時間の目安》 1回の授業あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である						
使用教科書 30時間でマスター Word2010, 実教出版, ISBN879-4-407-32092-3 実践ドリルで学ぶ Office活用術2010対応, NOA出版						
参考書 知りたい操作がすぐわかる Word2010全機能Bible, 西上原 裕明, 技術評論社, ISBN-13: 978-4774144283						
評価方法 実務的成果物の課題作成能力を評価する。授業態度・課題取り組み姿勢も評価対象として重視する。						
その他 まだパソコンに慣れていない学生から十分に操作知識とスキルのある学生まで、現在のスキルの幅を考えて、ゆっくりな速度で高度な内容を含めて学習していく。適宜ノートを取る。連続性のある授業であるため、極力遅刻と欠席をしないように。また遅刻、欠席をした場合はシラバスを見たり、友人に聞いたりして進んだページを自学学習しておくこと。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
情報機器の操作Ⅱ	10230	渡辺真保	1	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 「情報機器の操作」では、パソコンの基本～中上級程度の操作を習得し、社会で幅広く活用できる技術を身につけることを目標としています。 後期は、主にMicrosoft®Excelの操作を学習し、データの正確な入力、集計、分析、及びその結果の効果的な表現方法を身につけます。また、実際の業務の中でどのように生かすことができるかを理解します。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・正確かつ効率的にデータ入力ができる ・計算式・関数を理解し、適切に使用できる ・目的に合わせて適切なグラフを選択し効果的に利用できる ・データベース機能を理解し、抽出・並べ替え・集計ができる ・実務を効率的に行うために、エクセルの適切な機能を選択し活用できる 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 エクセルの概要、データ入力、SUM関数 第2回 グラフ作成と設定の変更、印刷、オートフィル 第3回 行・列の編集、データの編集、AVERAGE関数、セル番地の相対参照 第4回 表示形式の変更、文字位置の指定、便利なデータ入力の方法、罫線 第5回 オートカルク、セルのスタイル、割合の計算とセル番地の絶対参照 第6回 表示形式・文字属性の変更、MAX・MIN関数、COUNT・COUNTA関数、セルの保護 第7回 ROUND・ROUNDUP・ROUNDDOWN関数、IF関数、ネスト 第8回 条件付き書式、スパークライン 第9回 グラフ作成と設定の変更(棒) 第10回 グラフ作成と設定の変更(折れ線・円) 第11回 グラフ作成と設定の変更(3-D・絵グラフ)、オートコンプリート 第12回 ウィンドウ枠の固定、日付の表示、ふりがなの表示、データの並べ替え 第13回 データの抽出、データの集計 第14回 RANK.EQ・LARGE・SMALL関数、VLOOKUP関数 第15回 総復習 《授業外で行うべき学習(予習・復習、準備学習等)》 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した操作を復習し、質問がある場合は、次回の授業までにまとめておくこと。 ・毎回課題を出すので、完成させておくこと。 ・次回の授業でカバーする箇所に目を通しておくこと。 《標準学習時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業にあたり予習・復習を含めて2時間の学習が望ましい。 						
使用教科書 30時間でマスター Excel2010, 実教出版, ISBN978-4-407-32093-0 実践ドリルで学ぶ Office活用術2010対応, NOA出版						
参考書 知りたい操作がすぐわかる Excel2010全機能Bible, 高橋 慈子 八木 重和, 技術評論社, ISBN-13: 978-4774145532						
評価方法 定期試験、課題の提出、学習態度により評価する						
その他 学習内容を定着させるために、ほぼ毎回課題を出します。 わからないところがある場合は、授業の時だけでなく、電子メールでの質問も受け付けますので、積極的に質問し解決するようにしてください。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
ボランティア実習 I	10340	佐々木 茂	1	その他	実験・実習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 現代社会においては、協力協同の精神を培うことがますます重要となっている。保育所・幼稚園・福祉施設などのボランティア活動を通して、地域の構成員が互いに協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。 《到達目標》 保育所・幼稚園・福祉施設などの地域活動を支援するなど実際に体験することにより、将来、社会の担い手となることの自覚を深めるとともに、協力協同、地域連携などが重要であることの意識を高める。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 実習先の指示に従うこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の内容、主催する団体の代表者、所在地などの情報を事前に集め、単位認定の対象となる活動であるか、事前に担当教員と相談する。 ・単位認定の対象となるボランティア活動は、本学に依頼のあった社会的地域活動（保健・医療・福祉・教育等）のほか、学生が自発的に参加する社会的地域活動（保健・医療・福祉・教育等）などとする。 ・学生が自発的に参加する活動に関しては、担当教員が活動内容を確認する。 ・活動内容などによっては、ボランティア保険などへの加入が必要となることもある。 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 実習先のパンフレットやホームページで予め必要な情報を収集して、予備知識を増やすこと。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・1回のボランティアにつき、報告書の作成に1時間程度必要である。 						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員から承認されたボランティア活動の累積の時間数が30時間以上となった場合に単位を認定する。 ・評価は、活動終了後に学生が提出する活動内容などを記した報告書により行う。 						
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・活動時間などを記したボランティア報告書の記載をしっかりとすること（主催者などの確認印のないものは、単位の対象とならない）。 						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
コンソーシアム基礎教養I～IX	10081-10089	キャンパス・コンソーシアム函館	1・2	その他	その他	1又は2
授業目標・到達目標 毎年度、前期・後期に発行される単位互換対象科目について、キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで確認することができる。 キャンパス・コンソーシアム函館を構成している、高等教育機関は公立はこだて未来大学、函館大谷短期大学、函館工業高等専門学校、函館大学、函館短期大学、北海道教育大学函館校、北海道大学水産学部、ロシア極東連邦総合大学函館校の8高等教育機関である。 履修には単位互換システムによる履修手続きが必要となる。 どの科目を選択するかは、自分で決めること。 開講科目の内容レベルは、提供している大学・短大・高専と同じである（受講生のレベルに合わせてくれない。）。 コンソーシアム基礎教養I～V（1年次生対象） コンソーシアム基礎教養VI～IX（2年次生対象） コンソーシアム基礎教養V、Ⅷ、IXは1単位科目が対象となり、その他は2単位科目である。 単位互換科目を開講している高等教育機関まで受講のための、往復の時間を考慮すること（注意：函館短期大学で専門科目を受講している週日に、単位互換科目を受講するのは、難しい。）。						
講義計画・準備内容 単位互換科目の対象となる科目について、キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで確認することができる。 《講義計画》 第1回～第15回 キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで確認してください。 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 開講科目のシラバスに沿って、担当教員の指示にしたがい、準備学習を行うこと。						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 単位互換科目であるので、提供大学の担当者による評価、開講時のシラバスで確認すること。						
その他 キャンパス・コンソーシアム函館の単位互換システムによる科目である。毎年度の前期・後期に案内パンフレットが発行される。募集パンフレットは玄関ロビーのラックに、募集ポスターはその都度（集中講義で実施するものもある）掲示されるので、注意して見落としのないようにすること。 受講には、対象科目を開講している高等教育機関まで出向く必要があるため、所属機関の授業時間割との関係を十分考慮すること。 夏・冬季休み中の開講は、実習等の期間を考慮すること。						

科 目 名		教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単 位 数
教養ゼミナール(SL) II	10210	保育学科教員	2	通年	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 本学の建学の精神である学園三訓の理念に則り、学生生活及び将来の進路に関して、学生と教員が相互に交流し学ぶことによって、社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。						
《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において感謝の念を常に抱き、自己の行動に責任を持ちつつ他者を労わる人間性を備えることができる。 ・社会生活全般において協調する姿勢を示し、健康な判断と正義を尊重し、円満な人間関係を築くことができる。 ・専門職業人として自律した生活を実践することができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 学科および担当教員の指示に従うこと。 <ol style="list-style-type: none"> ① 年度当初は、各SL単位で年度の活動方針、内容の決定、SL長等の役割分担について検討する。 ② 授業目標に示す通り、2年次は就職を意識した授業展開となることから、個別のSLに加えて、就職活動に関する合同SLを複数回開催する。 ③ 個別SLのテーマは各教員と学生が協議し、設定する。 ④ 年間行事予定に即して、スポーツ大会、学園祭の準備等を適宜計画し、実施する。 ⑤ 交通安全講話等の合同SLは学生部等により別途計画し、実施する。 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ＊各担当教員と良くコミュニケーションを図り、指示された必要な準備をして参加すること。						
使用教科書 なし						
参考書 使用する場合があるが、担当教員の指示に従うこと。						
評価方法 履修した学年の学年末において、他の授業科目の評価方法に準じて、合格・不合格の判定及び学習評価を行うものとする。 なお、前期末の学習評価及び評点による成績評価は行わない。						
その他 その他必要な事項は担当教員の指示に従うこと。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数		
社会人基礎論Ⅱ	10220	加納洋人／林原和哉 黒澤香織／村木永親	2	前期	講義	1		
授業目標・到達目標 《授業目標》 学生生活と異なる社会人・職業人としての自覚を育て、社会に出て行くための準備を行う。実社会で生きてゆくためのマナーや社会常識を身につけるとともに、仕事に取り組む心構えや仕事を進めていく上で必要となる実践的能力を養う。さらに、組織の中で、いかに自己実現を図るか、良好な人間関係を築くためには、どう他者とコミュニケーションをとってゆけばよいかなど考える。 《到達目標》 ① 社会人としての基礎・基本である「読んで書く能力」を身につける。 ② 社会人としての基本的マナーを身につけ、良好な人間関係を築くことができるコミュニケーション能力を養う。 ③ 新聞、テレビのニュース、報道番組に関心を持ち、社会人として自分で考える能力を身につける。就職試験の時事問題を解くことができるようにする。 ④ 就職活動で必要となる企業研究、履歴書・エントリーシートの書き方、面接試験、グループディスカッションなどの力を身につける。自身のキャリアを将来、どう築いてゆくか選択できるようにする。								
講義計画・準備内容 《講義計画》 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 内定への道程（就職活動の流れを把握する） 第2回 企業研究（求人票の見方とネット情報の利用） 第3回 書類選考の突破（エントリーシートと履歴書の作成） 第4回 応募書類の送付と到着のフォロー（応募鑑の作成・発送方法選択・電話でのフォロー） 第5回 面接試験への備え（自己分析と時事問題の情報収集） 第6回 個人面接試験対策（基本と自己PR） 第7回 集団面接試験、グループディスカッション対策（基本とコミュニケーション力） 第8回 新聞を読んで考える。小論文の書き方、論の進め方。 第9回 現代社会の特徴は何か。トレンドをどう捉えるか。ファッション、音楽、映画など現代社会の特徴を、マスメディアからとらえてみよう。ヒット商品を考えてみよう。 第10回 政治、経済問題など現代日本が抱える諸問題を新聞、テレビなどを通じて考えてみよう。諸問題にどう対応するか、自分で考える能力を身につける。 《授業外に行うべき学修（予習・復習、準備学習等）》 普段から新聞等で情報を得て整理する。配布プリントを読んで復習をする。 《標準学修時間の目安》 1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第11回 時事問題でディスカッションをしてみよう。他者を説得するためにはどうすればよいか。自分の意見をどうまとめ、どう発表するか。 第12回 職場でのコミュニケーション *コミュニケーションのための留意点 *円滑なコミュニケーションのために *仕事での態度行動 *指示、受け方報告、連絡、相談（ホウレンソウのあり方） 第13回 総合ビジネスマナー① *敬語の必要性 *電話応答 *来客応対 *名刺交換 第14回 総合ビジネスマナー② *身だしなみ *入社から退社までの基本ルール *仕事での態度行動 *挨拶とおじぎ *言葉使い 第15回 社会人と会社と仕事 *職業観の確立 *仕事の原点はお客様 *接客及びクレーム対応の仕方 *PDCAサイクルで仕事を管理 （外部講師による特別講義を行う場合がある。） </td> </tr> </table>							第1回 内定への道程（就職活動の流れを把握する） 第2回 企業研究（求人票の見方とネット情報の利用） 第3回 書類選考の突破（エントリーシートと履歴書の作成） 第4回 応募書類の送付と到着のフォロー（応募鑑の作成・発送方法選択・電話でのフォロー） 第5回 面接試験への備え（自己分析と時事問題の情報収集） 第6回 個人面接試験対策（基本と自己PR） 第7回 集団面接試験、グループディスカッション対策（基本とコミュニケーション力） 第8回 新聞を読んで考える。小論文の書き方、論の進め方。 第9回 現代社会の特徴は何か。トレンドをどう捉えるか。ファッション、音楽、映画など現代社会の特徴を、マスメディアからとらえてみよう。ヒット商品を考えてみよう。 第10回 政治、経済問題など現代日本が抱える諸問題を新聞、テレビなどを通じて考えてみよう。諸問題にどう対応するか、自分で考える能力を身につける。 《授業外に行うべき学修（予習・復習、準備学習等）》 普段から新聞等で情報を得て整理する。配布プリントを読んで復習をする。 《標準学修時間の目安》 1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。	第11回 時事問題でディスカッションをしてみよう。他者を説得するためにはどうすればよいか。自分の意見をどうまとめ、どう発表するか。 第12回 職場でのコミュニケーション *コミュニケーションのための留意点 *円滑なコミュニケーションのために *仕事での態度行動 *指示、受け方報告、連絡、相談（ホウレンソウのあり方） 第13回 総合ビジネスマナー① *敬語の必要性 *電話応答 *来客応対 *名刺交換 第14回 総合ビジネスマナー② *身だしなみ *入社から退社までの基本ルール *仕事での態度行動 *挨拶とおじぎ *言葉使い 第15回 社会人と会社と仕事 *職業観の確立 *仕事の原点はお客様 *接客及びクレーム対応の仕方 *PDCAサイクルで仕事を管理 （外部講師による特別講義を行う場合がある。）
第1回 内定への道程（就職活動の流れを把握する） 第2回 企業研究（求人票の見方とネット情報の利用） 第3回 書類選考の突破（エントリーシートと履歴書の作成） 第4回 応募書類の送付と到着のフォロー（応募鑑の作成・発送方法選択・電話でのフォロー） 第5回 面接試験への備え（自己分析と時事問題の情報収集） 第6回 個人面接試験対策（基本と自己PR） 第7回 集団面接試験、グループディスカッション対策（基本とコミュニケーション力） 第8回 新聞を読んで考える。小論文の書き方、論の進め方。 第9回 現代社会の特徴は何か。トレンドをどう捉えるか。ファッション、音楽、映画など現代社会の特徴を、マスメディアからとらえてみよう。ヒット商品を考えてみよう。 第10回 政治、経済問題など現代日本が抱える諸問題を新聞、テレビなどを通じて考えてみよう。諸問題にどう対応するか、自分で考える能力を身につける。 《授業外に行うべき学修（予習・復習、準備学習等）》 普段から新聞等で情報を得て整理する。配布プリントを読んで復習をする。 《標準学修時間の目安》 1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。	第11回 時事問題でディスカッションをしてみよう。他者を説得するためにはどうすればよいか。自分の意見をどうまとめ、どう発表するか。 第12回 職場でのコミュニケーション *コミュニケーションのための留意点 *円滑なコミュニケーションのために *仕事での態度行動 *指示、受け方報告、連絡、相談（ホウレンソウのあり方） 第13回 総合ビジネスマナー① *敬語の必要性 *電話応答 *来客応対 *名刺交換 第14回 総合ビジネスマナー② *身だしなみ *入社から退社までの基本ルール *仕事での態度行動 *挨拶とおじぎ *言葉使い 第15回 社会人と会社と仕事 *職業観の確立 *仕事の原点はお客様 *接客及びクレーム対応の仕方 *PDCAサイクルで仕事を管理 （外部講師による特別講義を行う場合がある。）							
使用教科書 unicareer マガジン 短大生の就活編, 株式会社ディスコ								
参考書 なし								
評価方法 授業ごとに実施する小テスト（40%）、授業中の発言、対応能力の審査（30%）、課題・レポート審査（30%）を数値化して、総合評価する。								
その他 なし								

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
基礎生態学	10260	志賀直信	2	前期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 本授業は、今世紀の最重要課題のひとつである地球環境問題を取り上げ、現状がどうなっているのか、なぜそのような問題が起こるのか、私達はどのように対応すればよいのかなどを考えるきっかけにしたい。たとえば、温暖化ひとつを取り上げても、それはほかのさまざまな環境問題と相互に関係し、因果関係は複雑です。この問題の本質を正しく理解するうえでも、地球生態系の未来（次世代の子どもたちの未来）を考えるうえでも生態学的な基礎知識が必要です。最近話題となっているさまざまな環境問題を題材にして生態学的知識をもとにわかりやすく理解することを心がける。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・生態学の基本的な知識をわかりやすく解説することができる。 ・地球環境問題に関心を持ち、それぞれの問題点を自分なりに整理・説明することができる。 ・生物の多様な生活戦略、環境と相互作用、生物どうしのさまざまな関係を具体的に説明できる。 ・自然環境に配慮した次世代の生活の仕方について自分の考えを発表できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 はじめに生態学（エコロジー）とは 第2回 主要な地球環境問題① 第3回 主要な地球環境問題② 第4回 生態系とは（食物連鎖、生態系ピラミッド、ニッチなど） 第5回 生物多様性はなぜ大切か 第6回 遺伝子組み換え作物とは 第7回 食料自給率 第8回 外来生物と絶滅危惧種 第9回 水資源問題 第10回 エネルギー問題 第11回 食料問題 第12回 生態系と人間活動 第13回 環境教育および自然体験学習の重要性 第14回 持続可能な開発を保障する生活（次世代の生き方） 第15回 まとめ（地球生態系の未来について） 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 とくに予習の必要はないが、国内外で起こっている自然環境問題について関心をもち、授業後は資料をもとにその問題点、課題を整理しておくこと。レポート提出等は事前によく調べておく必要がある。 《標準学修時間の目安》 授業毎に次回の講義内容を知らせるので、1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。						
使用教科書 なし						
参考書 「絵でわかる生態系のしくみ」、鷲谷いずみ・後藤 章、講談社、ISBN978-4-06-154758-2 「生物多様性」、堂本暁子、岩波書店、ISBN4-00-260227-3 「正義で地球は救えない」、池田清彦・養老孟司、新潮社、ISBN978-4-10-423105-8 「ほんとうの環境白書」、池田清彦、角川学芸出版、ISBN978-4-04-653282-4						
評価方法 学期末に筆記試験（80％）を行う。授業参加態度や授業での発言（20％）も考慮し、総合的に評価する。						
その他 教科書は使用しない。環境問題に関する新聞記事・TVニュースなどをもとに作成した資料を用いる。エコロジーを身近なものにしていきたい。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
言葉と表現	10076	山形敦子	2	前期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 ・思っていることを上手く話せない・伝えたいことが相手に伝わらず誤解を招く・言葉遣いに自信がない等の悩みを少しでも解消し、話す楽しさや伝える喜びが実感できるようにする。 ・ことわざや成句・敬語などを復習しながら、声の出し方や言葉づかい・笑顔やしぐさを含む自然な表現力を身に付ける。 《到達目標》 ・社会人として求められる言葉づかいや・言い回しを身につけ、常識的な話し方を理解し実践できるようになること。 ・スムーズな会話に必要な表情やしぐさなど、トータルコミュニケーションを意識できるようになること。 ・自分がイメージする話し方・伝え方・接し方を考えながら、従来の学生言葉から社会人らしい言葉や表現への切り替えができるようになること。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 講座の内容と進め方・アンケートなど ・コミュニケーションへの悩みや不安、また授業への希望などを確認しあう 第2回 第一印象について ・あなたは人にどう見られているか・第一印象のポイントを知る 第3回 若者言葉と話し方 ・相手に応じた言葉遣いが出来ているか・言葉の乱れや変化を発見しあう 第4回 気持ちを表現するために① ・どうしたら気持ちを表現できるか・言葉の力を身につける 第5回 気持ちを表現するために② ・語彙とバリエーション・状況に合わせた言葉づかいを知る 第6回 言いたいことが言えない ・恥ずかしがりやと人づきあい～コミュニケーションの苦手意識をチェックする 第7回 話す力と聞く力 ・話上手は聞き上手・聞き上手のコツを探してみる 第8回 伝える力とコミュニケーション ・言葉以外の伝達・表情やボディランゲージの重要性を実践する 第9回 美しい日本語とは ・心を伝える日本ならではの表現・日本語の美しさを味わう 第10回 日本語の表現 ・言葉の作法、時と場所をわきまえた言葉の用い方の重要性に気づく 第11回 会話術① ・おしゃべりと会話の違い・会話の楽しさに必要なことは何かを考える 第12回 会話術② ・とぎれない会話・会話と性格の関係を探る 第13回 言葉とホスピタリティ ・もてなしの言葉とその背景を知る 第14回 敬語とマナー ・うっかり敬語やマナーなどをチェックする 第15回 講座を振り返って・トーク&アドバイス 《授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習など）》 予習・復習・準備学習などについては、その都度伝えます。（例）発表に必要な写真・エピソード・文章や詩などの資料の準備。暗唱が必要な内容など） 《標準学修時間の目安》 次回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 出席状況や授業への姿勢・ミニテストなどを総合して評価します。 上手下手に関わらず、コミュニケーションへの意欲、「表現力アップ」への熱意と関心度を重視します。 毎回のミニテストは、大人としての国語力をチェックするチャンスです。						
その他 資料は必要に応じてプリントを配布します。 プリントを素材に、社会や身近な出来事・自身の思いでや体験などを「話す」「訊く」「感想を述べ合う」などのロールプレイを重ねながら、スムーズな対人力を身につけます。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
ボランティア実習Ⅱ	10240	佐々木 茂	2	その他	実験・実習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 現代社会においては、協力協同の精神を培うことがますます重要となっている。ボランティア活動を通して、地域の構成員が互いに協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。 《到達目標》 社会福祉、教育など多種多様な支援活動を実際に体験することにより、将来、社会の担い手となることの自覚を深めるとともに、協力協同、地域連携などが重要であることの意識を高める。						
講義計画・準備内容 《授業計画》 実習先の指示に従うこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の内容、主催する団体の代表者、所在地などの情報を事前に集め、単位認定の対象となる活動内容であるか、事前に担当教員と相談する。 ・単位認定の対象となるボランティア活動は、本学に依頼のあった社会的地域活動（保健・医療・福祉・教育）のほか、学生が自発的に参加する社会的地域活動（保健・医療・福祉・教育）などとする。 ・学生が自発的に参加する活動に関しては、担当教員が活動内容を確認する。 ・活動内容などによっては、ボランティア保険などへの加入が必要となることもある。 《授業外に行うべき学習（予習・復習、事前学習等）》 実習先のパンフレットやホームページで予め必要な情報を収集して予備知識を増やしておくこと。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・1回のボランティアにつき、報告書の作成に1時間程度必要である。 						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員から承認されたボランティア活動の累積の時間数が30時間以上となった場合に単位を認定する。 ・評価は、活動終了後に学生が提出する活動内容などを記した報告書により行う。 						
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・活動時間などを記したボランティア報告書の記載をしっかりとすること（主催者などの確認印のないものは単位の対象とならない）。 						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
国際交流	10074	保育学科教員	2	後期	実験・実習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 本学科で学んだ講義や実習を通して習得した知識を基に、海外の保育・幼児教育施設を視察し、その実情を検分・体験することで、自分の進むべき分野に対する一層の認識を深める。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・見聞・体験を通して得たことをレポートに表現できる。 ・集団の行動を通して、協調性を身につけ、今後の社会生活に役立てる。 ・外国での体験に基づき価値観の違いを理解し、豊かな人間性を身につけ、それを行動で示すことができる。 ・自分で作り上げる研修を通して、能動的な学習能力を身につけ、普段の学習に役立てる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 海外研修計画に沿って、実施される。 第1回 事前研修（オリエンテーション） 第2～7回 海外研修（現地研修） 研修日程に沿って、参加者各自の目的を明確しにて、それを実行できるよう計画を立てる。 第8回 事後研修（研修報告書の作成） 研修内容の例： <ol style="list-style-type: none"> 1. 移動に伴う往復の機中泊で、時差を考え、地球の大きさを実感する。 2. 日本の常識が世界の常識としてそのまま通用するかどうかを知る。 3. 書物で知っている建造物、芸術や美術の本物に接してみる。 4. 自分達の知っている料理を本場で味わってみる。 5. 食文化の違いを肌で感じる。 6. 普段の習慣にどのような違いがあるかを知る。 7. 集団行動のなかで、自分の役割を果たす。 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 出発前に個人或いはグループ毎のテーマを決め、それに沿った準備学習を行う。 《標準学修時間の目安》 事前の各種手続き、渡航準備および帰国後の報告書作成等を合わせて、合計30時間の自主学習が必要となる。						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 事前研修態度（10%）現地研修態度（40%）及び研修報告書（50%）などを総合的に評価する。						
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・現地研修に際しては、特に体調管理に努める。 ・予備知識は、各自旅行パンフレットなどで事前に調べる。 ・選択科目である。別途費用がかかる。 ・1年次に履修することも可能である。 ・履修者数によっては、旅行会社が提供するパッケージツアーに研修内容を組み入れる場合がある。 						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
文化	交流 10075	保育学科教員	2	後期	実験・実習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会へと旅立つ学生諸君が見聞を広め、さらには自分たちの住む地域への郷土心を深めることを目標とする。また、現地の保育所を訪問し、子どもたちや職員の方々との交流を図る。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団行動を通して、協調性を身につけ、今後の社会生活に役立てる。 ・ 他地域との距離感や気候・風土などの違いに興味を持ち、自ら調べることができる。 ・ 現地の保育所を見学し、気候・風土・文化・歴史等が全く異なる地域の保育環境や子どもの特徴について学ぶ。 ・ 自主研修の内容を自ら計画し、実行することができる。 ・ 旅行の運営や進行に意欲的に参加し、学生同士や教職員との親睦を深め、積極的に思い出作りを行う。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 事前研修の中で説明する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 事前研修①（オリエンテーション） 2 事前研修②（保育所訪問に関する準備） 3 国内研修（現地研修） 4 事後研修（レポート提出） 《授業外に行う学習《予習・復習、準備学習等》》 出発前に個人あるいはグループ毎のテーマを決め、それに沿った準備学習を行う。						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 事前研修・保育所訪問準備（20%）現地研修態度（60%）レポート（20%）。以上3項目を総合的に評価する。						
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前研修の中で見学施設（保育所）の子どもたちへのプレゼント製作を行う。 ・ 現地研修に際しては、特に体調管理に気を配ること。 ・ 自主研修（自由行動）時間に際しては、研修旅行中である自覚を持って行動すること。特に安全面に注意すること。 ・ 別途、費用がかかる。 						

専門教育科目

1年次配当科目

音楽Ⅰ	25
図画工作Ⅰ	26
社会福祉	27
社会的養護	28
児童家庭福祉	29
保育原理	30
子どもの保健Ⅰ	31
乳児保育	32
教育原理	33
教育心理学	34
家庭支援論	35
健康	36
環境	37
表現	38
健康指導法	39
環境指導法	40
表現指導法A	41
表現指導法B	42
音楽基礎	43
造形表現基礎	44
保育内容総論	45
保育実習指導Ⅰ	46
子どもの保健Ⅱ	47
人間関係	48
言葉	49
人間関係指導法	50
言葉指導法	51

2年次配当科目

幼児体育	52
相談援助	53
子どもの食と栄養	54
臨床心理学	55
障害児保育	56
社会的養護内容	57
保育実習Ⅰ	58
保育実践演習	59
発達心理学	60
保育相談支援	61
総合表現	62
教職概論	63
教育課程総論	64
教育の方法と技術	65
教育相談	66
教育経営論	67
教育実習	68
教職実践演習(幼稚園)	69
幼児理解	70
音楽応用	71
保育実習指導Ⅱ	72
保育実習指導Ⅲ	73
保育実習Ⅱ	74
保育実習Ⅲ	75
レクリエーション指導法	76
レクリエーション現場実習	77
音楽Ⅱ	78
図画工作Ⅱ	79
国語	80

科 目 名		教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単位数
音 楽	I 11110	佐々木 茂／三沢 大樹 高 実希子	1	通年	演習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 子どもの遊びを豊かに展開するために必要となる子どもの発達と音楽表現の関係を理解し、音楽に関する基本的な知識（理論）や技術（ピアノおよび歌唱）を身につける。また、音楽鑑賞では、音楽を聴く耳と心を養うと同時に、クラシック音楽には、声楽曲・オーケストラ・オペラ・現代音楽など様々な形態や様式があることを知る。 《到達目標》 [初級] ・ピアノの学習に必要な楽典基礎（音符と休符・拍子・音程・音階・調性・和音・楽語）について理解し説明することができる。 ・ピアノの基礎的な演奏技術を習得し、バイエル教則本を終了する。 [中級] ・ピアノ演奏に必要な表情記号（強弱・ディナーミク・アクセント・スターカット・フレージング・ペダル）について理解し説明することができる。 ・ピアノの基礎的な表現技術を習得し、ブルグミュラー25の練習曲から3曲以上を学び人前で演奏することができる。 [上級] ・バーナムピアノテクニック [I] を教材として、ピアノ奏法の基礎（打鍵の強化、鍵盤位置の把握）を習得する。 ・表現力を深めるため、異なる時代の作曲家の作品を2曲以上学び、暗譜で人前で演奏することができる。 [歌唱] ・童謡・唱歌を教材にした斉唱・合唱を通して歌唱法の基本を身につけ、歌う事の喜びを感じることができる。 [鑑賞] ・様々な音楽を鑑賞し、それらの背景にある多様な価値観を知る。 ・バロックから現代まで、様々な時代のクラシック音楽を鑑賞し、様式の違いを理解できる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 前期： 第1回 オリエンテーション（ピアノ所属級の決定）、音楽鑑賞 第2回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第3回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第4回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第5回 音楽鑑賞（30分） ピアノ指導（60分） 第6回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第7回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第8回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第9回 音楽鑑賞（30分） ピアノ指導（60分） 第10回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第11回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第12回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第13回 ピアノ中間試験（初心者バイエル60番程度）に向けた指導 第14回 ピアノ中間試験に向けた試演会 第15回 ピアノ中間試験 後期： 第1回 オリエンテーション、音楽鑑賞 第2回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第3回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第4回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第5回 音楽鑑賞（30分） ピアノ指導（60分） 第6回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第7回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第8回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第9回 音楽鑑賞（30分） ピアノ指導（60分） 第10回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第11回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第12回 歌唱指導（30分） ピアノ指導（60分） 第13回 ピアノ実技試験に向けた指導（初心者はバイエル100番程度） 第14回 実技試験準備 第15回 実技試験に向けた試演会 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ピアノの技術習得には十分な練習が必要である。ピアノ個人練習室や自宅のピアノで毎日練習する習慣を身につけること。 《標準学修時間の目安》 1回の授業あたり予習・復習を含めて1時間以上の学修が必要である。						
使用教科書 歌唱の基礎，荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹，圭文社，ISBN978-87446-077-1 ポケット音楽辞典，音楽の友社，ISBN4-276-00018-1						
参考書 各コースあるいは各自に指定するピアノ教本。						
評価方法 ・ピアノ独奏試験[前期・後期]（90%） ・授業への積極性（10%）…合唱と音楽鑑賞に関する評価を含む。						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
図画工作 I	11120	輪島進一	1	通年	演習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 絵画、彫刻、工芸、デザイン等の各領域を横断的且つ総合的に演習し、平面・立体の表現力を高める。様々な造形表現の経験により、形や色彩等視覚的イメージ力を伸ばす。さらに手間や時間をかけて造形作品を完成させることにより、自ら達成感を味わい、抽象的・具体的思考を培い、図画工作（造形表現活動）に対する興味・関心を高める。 《到達目標》 ・色彩と形の様々な演習を通して、視覚的イメージ力や表現力を高めることができる（前半～中盤） ・立体イメージを平面上に再現することができる（後半） ・平面イメージに沿って、具象的・抽象的立体物を木片等様々な素材を駆使しながら表現できる（後半）						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回：ガイダンス 第2回：色彩の基本① 第3回：色彩の基本② 第4回：色彩配色と形の構成① 第5回：色彩配色と形の構成② 第6回：色彩配色と形の構成③ 第7回：表現の基本 第8回：造形の基本（子どもの造形から）① 第9回：造形の基本（子どもの造形から）② 第10回：壁面構成の基本①（具象的モチーフ） 第11回：壁面構成の基本②（具象的モチーフ） 第12回：壁面構成の基本③（具象的モチーフ） 第13回：言葉によるイメージ画（ちぎり絵）① 第14回：言葉によるイメージ画（ちぎり絵）② 第15回：壁面ミニチュア画制作（抽象イメージ）① 第16回：壁面ミニチュア画制作（抽象イメージ）② 第17回：壁面ミニチュア画制作（抽象イメージ）③ 第18回：子どもの造形・創造活動の場の理解① 第19回：子どもの造形・創造活動の場の理解② 第20回：園庭用立体オブジェの制作・イントロ 第21回：〃 平面表現によるイメージ画① 第22回：〃 平面表現によるイメージ画② 第23回：〃 遊べる立体オブジェ制作① ～主に木の素材を通しての制作 第24回：〃 ② 第25回：〃 ③ 第26回：〃 ④ 第27回：〃 ⑤ 配色に配慮した着色 第28回：〃 ⑥ 粘土によるアクセント 第29回：〃 ⑦ 粘土によるアクセント 第30回：〃 ⑧ 完成・合評会 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ・講義用資料（プリント類、担当者作成）を随時配布する。授業後には復習し、日頃より人間の造形文化活動や自然の形態に関心を持ち、美術展等の鑑賞を続ける。 ・実技中心であることから、完成までの時間に個人差も見られるため、授業外制作時間を必ず確保し、作品を完成させること。各自放課後制作及び自宅へ持参する。 ・制作時間等の個別調整（遅延の場合等）は各自もうける。 《標準学修時間の目安》 ・1回の演習あたり、予習・復習を含めて1時間の学修が望ましい。						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 ・実技作品・授業における課題等（得点配分80%）、授業参加態度（20%）。						
その他 備考 ・予定の計画で行うが、ほとんど実技演習であるため、時間配分に延長・短縮が出てくる場合もあるので、随時調整して進める。 ・絵の具セット、その他の道具類は造形表現基礎や表現指導法Bと重複する。 ・実技演習を行う講義のため、準備及び後片付けをしっかりと行うことも学習内容とする。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
社会福祉	13110	家村昭矩	1	前期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 「社会福祉」は、現代社会に生活する私たちにとってはなくてはならないものです。しかし、その意義や内容は、必ずしも正しく理解されていません。社会福祉のなり立ち、制度を学び、今日の様々な社会福祉問題（生活問題、少子・高齢化問題、「障害」児・者問題など）に焦点をあて、社会福祉の現状についての認識を深めます。 《到達目標》 社会福祉は人間の尊厳にかかわり、「個人の尊重」「生存権保障」を具体化するものであり、国民一人一人の「幸せ」を希求するものです。社会福祉を身近な問題としてとらえることを目標とします。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 ガイダンス（講義の概要と進め方）、保育と社会福祉 第2回 「社会福祉」を考える～社会福祉の概念 第3回 社会福祉のあゆみ①～欧米における社会福祉の展開 第4回 社会福祉のあゆみ②～日本における社会福祉の展開 第5回 社会福祉の体系①～社会福祉法制度 第6回 社会福祉の体系②～社会福祉のサービス実施体制 第7回 生活問題を考える～貧困と生存権保障（朝日訴訟、公的扶助） 第8回 少子化問題を考える～少子化と次世代育成 第9回 子ども家庭福祉問題を考える～要保護児童と自立支援 第10回 高齢者問題を考える～高齢社会と介護保険制度 第11回 「障害」児・者問題を考える①～様々な「障害」 第12回 「障害」児・者問題を考える②～障がい児・者の自立支援 第13回 地域福祉を考える～ボランティア、住民福祉活動 第14回 これからの社会福祉～先進国（スウェーデン）から学ぶ 第15回 まとめ 《授業外で行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 授業では、その時々で社会問題になっている社会福祉・生活問題などを取り入れながら進めます。日々の新聞、TVなどのニュースに関心を持ってください。 《標準学修時間の目安》 ・1講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要です。						
使用教科書 新「社会福祉とは何か」第2版、大久保秀子、中央法規出版、ISBN978-4-8058-3967-6						
参考書 毎回レジメを配布します。 適宜紹介します。						
評価方法 定期試験、毎時間のミニレポート、課題レポート、受講態度などにより総合的に評価します。						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
社会的養護	13230	川村幾代	1	後期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 社会的養護を必要とする子どもたちに関わるということは、いかに広い視野を持って相手を見つめれるかが大切になってきます。本講義では児童養護施設や里親という子どもたちが置かれている環境について学ぶことはもちろんのことそこに関わってくる虐待やDV、発達障害などについても学び、単に理解するにとどまらず、そこにある課題は何なのかを一緒に考えていきたいと思っています。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護を必要とする子どもの抱える問題は何であるかを理解する。 ・子どもとは何も力を持たされていない存在ではなく、沢山のパワーをもった存在であることに気づくことができる。 ・子どものこころに耳を傾け、気持ちを受け止めることができるスキルを身につける。 ・社会的養護を必要とする子どもの取る行動について、その深い意味も捉えて理解することができる。 ・社会的養護における児童の人権擁護と施設養護等のあり方を理解できる。 ・社会的養護の現状と課題について説明できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション 社会的養護とは何を学ぶのか 自分の子供時代を思い出してみよう 第2回 家族について考える① 胎内記憶のこと 人がうまれるという奇跡 第3回 家族について考える② 母の愛と子の愛と 世界の子どもたちにも目を向けてみよう 第4回 子どもの虐待と基礎知識 子どもが持つ力を知る 第5回 児童養護施設とは DVD鑑賞後感じた思いをまとめる 第6回 児童養護施設の生活 職員として何が出来るのか考える 第7回 乳児院とは 愛着障害 第8回 母子生活支援施設 児童自立支援施設の実例 第9回 里親について 特別養子縁組、試し行動、真実告知について学ぶ 第10回 ドメスティックバイオレンスについて 対等な関係について考える 第11回 子どもが抱える問題について学ぶ 不登校 いじめ問題 第12回 障害児者施設①知的障がい 第13回 障害児者施設②自閉症 第14回 障害児者施設③身体障がい 第15回 まとめ 今後の課題と展望 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 社会的養護を巡る現代の状況について、新聞やニュースなどのメディアを通して常に関心をもっておい て下さい。 《標準学修時間の目安》 次回の講義までに予習・復習を含めて1時間の学修が望ましい						
使用教科書 育てたように子は育つ―相田みつをいのちのことは、小学館文庫，ISBN 978-4094082364						
参考書 必要に応じてプリントを配布いたします						
評価方法 レポート内容（60%）、授業態度（40%）						
その他 なし						

科 目 名		教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単 位 数
児 童 家 庭 福 祉	13210	新 沼 英 明	1	後 期	講 義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 わが国は超少子高齢社会である。現代社会における保育士は、核家族化、少子化など子どもを取り巻く社会環境の変化によって、地域の子育て支援の中核を担わなければならない。そこで、本講義では、現代社会における子どもを取り巻く社会環境の理解を基礎とし、子ども、家庭を支援するための観点、法制度、諸施策について学習し、理解することを目標とする。また、子ども・子育て新制度の概略も理解したい。 《到達目標》 現代の子ども、子育て家庭を取り巻く社会環境について理解し、説明することができる。 児童家庭福祉の理念と子どもの権利について理解し、説明することができる。 児童家庭福祉の諸制度を理解し、説明することができる。 家庭支援における保育者の役割を理解し、実践に活かすことができる。 子ども・子育て新制度について説明することができる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション～児童家庭福祉を学ぶ意義と目的～、現代社会における児童家庭福祉 第2回 児童家庭福祉の歴史の変遷 第3回 子どもの権利擁護 第4回 児童家庭福祉の法体系 第5回 児童家庭福祉の実施体系 第6回 少子化対策と子育て家庭への支援 第7回 母子保健と健全育成 第8回 子育てと保育サービス、子ども・子育て新制度 第9回 子どもと暴力 第10回 保護が必要な子どもと支援 第11回 障害のある子どもと支援 第12回 少年非行と支援 第13回 子どもと貧困 第14回 多職種間の連携による支援 第15回 諸外国の児童家庭福祉、まとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ＊授業前には各単元のテキスト該当箇所を読んでおくこと。 ＊新聞やニュースに関心を向け、社会福祉に関する社会事象に関心をもち、理解しておくこと。 《標準学修時間の目安》 1回の講義あたり、各2時間程度の予習と復習が必要である。						
使用教科書 保育者養成シリーズ『新版・児童家庭福祉論』、山崎順子・高玉和子・和田上貴昭編著、一藝社、 ISBN 978-4-86359-094-6						
参考書 適宜紹介します。 毎回レジュメを配布します。						
評価方法 定期試験、課題、受講態度等を総合的に評価する。						
その他 特になし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
保育原理	12160	原子 はるみ	1	前期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 保育所、幼稚園、学童保育など保育施設における保育実践のあり方と理論を探究し「保育とは何か」という基本への理解を深めるために、以下に基づいて学ぶ。 1 保育の意義について理解する。 2 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3 保育の内容と方法の基本について理解する。 4 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5 保育の現状と課題について考察する。 具体的には保育所や幼稚園、学童保育での子どもたちの生活に着目し、保育内容や保育環境、援助方法などに触れながら理解し、また現代の子どもの成長・発達にはどのような環境や活動を保障することが重要であるのかを考察するなかで、保育に対する包括的な理解を得られるように学ぶ。 《到達目標》 ・保育の意義を自分なりに論じることができる。 ・保育所保育指針に記されている保育の基本を説明することができる。 ・保育計画を理解し、保育目標や方法を立案し、実践することができる。 ・諸外国や日本の保育の思想や歴史の概略を説明することができる。 ・保育の現状や今後の課題について、自分なりに考察し論じることができる						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 保育の概念、意義、目的 第2回 保育の歴史と法制度 第3回 子どもを取り巻く環境と保育の動向 第4回 子どもの発達と生活・遊び～0.1歳児の保育 第5回 子どもの発達と生活・遊び～2歳児の保育 第6回 子どもの発達と生活・遊び～3歳児の保育 第7回 子どもの発達と生活・遊び～4歳児の保育 第8回 子どもの発達と生活・遊び～5歳児の保育 第9回 保育の計画（教育課程、保育課程と指導計画） 第10回 特別なニーズのある子どもの保育 第11回 多様な保育ニーズへの支援と対応 第12回 家庭、地域との連携 第13回 子育て支援の現状 第14回 保育を取り巻く課題 第15回 まとめ 「保育をするということ」 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ・準備として保育所保育指針や資料を熟読すること。 ・授業後は講義内容について、テキストを参考にノート整理をすること。 《標準学修時間の目安》 ・1回の講義あたり、1時間の予習と3時間の復習が必要となる。						
使用教科書 保育原理，咲間まり子編，大学図書出版，ISBN4-903060-80-2 幼稚園教育要領解説，文部科学省，フレーベル館，978-4-577-81245-7 保育所保育指針解説書，厚生労働省，フレーベル館，978-4-577-81242-6 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成26年告示〉，フレーベル館，978-4577813676						
参考書 遊びの指導 乳幼児編，幼少年教育研究所編，同文書院						
評価方法 ・期末試験～60% ・ミニ課題～30% ・授業態度～10%						
その他 参考書は授業で紹介します。						

科 目 名	教 員 名	配当年次	期間	形態	単位数
子どもの保健 I	14110 松坂美奈子／上平恵美子	1	通年	講義	4
授業目標・到達目標 《授業目標》 子どもをとりまく環境は急速に変化している。未来の社会を担う子どもは、健康なからだと健全な心を持って発育・発達していかなければならない。個々の子どもが本来持っている力を十分に発揮でき、その可能性を伸ばすことができるよう、保育者は子どもの特徴をよく知っておくことが重要である。 子どもに関する知識をはじめ、子どもの生活、病気の症状と観察の要点、健康を保持・増進する保健活動について学習する。 《到達目標》 ・子どもの保健活動の意義を説明できる。 ・子どもの身体発育・生理機能・運動機能・精神発達について、ノートにまとめて表現できる。 ・子どもの生活・環境についてノートにまとめ、それを説明できる。 ・子どもの心の健康を理解し、その内容をノートにまとめることができる。 ・感染症と予防接種の概要のまとめを発表できる。 ・子どもに多い疾病及びそれぞれに対する適切な対応について説明できる。 ・保育環境整備及び衛生管理・安全管理の項目毎の内容を説明できる。 ・職員間及び家庭・専門機関・地域との連携の重要性を述べることができる。					
講義計画・準備内容 《講義計画》 前期 第1回 オリエンテーション、保健活動の意義と目的、健康の概念 第2回 健康指標（母子保健統計）、児童虐待 第3回 新生児①：新生児の用語、新生児の特徴 第4回 新生児②：低出生体重児、新生児の養護 第5回 身体発育①：発育の概念、身体発育の状況・経過 第6回 身体発育②：身体発育に影響する因子、身体の計測・評価 第7回 生理機能①：体温、呼吸、血圧、脈拍 第8回 生理機能②：感覚、排泄、睡眠 第9回 運動機能①：運動発達の発達、原始反射 第10回 運動機能②：乳児期の運動機能、幼児期の運動機能 第11回 精神発達①：言葉、情緒 第12回 精神発達②：社会性、精神発達の評価 第13回 子どもの食事：子どもの栄養の特徴、乳幼児期の栄養 第14回 子どもの生活環境：総論、各論 第15回 まとめ：1～14の範囲 後期 第16回 感染症と予防接種①：感染症とは、子どもにとって重要な感染症 第17回 感染症と予防接種②：予防接種 第18回 子どもにとって重要な感染症と性感染症① 第19回 子どもにとって重要な感染症と性感染症② 第20回 子どもにとって重要な感染症と性感染症③ 第21回 健康と病気、異常：子どもの病気の特徴、免疫とアレルギー、虫歯の予防 第22回 症状に対する対応①：発熱、けいれん、脱水症 第23回 “ ②：腹痛、嘔吐、下痢 第24回 “ ③：せき、喘鳴、発疹 第25回 乳幼児期の病気①：感染症、食中毒 第26回 “ ②：発育と栄養の障害、アレルギー、消化器の病気 第27回 “ ③：呼吸器、皮膚、眼・耳・鼻などの病気 第28回 個別的配慮が必要な場合の対応：慢性疾患児、保育上の注意点 第29回 集団保育における健康管理：意義・目的、健康管理の実際 第30回 母子保健行政：母子保健対策、職員間の連携 《授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習等）》 ・シラバスの講義計画に沿って授業前に教科書を読み、語句の読み方や意味を調べておく。 ・授業後は教科書・プリントを見直して要点を確実に覚える。 ・特に後期は、前期の内容を踏まえた上での学習なので、予習・復習は必須である。 ・乳幼児および健康に関する最新の情報を得るために、日ごろから意識して新聞やニュースを見聞きすること。 《修学時間の目安》 ・次回の講義までに予習・復習を含めて8時間の学修が望ましい。					
使用教科書 保育を学ぶ人のための子どもの保健 I、堀浩樹・梶美保 編著、建帛社、ISBN978-4-7679-5016-7 子どもの保健（第5版）・巷野悟郎編、診断と治療社、ISBN978-4-7878-2145-4 子どもの保健実習（第2版）、兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著、同文書院、ISBN978-4-8103-1424-3					
参考書 なし					
評価方法 試験、受講態度、課題への取り組み姿勢を総合的に評価する。					
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・課題等の提出期日は厳守。 ・自分の母子健康手帳を準備。 ・必要に応じてプリント配布。 ・専用ファイルの準備。 					

科 目 名	教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単 位 数
乳 児 保 育 14220	四十澤美行/新沼英明 山本三洋子/奥山早苗/甚野真美	1	通 年	演 習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 乳児保育の意義・基本を理解し、乳児の発達・生活と遊び・保育の環境・保健衛生と安全・食事・家庭や地域との連携・今後の課題について、保育者として必要な知識・技術を学ぶ。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・生命の重みを再認識し、乳児保育の意義と基本が理解できる。 ・子どもの発達・発育、言葉・愛着の発達が理解できる。 ・各月数に応じた子どもの育ちと保育が理解できる。 ・月齢に応じた児の抱き方、衣服の着脱、タッチケアができる。 ・ミルクの調乳と授乳、母乳バックスの使用、排気ができる。 ・沐浴が実施できる。 ・免疫について学び、乳児期に多い病気と対策ができる。 ・乳児保育の環境について考察できる。 ・入所時の健康診査、登園時の観察、健康状態の把握ができる。 ・薬の取り扱いと予防接種について理解ができる。 ・各時期の食行動と食の悩みがわかる。 ・乳児保育の連携について考察できる。 ・保育の計画と記録の基礎を理解できる。 ・家庭、地域との連携を学び、乳児保育の未来について考察できる。 ・「子どもの最善の利益」について考察し、発表ができる。 					
講義計画・準備内容 《講義計画》 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション こどもが心身ともに豊かに育つとは【生命の重み・心身ともに健やかに育つ】 第2回 乳児保育の意義と基本【乳児保育の意義・乳児保育のあゆみ・乳児保育の基本】 第3回 乳児保育の様々な場・子どもの育ち【発達とは・生命の誕生（ビデオ教材）】 第4回 【新生児反射・全身運動・感覚機能・知能・情緒・身体発育】 第5回 【言葉の発達・愛着（アタッチメント）の発達・】乳児と保育園の一日 第6回 【乳幼児の生活・気になる子どもへの援助】 第7回 子どもの生活と遊び【0～2ヵ月・2～5ヵ月・おおむね6ヵ月未満児の保育】 演習事前学習 第8回 演習【児の抱き方、衣服の着せ方・脱がせ方、オムツ交換、ミルクの調乳、冷凍母乳バックス作成】 第9回 【5～9ヵ月・9～13ヵ月・免疫・おおむね6ヵ月から1歳3ヶ月未満の保育】 第10回 【1歳児クラスデイリープログラム・おおむね1歳3ヵ月から2歳未満の保育】 第11回 【ビデオ教材・2歳児クラスデイリープログラム】 第12回 【おおむね2歳児の保育】 演習事前学習 第13回 演習・沐浴 第14回 乳児保育の環境 第15回 乳児保育と保健衛生および安全【入所時の健康診査、登園時の健康観察・健康状態の把握】 第16回 【症状の見かたと看護・乳児に多い病気】 第17回 【乳児期の病気と対策・感染症・保育園、乳児院と薬・予防接種】 第18回 【生活と健康・集団保育と安全】 第19回 【集団保育と安全・事故防止と安全対策】 第20回 子どもの食事【哺乳期の食行動・栄養方法・母乳の利点、問題点・母乳、ミルクの与え方】 第21回 【授乳期の食の悩みと考え方・離乳期の食行動・食の悩みと考え方】 第22回 【幼児期の食行動・食の悩みと考え方・職員と協力体制・家庭との連携】 第23回 演習【母乳冷凍バックスの使用法・哺乳ビンによる授乳・排気・タッチケア】 第24回 乳児保育と連携【保育士間の連携・職員間、家庭、地域との連携】 保育所における育児支援 第25回 保育の計画と記録【乳児保育を支える保育の計画・保育計画、指導計画】 第26回 【次の保育に生かす記録】 家庭・地域との連携【保護者、家庭とのパートナーシップによる保育】 第27回 【地域との連携】 乳児保育の未来【子産み、子育て支援と乳児保育】 第28回 【乳児保育の未来】 子育てをめぐる親の意識と状況・保育所における育児支援 第29回 乳児保育の今後の課題【グループワーク「子どもの最善の利益」とは？・子育て環境の変化と乳児保育【多様なニーズに応え得る保育所職員の人間性、専門性】 第30回 【子どもにやさしい家庭、保育所、地域になるために】・乳児保育のまとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、学習準備等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの講義計画に沿って授業に参加する前にテキストを読み、次時の内容を大まかに把握してください。 ・講義後はノート・テキスト・プリントを振りかえり、授業で学んだ事項を学習してください。 ・ニュースや新聞など保育士・子育てに関する時事の収集に努めてください。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・次の授業までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。 					
使用教科書 新保育ライブラリ乳児保育，増田まゆみ，北大路書房，ISBN978-4-7628-2843-0 やさしい乳児保育，伊藤輝子・天野珠路，青踏社，ISBN978-4-902636-17-8					
参考書 なし					
評価方法 授業態度、試験 前期・後期終了時にノート提出により総合的に評価					
その他 学生自身の母子健康手帳を用意すること。必要に応じて資料を配布する。					

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数																																										
教育原理	17110	鈴木武嗣	1	前期	講義	2																																										
授業目標・到達目標 《授業目標》 長い系譜を持つ教育の歴史から、現在の教育に至るまで一貫して貫かれている教育の理念と原理並びに教育に関する歴史的背景と教育思想を学習し、当面する教育上の諸課題の解決を通して未来の教育の在り方を考察する。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・文化と教育の学習経過から、教育の可能性について述べることができる。 ・欧米と我が国の教育目的の違いと同一性について述べることができる。 ・教育課程の意義と原理、方法について説明できる。 ・我が国の戦前と戦後の学校制度を比較し、それぞれの問題点や課題を説明できる。 ・ルソーとペスタロッチの教育論を学び、我が国が当面している教育課題について述べるすることができる。 ・当面する教育課題が「豊かな心の育成」と「規律の確立」という2つの要点を含んでしていることを指摘できる。 ・学校の自己改革が急務であり、国際化への対応と生涯学習の関連性が極めて大切であることを指摘できる。 																																																
講義計画・準備内容 《講義計画》 <table border="0"> <tr> <td>第1回 教育の概論</td> <td>第8回 日本の学校制度</td> </tr> <tr> <td>・文化と教育</td> <td>・戦前・戦後の学校制度</td> </tr> <tr> <td>・教育の可能性と限界</td> <td>・現在の義務教育制度と問題点</td> </tr> <tr> <td>第2回 教育の目的</td> <td>第9回 教育の思想Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>・欧米における教育目的の変遷</td> <td>・ルソーの教育論</td> </tr> <tr> <td>・我が国における教育目的の変遷</td> <td>第10回 教育の思想Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第3回 教育の内容</td> <td>・ペスタロッチの教育論</td> </tr> <tr> <td>・教育課程の意義</td> <td>第11回 当面する教育課題Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>・教育課程の構成原理</td> <td>・人間性の教育</td> </tr> <tr> <td>第4回 教育の方法Ⅰ</td> <td>・確かな学力とその向上方策</td> </tr> <tr> <td>・学習維持の意義</td> <td>第12回 当面する教育課題Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>・学習指導の類型と方法</td> <td>・望ましい教員の資質・能力と重要性</td> </tr> <tr> <td>第5回 教育の方法Ⅱ</td> <td>第13回 当面する教育課題Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>・生徒指導の意義・原理と成立</td> <td>・「豊かな心」の育成</td> </tr> <tr> <td>・生徒指導の方法</td> <td>・「規律の確立」と自己教育力</td> </tr> <tr> <td>第6回 公教育制度と運営</td> <td>第14回 当面する教育課題Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>・教育制度の原理と構造</td> <td>・学校教育と生涯学習体系</td> </tr> <tr> <td>・教育制度の概念と構成原理</td> <td>・学校の自己改革</td> </tr> <tr> <td>第7回 学校制度</td> <td>第15回 当面する教育課題Ⅴ</td> </tr> <tr> <td>・学校制度の概念</td> <td>・国際化の教育</td> </tr> <tr> <td>・学校制度の類型</td> <td>・学校評議員制度</td> </tr> </table> 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 （事前学習）シラバスにより次時の学習内容を把握し、該当する箇所に通し、学習前提となる重要項目を知っておくこと。 （事後学習）プリントが配布された場合は、ノートに記入した学習箇所に適合するスペースに添付し、学習の理解を深めておくこと。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・次回講義までに前時の復習と次時の予習を併せ4時間の学修が必要です。 							第1回 教育の概論	第8回 日本の学校制度	・文化と教育	・戦前・戦後の学校制度	・教育の可能性と限界	・現在の義務教育制度と問題点	第2回 教育の目的	第9回 教育の思想Ⅰ	・欧米における教育目的の変遷	・ルソーの教育論	・我が国における教育目的の変遷	第10回 教育の思想Ⅱ	第3回 教育の内容	・ペスタロッチの教育論	・教育課程の意義	第11回 当面する教育課題Ⅰ	・教育課程の構成原理	・人間性の教育	第4回 教育の方法Ⅰ	・確かな学力とその向上方策	・学習維持の意義	第12回 当面する教育課題Ⅱ	・学習指導の類型と方法	・望ましい教員の資質・能力と重要性	第5回 教育の方法Ⅱ	第13回 当面する教育課題Ⅲ	・生徒指導の意義・原理と成立	・「豊かな心」の育成	・生徒指導の方法	・「規律の確立」と自己教育力	第6回 公教育制度と運営	第14回 当面する教育課題Ⅳ	・教育制度の原理と構造	・学校教育と生涯学習体系	・教育制度の概念と構成原理	・学校の自己改革	第7回 学校制度	第15回 当面する教育課題Ⅴ	・学校制度の概念	・国際化の教育	・学校制度の類型	・学校評議員制度
第1回 教育の概論	第8回 日本の学校制度																																															
・文化と教育	・戦前・戦後の学校制度																																															
・教育の可能性と限界	・現在の義務教育制度と問題点																																															
第2回 教育の目的	第9回 教育の思想Ⅰ																																															
・欧米における教育目的の変遷	・ルソーの教育論																																															
・我が国における教育目的の変遷	第10回 教育の思想Ⅱ																																															
第3回 教育の内容	・ペスタロッチの教育論																																															
・教育課程の意義	第11回 当面する教育課題Ⅰ																																															
・教育課程の構成原理	・人間性の教育																																															
第4回 教育の方法Ⅰ	・確かな学力とその向上方策																																															
・学習維持の意義	第12回 当面する教育課題Ⅱ																																															
・学習指導の類型と方法	・望ましい教員の資質・能力と重要性																																															
第5回 教育の方法Ⅱ	第13回 当面する教育課題Ⅲ																																															
・生徒指導の意義・原理と成立	・「豊かな心」の育成																																															
・生徒指導の方法	・「規律の確立」と自己教育力																																															
第6回 公教育制度と運営	第14回 当面する教育課題Ⅳ																																															
・教育制度の原理と構造	・学校教育と生涯学習体系																																															
・教育制度の概念と構成原理	・学校の自己改革																																															
第7回 学校制度	第15回 当面する教育課題Ⅴ																																															
・学校制度の概念	・国際化の教育																																															
・学校制度の類型	・学校評議員制度																																															
使用教科書 新教育原理・教師論，佐々木正治，福村出版，ISBN978-4-571-10139-7																																																
参考書 なし																																																
評価方法 学期末に筆記試験（50%）を行う。また、講義への参加姿勢、授業態度、ノート、レポートの提出及び学習チェック表の内容により総合的に評価する。																																																
その他 補助資料として、講義の中で適宜プリントを配布する。																																																

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
教育心理学	15110	中俣友子	1	後期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼児教育および保育の専門家にとって、日々触れあう子ども達が現在どのような発達の状態にあるのか、また、今後どのような発達を遂げていくのか、その大まかな道筋を理解することは、発達を援助する効果的な保育を実践するにあたって必要不可欠な知識となる。講義では、「乳幼児期」の発達に関する心理学の知見について具体的事例を交えながら解説し、乳幼児の心理と行動の理解を深めるとともに、教育・保育との関連を考察できるようになることを目標とする。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心身の発達を理解するとともに、発達段階に応じた保育について理解を深める。 ・乳幼児の他者との関わりについて、教育心理学的視点から考え、理論的に説明することができる。 ・発達理論について説明することができる。 ・認知発達について説明することができる。 ・学習理論について説明することができる。 						
講義計画・準備内容 《【講義計画】》 第1回 講義の目的と目標・心理学とは 第2回 遺伝と環境（第1章） 第3回 発達の原理（第1章） 第4回 環境移行・関係移行（第1章） 第5回 愛着（第2章） 第6回 仲間関係・ジェンダー（第2章） 第7回 自己（第3章） 第8回 情緒（第4章） 第9回 認知 - 三項関係（第5章） 第10回 認知 - 心の理論（第5章） 第11回 記憶（第5章） 第12回 描画（第5章） 第13回 言語（第6章） 第14回 学習（プリント） 第15回 まとめと復習 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 事前学習：次回の講義内容を確認し、教科書や関連図書をよく読んでおくこと。 事後学習：講義内容を振り返りながら、教科書や配布プリント等を熟読し、重要な専門用語を覚えておくこと。また、疑問点については、関連図書を調べるなどして解決するようにしておくこと。 《標準学修時間の目安》 1回の講義あたり、1時間の予習と3時間の復習を推奨する。						
使用教科書 エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学，岡本依子・菅野幸恵・塚田・城みちる共著，新曜社，4-7885-0907-5						
参考書 講義内で、プリントを適宜配布する。						
評価方法 講義において、毎回の小テストを行うとともに、学期末には筆記試験を実施するほか、講義への参加態度や発言なども考慮し、総合的に評価する。出席は全体の5分の4以上が必要となる。						
その他 積極的な参加を期待する。小テストの欠席や課題の提出遅れは、基本的に0点となる。なお、特別な事由があつて欠席、あるいは提出が遅れる場合には、早めに申し出ること。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
健	康 12110	松田賢一	1	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」では、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことをねらいとしている。健康・安全で幸福な生活を送るためには、「基本的な生活習慣の形成」と「身体諸機能の調和的発達」の両輪が大切である。しかし、近年の社会状況や子育て環境の変化によって、この両輪の育ちが危うくなっているのが現状である。本科目では、「健康」をめぐる子どもの育ちについての知識を深めることを目指す。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・健康とは何かを説明できる ・人間の不思議について説明できる ・運動機能の発達について説明できる ・幼児期に大切にしたいことを説明できる ・幼児の運動能力について説明できる 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 ガイダンス・健康とは何か 第2回 健康の語義・定義 第3回 新しい健康観 第4回 人間の不思議1 第5回 人間の不思議2 第6回 人間の不思議3 第7回 人間の不思議4 第8回 人間の不思議5 第9回 幼児期に大切にしたいこと1 第10回 幼児期に大切にしたいこと2 第11回 子どもの時の運動が一生の体をつくる 第12回 子どもの時の運動が一生の体をつくる パート2 第13回 幼児の運動能力 第14回 幼児の運動能力 パート2 第15回 まとめと課題 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で前回の復習をするので、事前にノートを見ておき、疑問点を整理すること ・単元終了後は、感想を書いてもらうので、論点をまとめておくこと 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。 						
使用教科書						
参考書 なし						
評価方法 学期末においてノート提出と課題（得点配分80%）に取り組んでもらう。授業参加態度や授業内での発言（20%）を考慮し、総合的に評価する。						
その他 毎回講義でプリントを配布する。教科書は不要である。課題図書「向日葵のかっちゃん」を紹介する。A4のノートを用意する。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
環	境 12130	志 賀 直 信	1	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 本授業は、保育内容の5領域のうちの「環境」のねらいと内容をふまえ、「子どもを取り巻く環境」について理論と技術を学ぶ。そのため子どもにとっての環境を、数々の事例をもとに正しく理解する。これをもとに子どもを取り巻く望ましい環境について配慮・指導・援助が行える実践力を身につける。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と人為的環境の違いおよびその調和の必要性を説明できる。 ・子どもの発達過程におけるさまざまな環境との関わりを説明できる。 ・保育環境の具体的なデザイン・方法を考え・説明することができる。 ・季節や状況に応じて、どのような保育環境を用意するかを考え・実践できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 ガイダンスおよび環境のとらえ方の多様性 第2回 環境と主体の相互関連性と相互作用 第3回 幼児の発達過程における環境 第4回 幼児の発達を促す環境の条件 第5回 幼児期の特性と保育場面への生かし方 第6回 幼児の行動理解と指導 第7回 植物にかかわる幼児の認識と遊び 第8回 小動物・昆虫にかかわる生活と遊び 第9回 野外自然にかかわる生活と遊び 第10回 「もの」にかかわる生活と遊び 第11回 数量と図形の生活と遊び 第12回 四季の生活と環境 第13回 幼児と情報 (IT) 環境 第14回 幼児と地域社会 第15回 まとめ 《授業外に行うべき学習 (予習・復習, 準備学習等)》 保育の5領域の「環境」を意識しながら、新聞、ニュースに関心をもつこと。とくに予習の必要はないが、自分の幼少期のことを思い出しながら、保育園・幼稚園の保育環境をイメージできるよう、授業内容を整理しておくこと。 《標準学修時間の目安》 1回の授業あたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。						
使用教科書 事例で学ぶ保育内容 領域環境, 無藤 隆監修, 福元真由美編集代表, 萌文書林, ISBN4-89347-098-1						
参考書 保育所保育指針 解説書, 厚生労働省, フレーベル館, ISBN978-4-577-81242-6 幼稚園教育要領解説, 文部科学省, フレーベル館, ISBN978-4-577-81245-7						
評価方法 学期末に筆記試験 (80%) を行う。授業参加態度や授業での発言 (20%) も考慮し、総合的に評価する。						
その他 授業では適宜質問するので積極的に自分の考えを発表するよう心がけてほしい。 自分の幼少期のことを思い出しながら、「子どもの環境」「子どもの遊びにふさわしい環境構成」についてしっかり学んでほしい。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
表	現 12150	木村美佐子／三沢大樹	1	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「表現」について学ぶ授業である。領域「表現」では、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目的としている。この目的の達成のためには、まず保育者自身に豊かな表現活動の経験が必要である。この授業では、領域「表現」のねらいと内容の解説をもとに、指導に必要な知識と実践力を習得することをねらいとする。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針、幼稚園教育要領 領域「表現」のねらいや内容等を理解し、説明することができる。 ・子どもの造形表現を理解し、適切な指導・援助の方法を説明できる。 ・様々な技法を理解し、用具の使用法、活動方法を説明できる。 ・主体的に造形表現を楽しむことができる。 ・手遊びやうた遊び、伝承遊びに興味を持ち、表現することができる。 ・音やリズムに反応し、表現することができる。 ・自分の感じたイメージを身体で表現することができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 授業ガイダンス 領域「表現」とは 第2回 領域「表現」についての基本的考え方 第3回 領域「表現」の理解（小テスト） 第4回 様々な技法を学ぶ1 クレヨン・パスを使って① 第5回 様々な技法を学ぶ2 クレヨン・パスを使って② 第6回 様々な技法を学ぶ3 絵の具を使って 第7回 様々な技法を学ぶ4 その他の教材を使って① 第8回 様々な技法を学ぶ5 その他の教材を使って② 第9回 様々な技法を学ぶ6 その他の教材を使って③ 第10回 音と動き① 第11回 音と動き② 第12回 うた遊び・伝承遊び① 第13回 うた遊び・伝承遊び② 第14回 創作表現 第15回 まとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 事前学習 ・領域「表現」の内容について、解説書に目を通しておくこと 事後学習 ・学習した技法をわかりやすくまとめておくこと ・学習した手遊びや歌遊びをノートにまとめておくこと 《標準学修時間の目安》 ・次回の授業までに、予習・復習を含めて1時間の学修が望ましい						
使用教科書 新・幼児の音楽教育、井口 太編著、朝日出版社						
参考書 なし 必要に応じてプリントを配布する。						
評価方法 提出作品、小テスト、創作表現、授業への積極性を総合的に判断し評価する。						
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・造形教室での授業は、後片付けも学習である。教室の美化に注意を払うこと ・第10～14回の授業は、動きやすい服装で受講すること 						

科 目 名		教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単 位 数
健 康 指 導 法	12210	松 田 賢 一	1	後 期	演 習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」に関するねらいと内容を基に具体的な指導法を学ぶ授業である。子どもが健康で安全な生活をするために必要な習慣や態度を身に付けるための環境設定についての知識を深めることを目指す。幼児はあそびの中で十分体を動かすことにより、体の諸機能が発達していく、しかし、現代の子ども達は体と運動能力に異変が起こっている。何故そのようになっているのかというメカニズムを解説をしていく。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」のねらい、内容を説明できる ・乳幼児の発達の見方・捉え方を説明できる ・様々な動きを説明できる ・子どもの運動機能発達について説明できる ・幼児期運動指針の概略を説明できる 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 領域「健康」の考え方 オリエンテーション 第2回 領域「健康」のねらい、内容・教育の基本構造 第3回 乳幼児期の発達の見方・捉え方1 第4回 乳幼児期の発達の見方・捉え方2 第5回 様々な動きを体験してみよう1 (実技) 第6回 様々な動きを体験してみよう2 (実技) 第7回 様々な動きを体験してみよう3 (実技) 第8回 様々な動きを体験してみよう4 (実技) 第9回 様々な動きを体験してみよう5 (実技) 第10回 様々な動きを体験してみよう6 (実技) 第11回 実技での内容を検証 第12回 子どもの運動機能発達1 第13回 子どもの運動機能発達2 第14回 幼児期運動指針の解説 第15回 まとめと課題 《授業外に行うべき学習 (予習・復習、準備学習等)》 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業時に前回の復習をするので、事前にノートを見て、疑問点を明らかにすること ・実技では合間に教員が解説をするので、メモを取り、ノートに整理をすること。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。 						
使用教科書						
参考書 なし						
評価方法 学期末においてノート提出と課題 (得点配分80%) に取り組んでもらう。授業参加態度や授業内での発言 (20%) を考慮し、総合的に評価する。						
その他 プリントを配布する。						

科 目 名		教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単 位 数
環 境 指 導 法	12230	志 賀 直 信	1	後 期	演 習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 本授業は科目『環境』で学んだことをふまえて、環境を通して保育・教育を推進する指導者の育成を目指す。そのために主に「遊びと環境」をテーマに、保育の場で起こるさまざまな事例を参考にして、幼児期の環境を通して行う保育・教育をどのように実践すればよいかを考え、具体的な技能を身につける。さまざまな資料をもとに、また自分自身の（幼少時の）体験を織り交ぜながら、「子どもの遊びと環境」が幼少期の人格形成にいかほど大切であるかを学ぶ。あわせて、授業のなかでの発表・討論をとおして、この分野の知識と実践をバランスよく習得する。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの外遊びの現状を分析できる。 ・子どもの遊びの特徴を発達段階ごとに説明できる。 ・子どもにとっての遊びの意義を十分理解し、説明できる。 ・幼児期の環境を通して行う教育の意義および実践について自分の考えで説明することができる。 ・野外保育の事前・事後の準備をイメージすることができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 ガイダンス 第2回 幼児期の環境を通して行う教育のねらい 第3回 読みものや絵本を活用した環境教育 第4回 子どもの生活を通しての学び1；生物の飼育・栽培 第5回 子どもの生活を通しての学び2；野外保育や自然体験 第6回 子どもの生活を通しての学び3；楽しい遊びとネイチャーゲーム 第7回 子どもの生活と遊びの展開1；家庭の環境と遊びの条件 第8回 子どもの生活と遊びの展開2；生活習慣のなかでの遊び 第9回 子どもの生活と遊びの展開3；核家族化の条件を地域協力で乗り越える 第10回 子どもにとっての環境とは1；保育環境に関わる重要事項 第11回 子どもにとっての環境とは2；保育環境に関わる重要事項 第12回 保育園での環境づくり；優れた事例に学ぶ 第13回 幼稚園での環境づくり；優れた事例に学ぶ 第14回 遊びを支える保育者の役割 第15回 まとめ；学生全員のレポートをもとに発表・討議 《授業外で行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 とくに予習の必要はないが、自然を身近に感じる保育者をめざして野外に出る機会もある。その場で拾ったものを教材に利用することを課題とする。またヒヤシンスの水栽培も行うので、花が咲くまで観察日誌をつけてもらう予定である。 《標準学修時間の目安》 1回の授業あたり、0.5時間の予習と1.5時間の復習が望ましい。						
使用教科書 なし						
参考書 保育所保育指針解説書，厚生労働省，フレーベル館，ISBN978-4-577-81242-6 幼稚園教育要領解説，文部科学省，フレーベル館，ISBN978-4-577-81245-7 「遊びを中心とした保育」，河邊貴子，萌文書林，ISBN978-4-89347-087-4 「子どもの遊びとその環境」，鯉坂二夫（監修），野村知子，中谷孝子（編著），保育出版社，ISBN4-938795-28-0 C3337 「子どもと環境」，中沢和子，萌文書林，ISBN4-4-89347-066-3 C3037						
評価方法 授業において小テストや課題（得点配分20%）を行うとともに、学期末に筆記試験（80%）を行う。授業参加態度も考慮し、総合的に評価する。						
その他 授業では課題を発表したり、発言を求められることがあるので、自分の考えをもっておくこと。随時、新聞記事やプリントを配布するので、特定の教科書は使用しない。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
表現指導法 A	12250	三沢大樹	1	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「表現」について、具体的な指導法を学ぶ授業である。「表現」で学んだ知識や技術をもとに、部分指導案の作成や指導者としての実践力を養う。音楽的指導の一例として、エミール・ジャック＝ダルクローズのリトミックの実践を行う。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」に関連する部分指導案を立案し、実践することができる。 ・季節に応じた歌の選曲ができ、自身のレパートリーとして歌唱することができる。 ・子どもの歌に合わせて振り付けを覚え、実践することができる。 ・リトミックに関心を持ち、リズム運動・ソルフェージュ・即興演奏の具体的な内容を説明することができる。 ・手遊びの知識を深め、場や状況に応じた選曲やアレンジを行うことができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 <ul style="list-style-type: none"> * 下記の授業計画の他、第2回目の授業よりピアノ伴奏の実践を行う（輪番制）。 * 下記の授業計画に加えて、適時、季節に応じた歌の歌唱に取り組む。 第1回：ガイダンス、領域「表現」の確認 第2回：音と動き 第3回：子どもの歌に合せた振り付け 第4回：世界の音楽教育 第5回：リトミック・アプローチの実践①（リズム運動・ソルフェージュを中心に1） 第6回：リトミック・アプローチの実践②（リズム運動・ソルフェージュを中心に2） 第7回：リトミック・アプローチの実践③（様々な即興表現） 第8回：リトミック・アプローチの実践④（即興演奏） 第9回：劇的表現 第10回：指導案（部分指導）の作成方法 第11回：作成した指導案（部分指導）の指導実践① 第12回：作成した指導案（部分指導）の指導実践② 第13回：作成した指導案（部分指導）の指導実践③ 第14回：作成した指導案（部分指導）の指導実践④ 第15回：総評 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 復習に重点を置き、各自で授業内容をノートに記録しておくこと。ピアノ伴奏の実践に関しては輪番制のため、事前準備が必要である。 《標準学修時間の目安》 1回の授業あたり予習・復習を含めて1時間の学修が必要である。						
使用教科書 新・幼児の音楽教育，井口太，朝日出版社，ISBN978-4-255-15556-2 歌唱の基礎，荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹，圭文社，ISBN978-87446-077-1						
参考書 なし						
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の実践（40%） ・歌唱試験（50%） ・授業態度，意欲（10%） 						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
表現指導法B	12251	輪島進一／木村美佐子	1	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼稚園教育要領並びに保育所保育指針の領域「表現」のねらい・内容を学習したうえで、幼児の発達過程に即した造形表現内容を理解し、適切な指導・援助が行えるよう実践的な能力を習得する。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の造形発達段階を説明できる。 ・発達に即した指導・援助方法を説明できる。 ・年齢に応じた指導計画を作成できる。 ・乳・幼児画表現の発達段階を説明できる。 ・幼児画の魅力・特徴を説明できる。 ・乳幼児・児童期の絵画の発達過程等の意義を説明、指導助言等ができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 <ul style="list-style-type: none"> ・前半8回を木村、後半7回を輪島が担当する。 第1回 オリエンテーション 第2回 幼児の造形発達段階の理解 第3回 幼児の造形発達段階の理解と指導 第4回 指導計画と環境構成の理解 第5回 指導計画の作成 第6回 模擬保育1 第7回 模擬保育2 第8回 模擬保育3 第9回 インTRODクシヨン：乳幼児画とはなにか 第10回 描画発達段階と支援のあり方① 第11回 描画発達段階と支援のあり方② 第12回 描画発達段階と支援のあり方③ 第13回 乳幼児画の魅力・特徴の理解とかわり方 第14回 幼児画理解と支援・エクササイズ① 第15回 幼児画理解と支援・エクササイズ②・まとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）》 <ul style="list-style-type: none"> ・随時プリント（担当者作成）配布授業後には復習し、日頃から子どもの造形作品及び活動に関心を持ち、子どもの作品展等の鑑賞を続けること。 ・実技及びレポート作成では、授業時間に限度があり、また完成までの個人差も見られるため、授業外時間を必ず確保し作成にあたること。放課後制作及び自宅へ持参することもあり得る。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業にあたり予習・復習を含めて1時間の学修が必要である 						
使用教科書						
参考書 なし						
評価方法 実技・レポート、提出課題（指導計画）、授業への積極性等を総合的に判断する						
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書は使用しないが、随時担当者作成のプリントを配布する。 ・絵の具セット等の道具類は「図画工作Ⅰ」と重複する。 ・実技演習を行うため、準備及び後片付けをしっかりと行うことも学習内容とする。 						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
音楽基礎	11111	三沢大樹／高橋セリカ	1	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 保育者に求められる音楽技能の学習を始めるうえで必要とされる、基礎的な音楽理論とソルフェージュ力、つまり楽譜を読み書き、そしてうたえる力を身につけることが本授業の目的である。 本授業では、以下の2項目の学習を平行して行う。 1.音楽理論:楽典(音符と休符,リズムと拍子,音名,変化記号,音階,音程,調と調号,和音)の学習。 2.ソルフェージュ:発声法も含めた歌唱の基礎練習 ○ソルフェージュ基礎(主としてハ長調の楽曲による音程感覚の訓練) ○ソルフェージュ演習(様々な調の楽曲を移動ド唱法でうたう,移調してうたう等) 《到達目標》 ・単旋律の楽譜を見て階名でうたうことができる(♯,♭それぞれ二個までの長・短調) ・大譜表と鍵盤との位置関係が分かり,書いたり音名で読んだりできる。 ・楽譜上の基礎的なリズムを理解し,表現することができる。 ・楽譜上の音符や休符の種類,調やテンポ,音符間の音程等を指摘することができる。 ・主要三和音について説明することができる。 ・基礎的な音楽標語や音楽記号について説明することができる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション:授業の内容,進め方について 第2回 楽典基礎Ⅰ(音符と休符),ソルフェージュ基礎Ⅰ 第3回 楽典基礎Ⅱ(リズムと拍子),ソルフェージュ基礎Ⅱ 第4回 楽典基礎Ⅲ(音名1),ソルフェージュ基礎Ⅲ 第5回 楽典基礎Ⅳ(変化記号,音名2),ソルフェージュ基礎Ⅳ 第6回 楽典基礎Ⅴ(音階),ソルフェージュ基礎Ⅴ 第7回 確認テスト:(楽典基礎,ソルフェージュ基礎の学習状態を確認する) 第8回 楽典Ⅰ(音程1),ソルフェージュ演習Ⅰ 第9回 楽典Ⅱ(調と調号1),ソルフェージュ演習Ⅱ 第10回 楽典Ⅲ(音程2),ソルフェージュ演習Ⅲ 第11回 楽典Ⅳ(調と調号2),ソルフェージュ演習Ⅳ 第12回 楽典Ⅴ(和音1),ソルフェージュ演習Ⅴ 第13回 楽典Ⅵ(和音2),ソルフェージュ演習Ⅵ 第14回 これまでの学習内容の復習(試験準備) 第15回 まとめ 《授業外に行うべき学習(予習・復習,準備学習等)》 ・授業は基本的に教科書に従い進行するので,予習・復習を行うこと。(音楽理論) ・復習に重点を置き,練習を怠らないこと。(ソルフェージュ) 《標準学修時間の目安》 ・1回の授業あたり予習・復習を含めて1時間以上の学修が必要である。						
使用教科書 ソルフェージュ,教育芸術社,ISBN4-87788-007-0 ポケット音楽辞典,堀内久美雄,音楽之友社,ISBN4-276-00018-1 C1573 超やさしい楽譜の読み方,甲斐彰,音楽之友社,ISBN4-276-00046-1 C1073 歌唱の基礎,荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹,圭文社,ISBN978-87446-077-1						
参考書 ○書いて覚える徹底!!楽典②,池田奈々子,ドレミ楽譜出版社 ○楽典—理論と実習—,石桁真礼生他,音楽之友社						
評価方法 ・授業への積極性(20%) ・筆記試験(40%) ・実技試験(40%)						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
造形表現基礎	11121	輪島進一	1	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 保育者としての造形表現の専門的な内容を習得するために、造形の基本要素である「形」及び「色彩」の各概念を理論・演習を通して経験的に理解し、基礎的な造形表現技能を習得する。 《到達目標》 ・造形活動の基本である、「見ること」「イメージすること」による表現や制作に慣れる。 ・形（主にヒトの形を通して）の基本的な見方・捉え方ができ、イメージに沿って表現できる。 ・造形表現の基本を踏まえ、その概要を理解し、楽しむことができる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回：授業の目的・内容の概要 第2回：基本的な形の見方・捉え方① 第3回：基本的な形の見方・捉え方② 第4回：イメージを基にした表現の仕方① 第5回：イメージを基にした表現の仕方② 第6回：形の捉え方・応用（ヒトを素材として）① 第7回：形の捉え方・応用（ヒトを素材として）② 第8回：形の捉え方・応用（顔を素材として）① 第9回：形の捉え方・応用（顔を素材として）② 第10回：造形表現を楽しむ① オブジェ作り 第11回：造形表現を楽しむ② 壁面コラージュ 第12回：造形表現を楽しむ③ 集団で楽しむ造形活動 第13回：空間デザイン～ユニット構成① 第14回：空間デザイン～ユニット構成② 第15回：空間デザイン～ユニット構成③ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）》 ・実技及びレポート作成では、作品完成へ向けての制作時間に個人差が見られるため、授業外時間を必ず確保し完成させること。放課後制作及び自宅へ持参することもあり得る。 ・随時プリント（担当者作成）配布。復習に重点を置き、日頃より人間の造形文化活動や自然の形態に関心を持ち、美術展等の鑑賞を続ける。 《標準学修時間の目安》 ・1回の演習にあたり、予習・復習を含めて、1時間の学修が望ましい。						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 ・実技作品（80%）受講態度（20%）						
その他 ・絵の具セット、その他の道具類は図画工作Ⅰと重複する。 ・予定の計画で行うが、実技演習が加わるため、時間配分に調整の場合がある。 ・実技演習を行う講義のため、準備及び後片付けをしっかり行うことも学習内容とする。						

科 目 名	教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単 位 数
保 育 内 容 総 論	12170 伊勢 昭／山本三洋子	1	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 「保育所保育指針」に示されている「領域」の概念を理解し、5領域が実際の保育場面における遊びや生活の中でどのように展開されるかを総合的、立体的に捉えてもらうことがねらいである。 乳幼児一人ひとりの個性に応じた遊びが保障される環境のあり方、教材の工夫、そして保育者の援助、これらが力動的に関与しながら行われる遊びの展開、そこから得られる心身の発達等、いわゆる「保育の総合性」について、具体的な資料を提示しながら解説することで、理解を深めさせたい。 《到達目標》 ・「保育所保育指針」に示される領域の概念を理解し、子どもの具体的な活動を例示しながら説明できる。 ・乳幼児期における遊びの意味と、発達における遊びの重要性について説明できる。 ・保育の総合性について、具体的な子どもの様子を示しながら説明できる。 ・保育所における「保育内容」について、明確な説明ができる。					
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション：授業の概要を説明する。特に、頻繁に使用する語（保育、教育と養護、保育所保育指針など）の解説。 （授業は、こちらで準備したプリントを主に使用して進めます。） 保育の歴史と思想家：フレーベル、ルソー、オーエン等について。 第2回 保育内容の歴史の変遷Ⅰ：「保育要領」から「保育所保育指針」まで。 第3回 保育内容の歴史の変遷Ⅱ：保育内容と養護との関連について。 第4回 発達の捉え方と保育内容Ⅰ：発達とは何か・「保育所保育指針」その他に示される発達の考え方について解説する。 第5回 発達の捉え方と保育内容Ⅱ：遊びと発達との関連について、事例を提示に示される発達の考え方について解説する。 第6回 発達の捉え方と保育内容Ⅲ：子どもの遊びと保育内容について。 第7回 保育所の日と保育者の役割について。 第8回 保育所における子どもの生活と保育内容Ⅰ：0歳児から1～2歳児の生活 第9回 保育所における子どもの生活と保育内容Ⅱ：3歳児の保育所生活。模倣による社会生活への参加 第10回 保育所における子どもの生活と保育内容Ⅲ：4・5歳児の生活 －仲間と共に工夫しながら展開する遊び（1） 第11回 保育所における子どもの生活と保育内容Ⅳ：4・5歳児の生活 －仲間と共に工夫しながら展開する遊び（2） 第12回 現今の社会と保育内容の課題Ⅰ：自然と関わる体験不足（環境の変化）－間接体験等々。 第13回 現代社会と保育内容の課題Ⅱ：自我の育ち・道徳性の芽生えについて。 第14回 現代社会と保育内容の課題Ⅲ：幼保一元化 認定保育園 子育て支援等。 第15回 これまでの学習の整理とまとめ・最終試験の実施 《授業以外に行うべき学習（予習・復習・学習準備等）》 授業に関連する事項について、「保育所保育指針」を熟読すること。 《標準学修時間の目安》 1回の授業あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要である。					
使用教科書 プリントを中心とするので、教科書は特に指定せず。					
参考書 保育所保育指針解説書、フレーベル館 保育内容総論、田中亨胤他、ミネルヴァ書房 保育内容総論〔第二版〕、大豆田啓友他、ミネルヴァ書房、2014 幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷、民明言 編、萌林書林、2010 梅根悟監修 世界教育史大系 21、22 幼児保育史Ⅰ、Ⅱ 講談社 1977					
評価方法 ・レポート提出：授業期間中に5回 30% ・最終回に実施する試験の成績 60% ・質問や発表・発言等、授業に対する前向きで積極的な態度・姿勢等 10%など、総合的に評価する。					
その他 子どもの遊びの様子等に関して、録音や録画を資料として使用する予定である。					

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数		
保育実習指導 I	16110	原子はるみ／松田賢一	1	通年	演習	2		
授業目標・到達目標 《授業目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ・実習の計画、観察、実践、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義を概説できる。 ・保育実習の目的や内容、自己課題を説明できる。 ・実習生としての心構えを理解し、自己点検できる。 ・実習の計画に沿って実践できる。 ・実習中の記録を確実に記すことができる。 ・実習園へ記録を提出し、評価を受けることができる。 ・実習の総括を通して自己課題を評価し、学習に対する新たな課題を説明できる。 								
講義計画・準備内容 《講義計画》 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 実習の意義、目的、内容について 第2回 関連法規や保育所保育指針の位置づけ 第3回 実習の方法の理解 第4回 保育実習 I の内容 第5回 保育実習 I 保育所の実習について 第6回 保育実習 I 施設の実習について 第7回 保育実習 I 保育所の学びを知ろう 第8回 保育内容の研究① 第9回 保育内容の研究② 第10回 保育内容の研究③ 第11回 保育内容の研究④ 第12回 保育の計画の実際① (保育課程や指導計画) 第13回 保育の計画の実際② (日案、部分指導案の立て方) 第14回 保育の計画の実際③(部分指導案の実践) 第15回 実習園調査と実習希望調査書の記入について </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第16回 実習希望調査書の提出(確認、調整) 第17回 施設見学オリエンテーション 第18回 保育施設の見学、参観 第19回 保育施設の見学、参観 第20回 保育施設の見学、参観 第21回 保育施設の見学、参観 第22回 保育実習 I 施設、保育実習Ⅲについて 第23回 必要書類の作成 第24回 実習記録の意義と方法① 第25回 実習記録の意義と方法② 第26回 実習の評価観点と実習生の心構え 第27回 自己課題の設定と確認(訪問指導者) 第28回 自己課題の発表(訪問指導者) 第29回 実習直前ガイダンス(全体)、 実習園事前訪問オリエンテーション 第30回 実習報告会、事後指導 </td> </tr> </table> 《授業外の行うべき学習(予習・復習、準備学習等)》 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習指導ファイルを整理して、毎回持参すること。 ・やむなく欠席した場合は、授業担当者を訪ね個別に授業内容を確認すること 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・次回までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。 							第1回 実習の意義、目的、内容について 第2回 関連法規や保育所保育指針の位置づけ 第3回 実習の方法の理解 第4回 保育実習 I の内容 第5回 保育実習 I 保育所の実習について 第6回 保育実習 I 施設の実習について 第7回 保育実習 I 保育所の学びを知ろう 第8回 保育内容の研究① 第9回 保育内容の研究② 第10回 保育内容の研究③ 第11回 保育内容の研究④ 第12回 保育の計画の実際① (保育課程や指導計画) 第13回 保育の計画の実際② (日案、部分指導案の立て方) 第14回 保育の計画の実際③(部分指導案の実践) 第15回 実習園調査と実習希望調査書の記入について	第16回 実習希望調査書の提出(確認、調整) 第17回 施設見学オリエンテーション 第18回 保育施設の見学、参観 第19回 保育施設の見学、参観 第20回 保育施設の見学、参観 第21回 保育施設の見学、参観 第22回 保育実習 I 施設、保育実習Ⅲについて 第23回 必要書類の作成 第24回 実習記録の意義と方法① 第25回 実習記録の意義と方法② 第26回 実習の評価観点と実習生の心構え 第27回 自己課題の設定と確認(訪問指導者) 第28回 自己課題の発表(訪問指導者) 第29回 実習直前ガイダンス(全体)、 実習園事前訪問オリエンテーション 第30回 実習報告会、事後指導
第1回 実習の意義、目的、内容について 第2回 関連法規や保育所保育指針の位置づけ 第3回 実習の方法の理解 第4回 保育実習 I の内容 第5回 保育実習 I 保育所の実習について 第6回 保育実習 I 施設の実習について 第7回 保育実習 I 保育所の学びを知ろう 第8回 保育内容の研究① 第9回 保育内容の研究② 第10回 保育内容の研究③ 第11回 保育内容の研究④ 第12回 保育の計画の実際① (保育課程や指導計画) 第13回 保育の計画の実際② (日案、部分指導案の立て方) 第14回 保育の計画の実際③(部分指導案の実践) 第15回 実習園調査と実習希望調査書の記入について	第16回 実習希望調査書の提出(確認、調整) 第17回 施設見学オリエンテーション 第18回 保育施設の見学、参観 第19回 保育施設の見学、参観 第20回 保育施設の見学、参観 第21回 保育施設の見学、参観 第22回 保育実習 I 施設、保育実習Ⅲについて 第23回 必要書類の作成 第24回 実習記録の意義と方法① 第25回 実習記録の意義と方法② 第26回 実習の評価観点と実習生の心構え 第27回 自己課題の設定と確認(訪問指導者) 第28回 自己課題の発表(訪問指導者) 第29回 実習直前ガイダンス(全体)、 実習園事前訪問オリエンテーション 第30回 実習報告会、事後指導							
使用教科書 保育者養成シリーズ 保育実習、林邦夫・谷田貝公昭監修 高橋弥生・小野友紀編著、一藝社、 ISBN978-4-86359-046-5 C3037								
参考書 遊びの指導、幼少年教育研究所編、同文書院(授業で紹介します)								
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度～20% ・実習課題、実習日誌、ファイル等の記録～50% ・実習報告発表、報告書～30% 								
その他 なし								

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
子どもの保健Ⅱ	14210	松坂美奈子	1	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 子どもの保健Ⅰ（講義）の内容を実技等でより具体的に学び、保育者として実践的な技術を身につける。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・身体測定及び身体評価ができる。 ・バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸）の測定ができる。 ・日常の健康観察及び体調不良時の適切な対応、個別的な配慮ができる。 ・手洗い・うがいの目的を理解し、効果的な方法を実践できる。 ・感染症対策を理解し、嘔吐物の処理等を実践できる。 ・応急手当・救命法を習得し、実践できる。 ・事故防止対策・安全管理を具体的に考え、それを説明できる。 ・集団における健康教育・保健計画の年間計画を立案できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション、身体測定（身長・体重・胸囲・頭囲）の測定 第2回 身体発育曲線について、カウプ指数の計算 第3回 バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸）の測定と健康状態の把握 第4回 感染予防①：手洗い、うがい、爪きり、 第5回 " ②：嘔吐物の処理、トイレ（用便後）の後始末 第6回 健康で安全な環境の整備：環境および衛生管理、災害対策、保健安全管理 第7回 心肺蘇生法、気道異物除去 第8回 事故と応急処置①：子どもと事故、事故の発生と種類、事故防止対策 第9回 " ②：応急手当 第10回 " ③： " 、119番へ通報 第11回 症状に対する対応①：発熱、けいれん、脱水 （※グループ毎に「実技」での 第12回 " ②：嘔吐、下痢、腹痛 発表をする。） 第13回 " ③：せき、喘鳴、発疹 第14回 集団保育における健康教育：目的、健康教育の実際、保健だより 第15回 心とからだの健康づくり：自己管理、保育者の健康問題 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの保健Ⅰで学習した内容の復習を必ずしておく。 ・子どもの保健Ⅰ同様、シラバスの講義計画に沿って、授業前に教科書を読み、語句の読み方や意味を調べておく。 ・演習項目について、教科書及び配布された資料を読み、内容を把握する。必要物品（持参するもの）がある場合、準備しておく。 ・授業（演習）後は、教科書、配布された資料を見直し、要点（注意事項等含む）をまとめておく。 ・レポート作成（課題提出）：第4・5・7回 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。 						
使用教科書 子どもの保健Ⅰ（講義）と同じ教科書を使用する。						
参考書 なし						
評価方法 試験、受講態度、課題への取り組み姿勢を総合的に評価する。						
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・課題等の提出期日は厳守。 ・自分の母子健康手帳を準備。 ・必要に応じてプリントを配布。 						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
人間関係	12120	木村美佐子	1	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 本授業は、幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容を理解したうえで、「人間関係」に関する乳幼児の発達について学び、その育ちを支える保育者に求められる子ども理解と、保育の方法をとらえることを目標とする。加えて、自己理解と人間関係づくりの方法を学び、子どもや保護者と豊かな人間関係を築くことのできる保育者を目指す。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育の基本を理解し、領域「人間関係」の特質を説明できる。 ・ 豊かな人間関係を育むために、保育者に求められていることを説明できる。 ・ 乳幼児期の発達をとらえて、人間関係の広がりとその意義を説明できる。 ・ 自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション（授業の目的・内容・進め方、及び教職履修カルテの確認） 第2回 領域「人間関係」の特質 第3回 領域「人間関係」のねらいと内容 第4回 「人間関係」に関わる現代社会の状況 第5回 乳幼児期の発達と人間関係① 人との関係の始まり 第6回 乳幼児期の発達と人間関係② 人との関わりの中核 第7回 乳幼児期の発達と人間関係③ 自我の発達 第8回 家族との関わり 第9回 保育者との関わり 第10回 遊びの中の人との関わり 第11回 幼児期の道徳性とその発達を促す経験 第12回 豊かな人間関係を育む保育者① 育ちを支える 第13回 豊かな人間関係を育む保育者② 保護者や保育者との関わり 第14回 豊かな人間関係を育む保育者② 自己の人間関係 第15回 まとめ（授業の振り返り、自己課題の設定、教職履修カルテの記入等） 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 事前学習 ・ 次回の講義内容を確認し、教科書の該当する章をよく読んでおくこと 事後学習 ・ 授業の到達目標を確認し、その日の講義内容をプリントやノートにまとめておくこと 《標準学修時間の目安》 ・ 1回あたり、予習・復習を含めて1時間の学修が必要である						
使用教科書 実践保育内容シリーズ②人間関係、小櫃智子・谷口明子編著、一藝社 ISBN978-4-86359-073-1						
参考書 なし						
評価方法 授業への積極性（10%）提出プリント（20%）試験（70%）						
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の中でプリントを適宜配布する。 ・ 教科書は、1年後期「人間関係指導法」においても使用する。 						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
言	葉 12140	藤 友 雄 暉	1	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼稚園教育要領と保育所保育指針の領域（言葉）のために設定された授業である。 幼児の言語獲得・言語発達について学習する。 日本語の基本的な成り立ちについての、理解を深める。 《到達目標》 幼児の言語獲得・言語発達のメカニズム・プロセスを理解した上で、実際に保育の場で幼児の言語生活の発達支援をすることができる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 心理学における言語の研究 第2回 伝達 第3回 思考 第4回 行動調節 第5回 理解 第6回 模倣 第7回 生成 第8回 概念 第9回 対応 第10回 幼児の語彙 第11回 幼児の助詞 第12回 幼児の助動詞 第13回 幼児の語彙の研究方法 第14回 基本語彙 第15回 言語心理学の領域 《授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習等）》 ・毎時間の学習NOTEを提出 《標準学修時間の目安》 ・次回までに予習復習を含めて2時間の学修が望ましい						
使用教科書 なし						
参考書 子どもの言語心理（2）幼児のことば，福沢周亮，大日本図書，ISBN 4-477-12154-7						
評価方法 定期試験（80％） 授業参加態度や授業内での発言（20％）						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
人間関係指導法	12220	木村美佐子	1	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 本授業は、豊かな人間関係を育む保育のあり方を理解するために、具体的な事例をもとに子どもの人とのかかわりの育ちや保育者の役割について学ぶことをねらいとする。特に社会生活における望ましい生活習慣や態度、道徳性の芽生えを培う指導のあり方、「人間関係の育ち」を観察する視点を理解し、より良い保育方法を学ぶ。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の人間関係を育む「遊び」の意義を説明できる。 ・ 豊かな人間関係を育む保育を理解し、保育者の役割を説明できる。 ・ 「人間関係」の育ちを把握する視点について説明できる。 ・ 道徳性の芽生えを培う指導について説明できる。 ・ 人間関係を育む幼児教育の今日的課題を説明できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション（授業の目的・内容・進め方、教職履修カルテの確認） 第2回 幼児教育と「遊び」の意義 第3回 遊びのなかの人とのかかわり① 楽しさの共有 第4回 遊びのなかの人とのかかわり② いざこざと葛藤 第5回 遊びのなかの人とのかかわり③ 異年齢交流 第6回 遊びのなかの人とのかかわり④ 協同的遊び 第7回 人とのかかわりを見る視点① 新生児の「人への関心」 第8回 人とのかかわりを見る視点② 思いやりと社会性の発達 第9回 人とのかかわりを見る視点③ 個と集団の育ち 第10回 人とのかかわりを見る視点④ 地域における子育て支援 第11回 道徳性の芽生えを培うための基本的な考え方 第12回 道徳性の芽生えを培うための保育者の援助の実際 第13回 自己の人間関係の理解 第14回 人とのかかわりを育む幼児教育の今日的課題 第15回 まとめ（授業の振り返り、教職履修カルテの記入等） 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 事前学習 ・次回の講義内容を確認し、教科書の該当する章をよく読んでおくこと 事後学習 ・授業の到達目標を確認し、その日の講義内容をプリントやノートにまとめておくこと 《標準学修時間の目安》 ・次回までに予習・復習を含めて1時間の学修が望ましい						
使用教科書 実践保育内容シリーズ②人間関係、小櫃智子・谷口明子編著、一藝社、ISBN978-4-86359-073-1						
参考書 なし						
評価方法 ・授業への参加態度（20%） プリント提出（30%） レポート（50%）						
その他 ・講義の中で適宜プリントを配布する。 ・教科書は、前期「人間関係」と同じものを使用する。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
言葉指導法	12240	藤友雄暉	1	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼稚園教育要領と保育所保育指針の（言葉）の領域のために設定された授業である。 領域（言葉）に関する指導援助が、実際の保育の場で行える実践的な力を修得させる。 《到達目標》 ・毎時間、受講生に絵本の読み聞かせをしてもらい、保育における実技能力を高めることができる。 ・その絵本についての作家論・作品論を展開していくことにより、絵本に対する深い洞察力を獲得する。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回（レオ・レオーニ）あおくんときいろちゃん・せかいいちおおきなうち 第2回 スイミー・ひとあしひとあし・フレデリック 第3回（バージニア・リー・バートン）いたずらきかんしゃ ちゅうちゅう 第4回 マイク・マリンガーとスチーム・ショベル・ちさいおうち 第5回 はたらきもののじょせつしゃけいていー・せいめいのれきし 第6回（モーリス・センダック）かいじゅうたちの いるところ 第7回 まよなかの だいどころ・まどのそとの そのまたむこう 第8回（五味太郎）みんなうんち・きんぎょがにげた・がいこつさん 第9回 はなをくんくん・ぐりとぐら・ピップとちょうちょう 第10回（かこさとし）だむのおじさんたち・かわ・だるまちゃんとてんぐ 第11回 100万回生きたねこ・旅の絵本・しばてん・もこもこ 第12回（長新太）キャベツくん・ゴムあたまポンたろう 第13回 ごろごろにゃーん・つきよ・ころころにゃん 第14回 もりのなか・スーホーの白い馬 第15回 三びきのやぎのがらがらどん 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ・毎時間の学習整理NOTE提出 《標準学修時間の目安》 ・次回までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 定期試験（50%） 授業での表現力（50%）						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
幼児体育	14250	松田賢一	2	前期	演習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 小・中学校の体力不足の背景に幼児期の運動不足があることが指摘された。そのことから、文部科学省は、子どもの体力の向上を図ろうと就学前の幼児の運動量を目安とする「幼児期運動指針」を平成24年度作成された。 私たち人間には、一生を通じて運動を身につけるのに適した時期が3つあるといわれている。その第1期が幼児期である。本講義は、現在の子どもたちの体の変化の理解と人間の運動のメカニズムの知識を深めることを目指す。さらに、幼児期に必要な基本的運動能力を促すための各種運動を実際に行い、現場で生かせることを目指す。 《到達目標》 ・現在の子どもたちの体の変化について説明できる ・人間の運動のメカニズムについて説明できる ・子ども達が喜ぶ運動あそびが説明できる ・鬼ごっこの理論・内容が説明できる						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 ガイダンス 幼児になぜ体育は必要か 第2回 幼児になぜ体育が必要か パート2 第3回 現在の子どもたちの体の変化について 第4回 現在の子どもの運動能力について 第5回 子ども達がワクワク・ドキドキするような運動あそび1 第6回 子ども達がワクワク・ドキドキするような運動あそび2 第7回 子ども達がワクワク・ドキドキするような運動あそび3 第8回 子ども達がワクワク・ドキドキするような運動あそび4 第9回 鬼ごっこ1 第10回 鬼ごっこ2 第11回 創作幼児体育についての説明、グループ編成、内容吟味、指導案作成準備 第12回 創作幼児体育内容決定、指導案作成 第13回 体育館で各グループ指導案に沿って、創作幼児体育練習1 第14回 創作幼児体育練習2 第15回 創作幼児体育発表会、まとめ・ノート整理 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ・毎週の授業で前回の復習をしますので、事前にノートで学習し、疑問点を質問できるようにすること。 ・実技編では、実技の後、教員が解説をしますので、それをメモし、ノートに整理をすること。（整理等の詳細はその時に説明する） ・ノート整理後は、学籍番号順に教員が確認する。 《標準学修時間の目安》 ・次回までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。						
使用教科書						
参考書 なし						
評価方法 学期末において、ノート提出と課題に取り組む（得点配分80%）と授業参加態度や授業内での発言（20%）を考慮し、総合的に評価する。						
その他 プリントを配布する。 A4のノートを用意する。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
相談援助	13220	新沼英明	2	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 保育所や児童福祉施設における相談援助の技術について、ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）の視点から理解し、実践できる基礎を培う。特に保護者支援の際に必要な技術（ケースワーク、グループワーク）及び地域の子育て支援（コミュニティワーク）に関する基礎技能の習得を目指す。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助の原則について理解し、実践することができる。 ・相談援助の方法と技術について理解し、基本的な技術を実践することができる。 ・事例により相談援助場面の実際に触れ、個別援助計画を作成することができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション：授業の概要、保育とソーシャルワークの関わり 第2回 保育実践と相談援助 第3回 相談援助（社会福祉援助技術）の定義と体系 第4回 社会福祉援助技術の展開①（直接援助技術、間接援助技術） 第5回 社会福祉援助技術の展開②（関連援助技術） 第6回 子ども・子育て支援新制度と相談援助 第7回 保育場面における個別援助技術（ケースワーク）① 第8回 保育現場における個別援助技術（ケースワーク）② 第9回 個別援助（ケースワーク）の具体的展開 第10回 保育現場における集団援助技術（グループワーク）① 第11回 保育現場における集団援助技術（グループワーク）② 第12回 小集団（グループ）を活用した相談援助 第13回 保育現場における地域援助技術（コミュニティワーク） 第14回 専門職としての保育士の職種と社会福祉援助技術 第15回 事例研究とまとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> *各回、事前にテキストを読んで講義に臨むこと。不明な用語は事前に調べておくこと。 *育児不安、子育て支援、児童虐待等に関する新聞、ニュース等に関心をもち、必要に応じてスクラップするなど、社会事象の把握に努めること。 《標準学修時間の目安》 次回までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。						
使用教科書 保育・教育ネオシリーズ8 社会福祉援助技術，松本寿昭，同文書院，978-4-8103-1382-6						
参考書 保育者のための相談援助，小林育子ほか，萌文書林，2011 毎回レジュメ、資料等のプリントを配布します。						
評価方法 授業内レポート、小テスト、出席状況を総合して評価します。						
その他 特になし。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
子どもの食と栄養	14230	伊勢谷 栄 樹	2	後期	演習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 1. 子どもの発育・発達に応じた栄養・食事に関する基礎知識を学ぶ。 2. 保育を通して適切な「食育」をすすめることができるように演習を行う。 《到達目標》 1. 子どもの発育・発達に適した食生活を理解する。 2. 保育士として食育に積極的にかかわっていく姿勢を持つ。 3. 広い視野から食にかかわることが出来るようになる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション・子どもの健康と食生活の意義 第2回 栄養の基礎知識① 第3回 栄養の基礎知識② 第4回 栄養の基礎知識③ 第5回 食事摂取基準 第6回 献立作成 第7回 衛生管理 第8回 子どもの発育と栄養状態第 第9回 乳児期の食事（離乳食） 第10回 幼児期の食事 第11回 学童期・成人の食事 第12回 食育とは 第13回 児童福祉施設における食事と栄養 第14回 食物アレルギーの対応 第15回 まとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、学習準備等）》 1. 自分の食事を自己評価できる 2. 「食」に対して関心を持つ。 《標準学修時間の目安》 1回あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要となる。						
使用教科書 最新子どもの食と栄養, 飯塚美和子ほか, 学建書院, 978-4-7624-4841-6						
参考書 ・函館市食育推進計画 ・児童福祉施設における食事の提供ガイド（平成22年厚生労働省雇用均等・児童家庭局） ・日本人の食事摂取基準						
評価方法 授業への参加態度 試験 レポート						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
臨床心理学	15310	中俣友子	2	前期	演習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 乳幼児の毎日は、新鮮な驚きと心躍る冒険の連続である。しかし、乳幼児が会おうのは必ずしもうれしい体験や楽しい体験ばかりではない。乗り越えることが容易ではないつらい出来事によって精神的に圧倒されてしまい、様々な問題行動を示すことがしばしばある。保育者はこれらの問題に積極的に関与し、乳幼児の健やかな発達を援助していく必要がある。講義では、乳幼児に見られる様々な心理的問題および発達障害に関して、具体例を交えながらその様態と保育現場における対応方法を解説し、保育における発達援助の知識を身につけることを目標とする。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心の健康と発達援助について、問題行動別に援助の仕方を理解する。 ・子どもの発達障害と発達援助について、障害種別に援助の仕方を理解する。 ・心理療法について説明することができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 講義の目的と目標・臨床心理学とは 第2回 フロイトとユング・人間の心について 第3回 パーソナリティ理論 第4回 心身症 第5回 登校拒否と分離不安 第6回 攻撃的行動・緘黙 第7回 排泄障害 第8回 習癖異常 第9回 知的障害 第10回 広汎性発達障害・自閉症 第11回 注意欠陥多動性障害 第12回 言語発達障害・吃音 第13回 心理療法とカウンセリング 第14回 カウンセリング技法 第15回 まとめと復習 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 事前学習：次回の講義内容を確認し、関連図書などをよく読んでおくこと。 事後学習：講義内容を振り返りながら、配布プリント等を熟読し、重要な専門用語を覚えておくこと。また、疑問点については、関連図書を調べるなどして解決するようにしておくこと。 《標準学修時間の目安》 1回あたり、1時間の予習と3時間の復習を推奨する。						
使用教科書						
参考書 講義内で、プリントを適宜配布する。						
評価方法 講義内外での課題、学期末の筆記試験を実施するほか、講義への参加態度や発言なども考慮し、総合的に評価する。出席は全体の5分の4以上が必要となる。						
その他 積極的な参加を期待する。課題の提出遅れは、基本的に0点となる。なお、特別な事由があつて欠席、あるいは提出が遅れる場合には、早めに申し出ること。 受講者数によって講義内容が一部変わる場合があるので、授業内での指示に従うこと。						

科 目 名		教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単 位 数
障 害 児 保 育	14240	原 子 は る み	2	前 期	演 習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 特別支援教育が始まり、ノーマライゼーションやインクルージョンの理念を受け、障害児と健常児が一緒に保育や教育を受ける機会が多くなっている。保育現場では「気になる」子と言われる広汎性発達障害、ADHD、LDなど、さまざまな障がいのある子どもの受け入れが行われている。授業を通して、障がいのある幼児の保育支援を学ぶ。具体的には障害の基本的知識の習得と保育の実際やアセスメント、指導計画の作成、指導内容、指導方法、配慮事項などを学ぶ。また、障がいのある幼児の保護者、家庭との連携、地域との連携の重要性にもふれながら、特別支援を要する幼児の子育て支援の現状を理解し、考察することをめざす。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな障害について特性を説明できる。 ・保育における障害のある子どもへの援助の具体的な方法を身に付ける。 ・障害のある子どもの保育指導計画を作成できる。 ・支援を要する子どもや保護者に対する保育者の役割を論じることができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション・障害とは 第2回 障害児保育とは 幼稚園・保育園で配慮を要する子（発達） 第3回 障害児保育とは 幼稚園・保育園で配慮を要する子（ニーズ） 第4回 障害児保育とは 養育施設での保育 第5回 障害児の保育の実際① 視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児 第6回 障害児の保育の実際② 知的障害児・言語障害児 第7回 障害児の保育の実際③ 発達障害児（ASD、LD、ADHD等） 第8回 家庭との連携 障害のある子の子育ての実際 第9回 家庭との連携 園と家庭の連携 第10回 障害のある子の子の保育支援① 日常生活、遊び・運動 第11回 障害のある子の子の保育支援② コミュニケーション 第12回 障害のある子の子の保育支援③ 保育支援の実際（教材研究等） 第13回 障害のある子の子の支援計画① 指導目標、指導内容、アセスメントの方法 第14回 障害のある子の子の支援計画② 発達と評価 第15回 障害児保育の今後の課題 小学校、地域社会との連携を考える 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・事前に必ずテキストを読み、わからない言葉を調べること。 ・授業後は講義中のレジュメ、テキストを参考にしてノートを作成。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・次回までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。 						
使用教科書 保育者養成シリーズ 障害児保育、林邦雄・谷田貝公昭監修 青木豊編著、一藝社、 ISBN978-4-86359-045-8 C3037						
参考書 発達障害のある子への支援●幼稚園・保育園、諏訪敏明、ミネルヴァ書房						
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中におけるミニ課題～20% ・教材研究～20% ・課題レポート～40% ・授業参加態度～20% 						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
社会的養護内容	13330	川村幾代／新沼英明	2	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 本授業は、社会的養護の授業で習得した施設養護の基礎知識をもとに、児童福祉施設における実際の支援内容や方法をより深く学授業である。個々の児童に応じた自立支援計画の重要性や社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術についても学ぶものである。また、社会的養護を通して、当たり前の生活の重要性について学び、家庭支援、地域福祉についての理解や認識を深めることを目標とした。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の権利擁護と保育士等援助技術者としての倫理及び責務について説明できる。 ・ 社会的養護の実際、とりわけ、施設養護について説明できる。 ・ 自立支援計画の重要性について説明できる。 ・ 社会的養護にかかわる専門的技術について身に付けることができる。 ・ 社会的養護の課題と展望について説明できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 社会的養護の理論と実際 第2回 社会的養護の実際と保育士 第3回 社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み 第4回 社会的養護を必要とする子どもの理解と権利 第5回 施設養護のプロセス 第6回 記録および評価 第7回 ケース1 施設への入所前後の支援 第8回 ケース2 個別支援計画の作成1 第9回 ケース3 個別支援計画の作成2 第10回 ケース4 日常生活支援1 第11回 ケース5 日常生活支援2 第12回 治療的支援 第13回 施設養護の自立支援 第14回 家庭養護へ向けての支援 第15回 まとめ 社会的養護実践における課題と展望 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 授業で学習した内容について、確認し、考えて、次の授業に出席すること。 《標準学修時間の目安》 次回までに予習・復習を含めて1時間の学修が望ましい						
使用教科書 演習・保育と社会的養護内容 橋本好市・原田句哉 編 みらい出版 978-4-86015-326-7						
参考書 なし						
評価方法 レポート内容（60%）、授業態度（40%）						
その他 必要に応じてプリント配布します。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
保育実習 I	16210	原子はるみ／松田賢一	2	その他	実験・実習	4
授業目標・到達目標 《授業目標》 「保育実習」は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係 について習熟させることを目的とする。(保育実習実施基準)「保育実習 I」では見学、観察実習を主体としながら ・保育実習 I 保育所においては 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。 ・保育実習 I 施設においては 居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。 保育実習 I の履修にあたり、保育所における実習2単位および居住型児童福祉施設等における実習2単位を全て履修するものとする。 《到達目標》 保育実習指導 I の授業で提示する、保育実習 I 保育所の評価票、ならびに保育実習 I 施設の評価票に基づく						
講義計画・準備内容 1 保育所の実習では、①～⑪を実習ねらいとして、観察および補助的参加を通して体験する。 ① 実習施設について理解を深める。 ② 保育所の状況や一日の流れを理解し参加する。 ③ 子どもの観察やかかわりを通して発達を理解する。 ④ 保育計画・指導計画、様々な記録について理解する。 ⑤ 保育の実際を通して、保育環境、保育技術を習得する。 ⑥ 保育士の職務内容と役割、他の職員との役割分担、チームワークなどを具体的な姿から理解する。 ⑦ 乳幼児の家庭環境を理解し、保護者や家庭への支援の内容を理解する。 ⑧ 子どもの最善の利益を追求する保育所全体の取り組みを学ぶ。 ⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。 ⑩ 安全や疾病予防への配慮について理解する。 ⑪ 保育所を含めた地域子育て支援活動など多方面にわたる活動について理解する。 2 居住型児童福祉施設等の実習では、保育士・児童とともに生活し実習のねらい①～⑩を生活全体を通して把握する。 ① 実習施設を理解する。 ② 養護の一日の流れを全体的に理解し、参加する。 ③ 子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。 ④ 援助計画や記録について理解する。 ⑤ 生活や援助の一部を担当し、養護環境、養護技術を習得する。 ⑥ 保育士の職務内容と役割、他の職員との役割分担、チームワークについて理解する。 ⑦ 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭や地域社会を理解する。 ⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。 ⑨ 保育士としての職業倫理を理解する。 ⑩ 安全や疾病予防への配慮について理解する。 ⑪ 施設等における乳幼児保育、集団余暇活動など多方面にわたる活動について理解する 《授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習等)》 ・実習前にはテキスト、資料を熟読すること。 ・保育実習指導 I (2単位)を必ず受講すること。 《標準学修時間の目安》 ・1日の実習日誌の作成に1～2時間程度の学修が必要となる。						
使用教科書 なし						
参考書 保育実習指導 I で使用の「保育実習」テキスト						
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・実習配属施設への出勤状況 ・実習保育所、施設における実習評価 ・保育実習記録 以上を総合して評価する。						
その他 【受講条件】 1年前期に開講される卒業必修科目、保育士必修科目を単位習得済みであること。 また、これらの選択必修科目についても、1年次前期で履修すべき単位を習得済みであること。 ただし、特段の理由がある場合については、保育学科教務委員会の審査を経て特別に履修を許可することがある(科目等履修生など)。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数																														
保育実践演習	12490	志賀 直信／中俣 友子 佐々木 茂／新沼 英明	2	通年	演習	2																														
授業目標・到達目標 《授業目標》 保育実習や授業で得た知識と経験を生かし、さらに保育に関わる専門知識を統合させながら、保育の質を高めるための方法や技量を習得する。 保育実習等で身近に感じた保育に関する疑問・課題を発見し、その問題・課題について、文献・資料をもとに考察する。その課題について、子どもや保護者を援助するための技術、方法等について学習する。これらの学習の成果はレポートとしてまとめ、その内容についてのプレゼンテーションを行う。 (保育に関する現代的課題の例) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとアレルギー ・子どもと虫歯 ・子どもと自然 ・子どもの外遊び ・子どもと食育 ・子どもと虐待 ・子どもと人身売買 ・子どもの身体的・心理的発達 ・子どもの早期教育 ・子どもとゲーム・テレビ ・保育士・幼稚園教諭とストレス ・若年夫婦の子育て ・子育て支援制度 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する現代的課題を発見することができる ・保育に関する現代的課題について調べ、分析し、考察をすることができる ・保育に関するレポートを作成し、その内容を分かりやすく発表することができる 																																				
講義計画・準備内容 《講義計画》 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 オリエンテーション、 保育に関する現代的課題1</td> <td style="width: 50%;">第16回 レポートの書き方について5</td> </tr> <tr> <td>第2回 保育に関する現代的課題2</td> <td>第17回 レポートの書き方について6 考察</td> </tr> <tr> <td>第3回 保育に関する現代的課題3</td> <td>第18回 レポートの書き方について7</td> </tr> <tr> <td>第4回 保育に関する現代的課題4</td> <td>第19回 レポートの書き方について8 図表・引用文献・書式の確認</td> </tr> <tr> <td>第5回 保育に関する現代的課題5</td> <td>第20回 レポートの書き方について9</td> </tr> <tr> <td>第6回 現代的課題について調べる1 論文を検索しよう</td> <td>第21回 レポートの書き方について10</td> </tr> <tr> <td>第7回 現代的課題について調べる2 論文の内容を整理しよう</td> <td>第22回 レポートの書き方について11</td> </tr> <tr> <td>第8回 研究の進め方について1 文献研究、注意(剽窃)</td> <td>第23回 最終レポート提出、 プレゼンテーション作成1</td> </tr> <tr> <td>第9回 研究の進め方について2 質問紙調査</td> <td>第24回 プレゼンテーション作成2</td> </tr> <tr> <td>第10回 レポートの書き方について1 目的と方法</td> <td>第25回 プレゼンテーション1 発表を聞き、議論しよう</td> </tr> <tr> <td>第11回 中間発表について、 レポートの書き方について2</td> <td>第26回 プレゼンテーション2 発表を聞き、議論しよう</td> </tr> <tr> <td>第12回 中間発表会1</td> <td>第27回 プレゼンテーション3 発表を聞き、議論しよう</td> </tr> <tr> <td>第13回 中間発表会2、質問紙調査</td> <td>第28回 プレゼンテーション4 発表を聞き、議論しよう</td> </tr> <tr> <td>第14回 質問紙調査、結果執筆の準備、 レポートの書き方について3 データのまとめ方</td> <td>第29回 プレゼンテーション5 発表を聞き、議論しよう</td> </tr> <tr> <td>第15回 レポートの書き方について4 結果、前期のまとめ</td> <td>第30回 プレゼンテーション6 発表を聞き、議論しよう、 全体の総括、抄録集配布</td> </tr> </table> 《授業外に行うべき学習(予習・復習・準備学習等)》 事前学習：新聞、ニュースに関心を向け、保育に関する時事問題をきちんとフォローしておくこと 事後学習：授業内容を振り返りながら、出題された課題について、図書館・情報処理室などを活用し、締め切りまでにきちんと仕上げしておくこと。課題をどのようにして進めればよいか分からない場合は、教員に積極的に質問し、必ず理解してから課題や授業に臨むこと 《標準学修時間の目安》 個人差はあると思われるが、レポートの作成・発表まで過程で、毎回予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい							第1回 オリエンテーション、 保育に関する現代的課題1	第16回 レポートの書き方について5	第2回 保育に関する現代的課題2	第17回 レポートの書き方について6 考察	第3回 保育に関する現代的課題3	第18回 レポートの書き方について7	第4回 保育に関する現代的課題4	第19回 レポートの書き方について8 図表・引用文献・書式の確認	第5回 保育に関する現代的課題5	第20回 レポートの書き方について9	第6回 現代的課題について調べる1 論文を検索しよう	第21回 レポートの書き方について10	第7回 現代的課題について調べる2 論文の内容を整理しよう	第22回 レポートの書き方について11	第8回 研究の進め方について1 文献研究、注意(剽窃)	第23回 最終レポート提出、 プレゼンテーション作成1	第9回 研究の進め方について2 質問紙調査	第24回 プレゼンテーション作成2	第10回 レポートの書き方について1 目的と方法	第25回 プレゼンテーション1 発表を聞き、議論しよう	第11回 中間発表について、 レポートの書き方について2	第26回 プレゼンテーション2 発表を聞き、議論しよう	第12回 中間発表会1	第27回 プレゼンテーション3 発表を聞き、議論しよう	第13回 中間発表会2、質問紙調査	第28回 プレゼンテーション4 発表を聞き、議論しよう	第14回 質問紙調査、結果執筆の準備、 レポートの書き方について3 データのまとめ方	第29回 プレゼンテーション5 発表を聞き、議論しよう	第15回 レポートの書き方について4 結果、前期のまとめ	第30回 プレゼンテーション6 発表を聞き、議論しよう、 全体の総括、抄録集配布
第1回 オリエンテーション、 保育に関する現代的課題1	第16回 レポートの書き方について5																																			
第2回 保育に関する現代的課題2	第17回 レポートの書き方について6 考察																																			
第3回 保育に関する現代的課題3	第18回 レポートの書き方について7																																			
第4回 保育に関する現代的課題4	第19回 レポートの書き方について8 図表・引用文献・書式の確認																																			
第5回 保育に関する現代的課題5	第20回 レポートの書き方について9																																			
第6回 現代的課題について調べる1 論文を検索しよう	第21回 レポートの書き方について10																																			
第7回 現代的課題について調べる2 論文の内容を整理しよう	第22回 レポートの書き方について11																																			
第8回 研究の進め方について1 文献研究、注意(剽窃)	第23回 最終レポート提出、 プレゼンテーション作成1																																			
第9回 研究の進め方について2 質問紙調査	第24回 プレゼンテーション作成2																																			
第10回 レポートの書き方について1 目的と方法	第25回 プレゼンテーション1 発表を聞き、議論しよう																																			
第11回 中間発表について、 レポートの書き方について2	第26回 プレゼンテーション2 発表を聞き、議論しよう																																			
第12回 中間発表会1	第27回 プレゼンテーション3 発表を聞き、議論しよう																																			
第13回 中間発表会2、質問紙調査	第28回 プレゼンテーション4 発表を聞き、議論しよう																																			
第14回 質問紙調査、結果執筆の準備、 レポートの書き方について3 データのまとめ方	第29回 プレゼンテーション5 発表を聞き、議論しよう																																			
第15回 レポートの書き方について4 結果、前期のまとめ	第30回 プレゼンテーション6 発表を聞き、議論しよう、 全体の総括、抄録集配布																																			
使用教科書 なし																																				
参考書 なし																																				
評価方法 全体の4/5以上の出席、レポート提出、プレゼンテーションの実施が単位取得の必須条件である。 成績は、学習態度(20%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)によって、総合的に評価する。																																				
その他 この授業は一般教室あるいは情報処理室を使用して行われるので、掲示等に注意すること(初回授業は一般教室で実施)。なお、情報処理室を使用して授業が行われる場合には、各自、USBメモリや印刷用A4用紙を持参すること。 なお、本授業では、主体的に学ぶことが強く望まれる。発表や質問、議論、文献検索(情報収集)、質問紙調査等を積極的に行い、課題やレポート等の締切は厳守すること。 最終レポートを含め、提出物に関しては、締め切り日時を過ぎた提出は基本的に0点となるので、必ず余裕を持って作業を進め、提出日時にきちんと提出できるように、十分に注意すること。																																				

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
発達心理学	15210	藤友雄暉	2	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 人間の発達について、他の動物との比較対照も含めて、学ぶ授業である。人間の発達は、(1) 生命体としての発達 (2) 物的環境との関わりによる発達 (3) 人的環境との関わりによる発達 の3つの側面から考えることができる。この三側面による発達を学ぶことにより、全体としての人間、統合された姿としての人間の発達について学習する。 《到達目標》 ・子どもの心身の発達について説明することができ、それを実際の保育実践として実行できる。 ・生活(環境)と遊び(対人関係)を通して学ぶ 子どもの経験や学習の過程を説明することができ それを保育実践の中で伸ばさせることができる。 ・支援をすることが必要とされる子どもに対して 保育の場における発達援助の方法と技術を習得する。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 子ども理解における発達の把握 第2回 個人差や発達過程に応じた保育 第3回 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 第4回 環境としての保育者と子どもの発達 第5回 子どもの相互のかかわりと関係作り 第6回 自己主張と自己統制 第7回 子ども集団と保育の環境 第8回 子どもの生活と遊び 第9回 子どもの遊びと学び 第10回 生活にわたる生きる力の基礎を培う 第11回 基本的生活習慣の獲得と発達援助 第12回 自己の主体性の形成と発達援助 第13回 発達の課題に応じた援助やかかわり 第14回 発達の連続性と就学への支援と協働 第15回 現代社会における子どもの発達と保育の課題 《授業外に行うべき学習(予習・復習・準備学習等)》 ・毎時間の学習整理NOTEを提出 《標準学修時間の目安》 ・次回までに予習復習を含めて2時間の学修が望ましい						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 定期試験(80%) 授業参加態度や授業内での発言(20%)						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
保育相談支援	13320	川村幾代	2	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 保育相談支援とは、子どもを中心に保護者と保育者が手を取り合いながら子育てする仲間になることだとイメージして下さい。そのためには、保育者が保護者の不安に気づきエンパワメントしていくことが大切です。授業の前半は主に、子育てに関する知識を習得し、後半ではその知識を元に具体的な支援スキルを身につけていきたいと考えています。 《到達目標》 1 保育相談支援の目的と役割を概説できる。 2 保護者支援の基本を理解する。 3 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4 保育所等児童福祉施設における保育相談支援の実際について理解する。 5 地域の子育て支援の方法を挙げることができる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション（授業内容及び進め方・基本的な心構え） 保育相談支援とは何か 第2回 子育ての大変さを理解しよう① 産後うつ 産後クライシス 第3回 子育ての大変さを理解しよう② 妊婦シュミレーター体験 第4回 保育相談支援の方法 第5回 子育てに関するキーワードを元にGワーク （子どものケンカ いい子ってどんな子？ 子どものケガと事故 友だちのこと） 第6回 世界の子育てを見てみよう 第7回 赤ちゃんポストについて ～全員参加型討論 第8回 障がい児をめぐる家族、虐待する親への支援を考える 第9回 個人面談のロールプレイ 発達障がいの可能性を伝えるには 第10回 DVD「よい子の味方」を鑑賞しディスカッションを行う 第11回 「心を聴く」知識と技術 第12回 子育て相談支援の展開 第13回 連絡帳の書き方 心をつなぐ書き方のポイントと実際の相談に答える 第14回 保護者支援を目的とした通信の作成 第15回 まとめ モンスターペアレントについて考える 精神に問題を抱えた親への対応 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 子育ての困難を理解する上で虐待や発達障がいの知識は必要不可欠なので、十分復習して授業に望んでください。 《標準学修時間の目安》 ・次回までに予習・復習を含めて1時間の学修が望ましい						
使用教科書 保護者支援スキルアップ講座 柏女霊峰ほか ひかりのくに 978-4-564-60762-2						
参考書 必要時プリントを渡します						
評価方法 レポート60% 授業態度40%						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
総合表現	12350	長谷川艶子／三沢大樹	2	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 1 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2 身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を修得する。 3 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を修得する。 《到達目標》 1 子どもの遊びを豊かに展開するための表現活動に関する知識を理解することができる。 2 総合的な表現活動（身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現）に関する技術を修得することができる。 3 表現活動に必要な教材や環境構成を考え、具体的に作成したり、活用するための方法を身につけることができる。 4 子どもに関わる様々な文化事象に関心を持ち、理解することができる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション 第2回 表現するとは（自分と向き合う） 第3回 親子遊びの重要性 第4回 保育及び教育の中の表現① 第5回 保育及び教育の中の表現② 第6回 表現活動における発見（もう一人の自分） 第7回 総合表現の基礎基本① 第8回 総合表現の基礎基本② 第9回 想像から創造へ 第10回 観察から創造へ 第11回 ごっこ遊びから表現あそびへ① 第12回 ごっこ遊びから表現あそびへ② 第13回 ごっこ遊びから表現あそびへ③ 第14回 ごっこあそびから表現あそびへ④ 第15回 まとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ・教科書は使用しないので、授業内容を振り返り、まとめ、自分なりのテキストを作る。 ・子どもを取り巻く環境や文化に興味や関心を持つ（昔話、童謡、子どもの歌に親しむ） 《標準学修時間の目安》 ・次回までに予習・復習を含めて4時間程度の学修が望ましい。						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 授業毎にレポートを提出40%、課題提出40%、授業態度20%。						
その他 授業準備：ジャージなど動きやすい服装。運動靴あるいは裸足。筆記用具。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
教職概論	17220	大西正光	2	後期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼児教育の成否は、教員等の資質能力に負うところが極めて大きく、その職務については、人間の心身の発達に直接関わるものであることから、高い専門性が要求される。教職概論では、教員等の職務を中心に保育者が備えるべき条件の要点を概括的に取り上げて教職の全体像を把握し、専門職としての基礎を確立しようとするものである。 この講座では、関係する法規等に照らしながら、教職の意義、保育者の役割、職務内容、サービスなど教職等に必要な知識及び技能等に関する学習を通して、教職の魅力や教職への意欲、適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性及び重要性について理解を深めることを目標としている。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・教職とはどのような職業か具体的に説明できる。 ・今日、保育者に求められている資質能力について説明できる。 ・望ましい教員等になるための自己の課題について具体的に説明できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 教員等の役割と倫理 第2回 教員等の制度的位置づけ 第3回 教育公務員に課せられた職業上の義務と身分上の義務 第4回 問題行動への適切な対応を図る教員等の役割（1） 第5回 問題行動への適切な対応を図る教員等の役割（2） 第6回 幼稚園等と小学校との連携・交流の推進を図る教員等の役割 第7回 特別支援教育の推進者としての教員等の役割（1） 第8回 特別支援教育の推進者としての教員等の役割（2） 第9回 子育て支援に果たす教員等の役割 第10回 組織体の一員としての教員等に求められる職務内容 第11回 保育の専門性を高める教員等の自己評価 第12回 専門職的成長と園内研修の在り方 第13回 これからの教員等に求められる資質能力（1） 第14回 これからの教員等に求められる資質能力（2） 第15回 教員等の適性の理解と教員等の協働 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 講義で学んだ内容について毎時間振り返るとともに、配布した資料等を活用して復習・予習を行い、理解を深める。 《標準学修時間の目安》 1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 受講態度（20%）、レポートの内容（80%）により、総合的に評価する。						
その他 必要な資料を配布するので、教科書は不要である。						

科 目 名		教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単 位 数
教 育 課 程 総 論	17230	大 西 正 光	2	前 期	講 義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼稚園等では、各園の目標の実現に向けて、幼児が幼児期にふさわしい生活を送り、園全体を通してどのような経験を積み重ねていくかという筋道の骨子を示した「教育課程や保育課程」（以下、「教育課程等」）を編成している。この教育課程等は、各園において具体的な指導計画を作成する際の骨格になるものである。 この講座では、教育課程等の編成の意義や各種の指導計画作成の必要性、これらの活用・評価・改善についてどのように取り組めばよいかなどを具体的に学習し、理解を深めることを目標としている。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程等の全体構造を理解し、環境を通して行う教育を基本とする幼児教育における教育課程等の意義と役割を説明できる。 ・教育課程等を編成するためには、各園の目標、幼稚園教育要領等の編成の基準、子どもの実態、園の環境等が重要な要素であることを説明できる ・教育課程等に基づいて各種の指導計画が作成されていることを説明できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 教育課程等の概念 第2回 教育課程等の意義 第3回 幼児教育の基本 第4回 各園の目標と教育課程等との関わり 第5回 幼稚園教育要領等と教育課程等の基準 第6回 保育内容としての5領域と教育課程等の編成（1） 第7回 保育内容としての5領域と教育課程等の編成（2） 第8回 教育課程等の編成に当たっての基本的な考え方と編成手順 第9回 教育課程等の編成と展開 第10回 教育課程等の編成と指導計画の関係 第11回 指導計画の種類と作成の要素 第12回 長期の指導計画の種類と作成上の留意事項 第13回 短期の指導計画の種類と作成上の留意事項 第14回 教育課程等の評価・改善 第15回 特色ある園づくりと教育課程等の編成 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 講義で学んだ内容について毎時間振り返るとともに、教科書や参考書等を活用して復習・予習を行い、理解を深める。 《標準学修時間の目安》 1回の講義あたり、予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。						
使用教科書 新保育課程・教育課程論，金村美千子，同文書院，ISBN978-4-8103-1400-7						
参考書 幼稚園教育要領解説，文部科学省，フレーベル館 保育所保育指針解説書，厚生労働省，フレーベル館						
評価方法 受講態度（20%）、レポートの内容（80%）により、総合的に評価する。						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
教育の方法と技術	17260	木村美佐子	2	前期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼児期にふさわしい教育を理解したうえで、「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、幼小の連携、教材研究の方法について学びを深め、豊かな保育を展開するための方法を学ぶことを目標とする。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期にふさわしい教育を理解し、適切な指導・援助方法について自分なりに考えることができる。 ・幼稚園における「環境を通して行う教育」を理解し、説明することができる。 ・教材研究の重要性を説明できる。 ・明確な視点をもって、保育を観察することができる。 ・保育における評価を理解し、説明することができる。 ・幼小連携の必要性とその取組みについて説明できる。 ・多様な保育形態を説明できる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション 保育の多様性 第2回 幼児期にふさわしい教育の方法 第3回 環境を通して行う教育1 第4回 環境を通して行う教育2 第5回 遊びの中の学びを育む保育 第6回 教材の捉え方・教材研究の必要性 第7回 保育における観察の視点 第8回 方法としての様々な保育形態1 第9回 方法としての様々な保育形態2 第10回 幼稚園観察学習 第11回 保育における評価 第12回 幼児教育と小学校教育の連続性と連携の実際 第13回 視聴覚教育の歴史と方法 第14回 情報機器や視聴覚機器の効果的な使用方法 第15回 まとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・他の授業で学習した保育に関する内容を整理しておくこと ・実習で明らかとなった課題を整理しておくこと ・様々な保育形態について、事前に調べておくこと 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要である 						
使用教科書						
参考書 なし						
評価方法 レポート（40％） 課題（40％） 受講態度（20％）						
その他						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
教育相談	17240	藤友雄暉	2	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 教育相談の実際について学習する。 カウンセリングマインドを理解する。 《到達目標》 マイクロカウンセリング技法を修得し 実際にカウンセリングを実施できる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 (基本的かかわり技法) かかわり行動の技法 導入 かかわり行動 第2回 質問技法 はげまし技法 第3回 いいかえ技法 第4回 感情の反映技法 要約技法 第5回 ラポール 面接の構造化 第6回 問題の定義 第7回 目標の定義 第8回 選択肢の探求 第9回 一般化 第10回 (積極技法) 積極技法 概説 基本的傾聴技法の連鎖 第11回 焦点のあてかた技法 第12回 対決技法 第13回 5段階の面接 第14回 自己主張訓練 マイクロ技法教授法 第15回 指示技法 フィードバック 自己開示法 《授業外に行うべき学習 (予習・復習・準備学習等)》 ・毎時間の学習整理NOTEを提出 《標準学修時間の目安》 ・次回までに予習復習を含めて2時間の学修が望ましい						
使用教科書 なし						
参考書 マイクロカウンセリング,アレン・E・アイビー,川島書店,ISBN4-7610-0329-4						
評価方法 定期試験 (80%) 授業参加態度や授業内での発言。(20%)						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数																																
教育経営論	17250	高橋 豊	2	前期	講義	2																																
授業目標・到達目標 《授業目標》 家庭・地域の教育力の低下と、幼稚園・保育園への期待が高まる中、今あらためて教育とは何かが問われている。本科目では幼稚園教育を取り巻く法的内容、教育関係組織を理解し、現在幼稚園が直面している課題とこれからの時代を担う幼稚園教育のあり方等を実例を中心に学習する。 《到達目標》 1 教育関連法の背景と内容について理解し、説明できる。 2 公教育の制度と運営についての原理を理解し、説明できる。 3 幼稚園経営推進計画を目指す子ども像と結びつけて説明できる。 4 教育改革の動向と当面する教育課題について述べるができる。 5 幼稚園を取り巻く危機管理、トラブル等を理解し、その対処法を説明できる。																																						
講義計画・準備内容 《講義計画》 <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション、教育経営とは何か</td> <td>第9回</td> <td>教師とは ・教師と教師を取り巻く現状 ・教師の職務</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>法律と教育経営 ・教育基本法改正の背景と課題</td> <td>第10回</td> <td>教育経営と危機管理 ・不審者対応</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>法律と幼稚園をつなぐもの① ・文部科学省と幼稚園教育要領等</td> <td>第11回</td> <td>幼稚園を取り巻く問題と対応① ・幼稚園への苦情とモンスターペアレント ・教師の対応</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>法律と幼稚園をつなぐもの② ・教育委員会、教育委員会制度 ・教育行政執行方針</td> <td>第12回</td> <td>幼稚園を取り巻く問題と対応② ・幼稚園トラブルと教師のメンタルケア</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>地方教育行政の仕組み ・函館市教育委員会の組織、運営 ・幼稚園教育推進計画</td> <td>第13回</td> <td>幼稚園教育推進計画作成① ・私にとって理想の幼稚園とは</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>目指す子ども像 ・子ども像の意味するもの ・子ども像と教育経営</td> <td>第14回</td> <td>幼稚園教育推進計画② ・幼稚園教育推進計画交流</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>幼稚園経営推進計画 ・公立幼稚園における幼稚園経営案 ・幼稚園経営の具体</td> <td>第15回</td> <td>まとめ ・教育推進計画と評価 ・授業を振り返って</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>幼稚園経営の実際 ・「講演」私の幼稚園経営 ・園長の夢と幼稚園改革</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 《授業外にすべき学習（予習・復習・学習準備等）》 1. 授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う（教科書の事前・事後学習） 2. 新聞・雑誌等における「教育関係ほかの記事」への関心（授業において発表） 3. 幼稚園・保育園の参観・園児との交流（ボランティア活動等） 4. 幼稚園・保育園の情報収集と課題の発見（授業において発表） 5. 幼稚園・保育園の行事参観（運動会等） 6. 資料・参考書やノートの整理 7. 現場の教師の話を聞く 《標準学修時間の目安》 ・次回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							第1回	オリエンテーション、教育経営とは何か	第9回	教師とは ・教師と教師を取り巻く現状 ・教師の職務	第2回	法律と教育経営 ・教育基本法改正の背景と課題	第10回	教育経営と危機管理 ・不審者対応	第3回	法律と幼稚園をつなぐもの① ・文部科学省と幼稚園教育要領等	第11回	幼稚園を取り巻く問題と対応① ・幼稚園への苦情とモンスターペアレント ・教師の対応	第4回	法律と幼稚園をつなぐもの② ・教育委員会、教育委員会制度 ・教育行政執行方針	第12回	幼稚園を取り巻く問題と対応② ・幼稚園トラブルと教師のメンタルケア	第5回	地方教育行政の仕組み ・函館市教育委員会の組織、運営 ・幼稚園教育推進計画	第13回	幼稚園教育推進計画作成① ・私にとって理想の幼稚園とは	第6回	目指す子ども像 ・子ども像の意味するもの ・子ども像と教育経営	第14回	幼稚園教育推進計画② ・幼稚園教育推進計画交流	第7回	幼稚園経営推進計画 ・公立幼稚園における幼稚園経営案 ・幼稚園経営の具体	第15回	まとめ ・教育推進計画と評価 ・授業を振り返って	第8回	幼稚園経営の実際 ・「講演」私の幼稚園経営 ・園長の夢と幼稚園改革		
第1回	オリエンテーション、教育経営とは何か	第9回	教師とは ・教師と教師を取り巻く現状 ・教師の職務																																			
第2回	法律と教育経営 ・教育基本法改正の背景と課題	第10回	教育経営と危機管理 ・不審者対応																																			
第3回	法律と幼稚園をつなぐもの① ・文部科学省と幼稚園教育要領等	第11回	幼稚園を取り巻く問題と対応① ・幼稚園への苦情とモンスターペアレント ・教師の対応																																			
第4回	法律と幼稚園をつなぐもの② ・教育委員会、教育委員会制度 ・教育行政執行方針	第12回	幼稚園を取り巻く問題と対応② ・幼稚園トラブルと教師のメンタルケア																																			
第5回	地方教育行政の仕組み ・函館市教育委員会の組織、運営 ・幼稚園教育推進計画	第13回	幼稚園教育推進計画作成① ・私にとって理想の幼稚園とは																																			
第6回	目指す子ども像 ・子ども像の意味するもの ・子ども像と教育経営	第14回	幼稚園教育推進計画② ・幼稚園教育推進計画交流																																			
第7回	幼稚園経営推進計画 ・公立幼稚園における幼稚園経営案 ・幼稚園経営の具体	第15回	まとめ ・教育推進計画と評価 ・授業を振り返って																																			
第8回	幼稚園経営の実際 ・「講演」私の幼稚園経営 ・園長の夢と幼稚園改革																																					
使用教科書																																						
参考書 ここが変わった！NEW幼稚園教育要領・NEW保育所保育指針ガイドブック,無藤隆・民秋言,フレーベル																																						
評価方法 講義への参加態度、提出レポートの内容により評価する。																																						
その他 幼稚園教育要領（他科目で購入済み）持参のこと																																						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数																										
教育実習	17370	木村美佐子／新沼 英明 中俣 友子	2	前期	実験・実習	5																										
授業目標・到達目標 《授業目標》 教育実習は、本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながらか、体験的・実践的に幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付ける良い機会である。 この機会をより充実した効果のあるものにするためには、事前指導が必要であり、教育実習の意義を踏まえ、教育実習に臨む心構えの確立や諸準備、幼稚園教育を学ぶ自分なりの視点を自己課題として設定できるようにすることを目標としている。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義、目的を理解し、自己課題を明確にできる。 ・子ども、保育者とコミュニケーションを図りながら、主体的に実習に取り組むことができる。 ・教育目標のねらいや内容を理解し、その実現のために適当な環境を準備して一人一人に応じた援助ができる。 ・課題を明確にして実習内容を記録し、次の保育に生かすことができる。 ・実習での学びを整理し、今後の課題を設定できる。 																																
講義計画・準備内容 《講義計画》 <table border="0"> <tr> <td>【事前・事後指導】 *事前・事後指導に関しては、 授業として実施する</td> <td>第13回 指導案指導 第14回 個別指導 第15回 オリエンテーションの諸注意・実習の最終確認 実習報告会（後期；日程は別途指示） *授業内容については、順番が変更になることがある</td> </tr> <tr> <td>第1回 ガイダンス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回 教育実習の意義と目的・幼稚園教育の理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回 実習の心構え・訪問指導担当教員との顔合わせ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回 実習関係書類の作成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回 実習記録の書き方1</td> <td>【教育実習】 *幼稚園における3週間の実習</td> </tr> <tr> <td>第6回 実習記録の書き方2</td> <td>・幼児理解</td> </tr> <tr> <td>第7回 個別指導</td> <td>・保育内容の理解</td> </tr> <tr> <td>第8回 幼稚園観察学習</td> <td>・幼稚園教諭の職務の理解</td> </tr> <tr> <td>第9回 研究保育について1</td> <td>・指導技術の習得</td> </tr> <tr> <td>第10回 研究保育について2</td> <td>・教材研究（指導計画の立案・実施等）</td> </tr> <tr> <td>第11回 現場の先生から</td> <td>・実習日誌の適切な記録</td> </tr> <tr> <td>第12回 幼稚園観察学習</td> <td>・教育観の確立</td> </tr> </table> 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・自己課題の設定、実習日誌の記録、指導案作成等は、目的意識を持ち、資料を参考にしながら取り組むこと 							【事前・事後指導】 *事前・事後指導に関しては、 授業として実施する	第13回 指導案指導 第14回 個別指導 第15回 オリエンテーションの諸注意・実習の最終確認 実習報告会（後期；日程は別途指示） *授業内容については、順番が変更になることがある	第1回 ガイダンス		第2回 教育実習の意義と目的・幼稚園教育の理解		第3回 実習の心構え・訪問指導担当教員との顔合わせ		第4回 実習関係書類の作成		第5回 実習記録の書き方1	【教育実習】 *幼稚園における3週間の実習	第6回 実習記録の書き方2	・幼児理解	第7回 個別指導	・保育内容の理解	第8回 幼稚園観察学習	・幼稚園教諭の職務の理解	第9回 研究保育について1	・指導技術の習得	第10回 研究保育について2	・教材研究（指導計画の立案・実施等）	第11回 現場の先生から	・実習日誌の適切な記録	第12回 幼稚園観察学習	・教育観の確立
【事前・事後指導】 *事前・事後指導に関しては、 授業として実施する	第13回 指導案指導 第14回 個別指導 第15回 オリエンテーションの諸注意・実習の最終確認 実習報告会（後期；日程は別途指示） *授業内容については、順番が変更になることがある																															
第1回 ガイダンス																																
第2回 教育実習の意義と目的・幼稚園教育の理解																																
第3回 実習の心構え・訪問指導担当教員との顔合わせ																																
第4回 実習関係書類の作成																																
第5回 実習記録の書き方1	【教育実習】 *幼稚園における3週間の実習																															
第6回 実習記録の書き方2	・幼児理解																															
第7回 個別指導	・保育内容の理解																															
第8回 幼稚園観察学習	・幼稚園教諭の職務の理解																															
第9回 研究保育について1	・指導技術の習得																															
第10回 研究保育について2	・教材研究（指導計画の立案・実施等）																															
第11回 現場の先生から	・実習日誌の適切な記録																															
第12回 幼稚園観察学習	・教育観の確立																															
使用教科書																																
参考書 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館																																
評価方法 実習園の評価（50%） 事前・事後指導での課題・受講態度（50%）																																
その他 <ul style="list-style-type: none"> *事後指導・実習報告会は別日程で実施する。 講条件 <ul style="list-style-type: none"> ・1年次開講の卒業必修科目、幼稚園教諭必修科目を単位取得済みであること。また、これらの選択必修科目についても、1年次で履修すべき単位を取得済みであること。 ・ただし、特段の理由がある場合については、保育学科教務委員会の審査を経て特別に履修を許可することがある（科目履修生など）。 <ul style="list-style-type: none"> *事前・事後指導においては、幼稚園教育要領解説・実習ファイルを毎回持参すること。 																																

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
教職実践演習(幼稚園)	17480	志賀直信／中俣友子	2	後期	演習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 教育実習等の成果と課題を踏まえ、幼稚園教諭として必要な幼児理解、保育実践力、学級経営力、特別なニーズを必要とする幼児に対する専門的な指導力、対人関係力を視点として、各自の課題解決と力量向上を図ることを目的とする。現職教諭による幼児理解や指導計画、保育実践等の講義やグループ討議の充実を図り、幼稚園教諭としての基本的な態度や職業意識を養う。グループ協議や活動を継続し、対人関係能力を高めるとともに、チーム援助の姿勢を育む。また模擬保育ではロール・プレイを取り入れ、保育者、幼児、保護者等の立場や心情を体験的に理解し、専門職としての力量向上を図る必要性を習得させる。実践研修においては、関係機関や専門機関（教育委員会、児童相談所、療育センター等）の役割を知り、助言を得て地域の子育て環境への視野を広げることをも意図している。						
《到達目標》 ・専門職となる使命感や責任感、教育的愛情を高め、幼稚園教諭として基本的な資質・能力を身に付ける。 ・幼児理解を深め、発達を支え促す実践力を身に付ける。 ・社会人、職業人として対人関係能力を高め、職場内のコミュニケーションや相互援助の姿勢を身に付ける。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 インTRODクシヨン・教育実習等の成果と課題を教職カルテをもとに振り返り、学習の見直しを立てる。年齢別指導案作成グループ分け。 第2回 自己課題を発表し、課題の共有とその解決の仕方をグループで協議する。 第3回 現職園長による「幼稚園が求める教師像」の講話を聞き、感想を話し合い、課題意識を持つ。 第4回 グループ研究① 現職教諭の師範保育を参観する。 第5回 現職教諭による、幼稚園の教育課程、学級経営案、指導計画等を聞き、幼児理解のための記録の意義を再確認し理解する。 第6回 グループ研究② 観察と講話に基づき、幼児の実態の確認・具体的計画・教材研究をする。 第7回 グループ研究③ 保育指導案立案・教材研究をする。 第8回 グループ研究④ 保育指導案の作成（指導案の一次提出）をする。 第9回 教育実習評価より自己課題の再認識と深化。グループ研究⑤ 模擬保育用教材等の準備をする。 第10回 グループ研究⑤ 現場教諭の助言を受け、保育指導案の検討・修正及び模擬保育発表教材研究・準備をする。 第11回 グループ研究⑥ 立案した指導案で模擬保育を行い助言を得る。 第12回 実践研修① 関係機関や専門機関の役割を知り、子育て環境への意識を深める。（専門家によるアドバイスを受ける） 第13回 実践研修② 関係機関や専門機関の役割を知り、子育て環境への意識を深める。（専門家によるアドバイスを受ける） 第14回 実践研修③ 関係機関や専門機関の役割を知り、子育て環境への意識を深める。（専門家によるアドバイスを受ける） 第15回 自分が目指す教師像を明確にして自己評価、授業の成果を記述し発表する。 《授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習等）》 事前学習：これまでの授業と教育実習を常に振り返り、幼児の発達段階における遊びと生活をイメージしておくこと。 事後学習：指導案立案、教材研究等は授業では時間的に不足するので、授業の空き時間、放課後を利用してグループで協議し早めに取り組むこと。 《標準学修時間の目安》 次回までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 ・レポート課題～50% ・指導案の作成・発表～30% ・授業態度、グループ協議における積極性～20%						
その他 第1回目、第15回目の授業で「教職履修カルテ」「自己評価シート」の確認と記入を行なう。						

科 目 名		教 員 名	配当年次	期間	形態	単位数
幼 児 理 解	12380	伊 勢 昭	2	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼児期の子どもの発達特性について、一般的、個別的な両側面から学習する。幼児期は発達的变化の著しい時期であり、この変化を年齢に沿って理解することが、集団教育における幼児理解の第一歩である。発達を促す要因の一つに、子どもを取り巻く様々な環境があり、個々の子どもの発達特性も又、この環境によってそれぞれに形成されるものであり、そこにこそ教育の成立する理由が存在する。これらの理論的観点から、子どもの発達の一般的特性と個別的特性についての基礎的な理論と実際的な方法の理解を目標とする。 個々の幼児理解に関しては観察法等の資料収集法を中心としつつも、幼稚園教育現場を観察し交流を交えながら解説する。 資料収集法に関しては簡単な実習を行い、レポートを提出させる。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な発達理論を説明できる ・ 発達段階について説明できる ・ 発達と学習について説明できる ・ 各発達段階ごとに子どもの特徴を説明できる ・ 簡単なテストを適用できる ・ 簡単な質問紙調査ができる 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション：幼児教育と幼児保育 第2回 子どもの発達とその特徴I：胎内から6歳まで 第3回 子どもの発達とその特徴II：発達に影響を与える要因 第4回 幼児理解の方法I：幼児理解の基礎 第5回 幼児理解の実際I：観察法1 第6回 幼児理解のための観察 第7回 幼児理解の方法II 第8回 幼児理解の方法III 第9回 幼児理解の実際II：観察法2 第10回 幼児理解の実際III：観察法の実施 第11回 幼児理解の実際IV：観察法のまとめ 第12回 幼児理解の実際V：質問紙法1 第13回 幼児理解の実際VI：質問紙法2 第14回 幼児理解の実際VII：その他 第15回 まとめ：資料整理の方法とレポートの作成 《授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1～4－生涯発達における幼児期の意義を理解する ・ 5～10－幼児期の特性に合わせた現代の幼児を取り囲む状況を理解する ・ 11～15－人との関わりを特徴的な活動を通して、幼児の発達の姿を理解する 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。 						
使用教科書 発達の理解と保育の課題・無藤 隆 編・同文書院 ISBN978-4-8103-1381-9						
参考書 「日本子ども資料年鑑 2008」・日本子ども家庭総合研究所・KTC中央出版 「最新保育資料集2010」・ミネルヴァ書房						
評価方法 授業の中では単元ごとにレポート提出を義務づける（得点配分30%）と共に、学期末には筆記による定期試験（得点配分50%）を実施する。授業への参加態度や授業内での発言等（20%）も考慮し、総合的に評価する。						
その他 期間中に附属幼稚園において「子どもの実態」に関し、観察実習があります。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
音楽応用	11310	佐々木茂 類家 唯/石丸典子	2	後期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 本授業では、音楽Ⅰ・Ⅱで培った基本的な知識や技術をもとに、専攻実技とアンサンブルの学習を行う。学生は、声楽、ピアノ、室内楽（器楽）から任意の1つを選択すること。 (1) 声楽専攻：童謡や唱歌、芸術歌曲等の歌唱法を修得し、保育者に必要な歌唱力を養う。また、専攻生同士でオペラの重唱曲などの声楽アンサンブルに取り組む。 (2) ピアノ専攻：様々なピアノ作品の様式について理解を深め、高度な演奏技術を修得する。また、専攻生同士でピアノ・アンサンブル（連弾）に取り組む。 (3) 室内楽専攻：クラリネット・打楽器・和楽器（箏）を中心に、さまざまな形式による合奏法を修得する。また、室内楽を行うためには高度な演奏技術が求められることから、各自が選択した楽器の演奏技術の学習も並行して行う。 《到達目標》 ○ 声楽専攻 ・声楽の発声法の基礎を学び、歌唱技術を身につける。 ・古典イタリア歌曲・ドイツリート・日本歌曲のうち何れかの芸術歌曲を学び、その成果を演奏会で発表することができる。 ・声楽アンサンブルを学び、演奏することができる。 ○ ピアノ専攻 ・自分が演奏するピアノ曲を形式や様式の面から楽曲分析し、説明することができる。 ・特にロマン派以降におけるピアノ曲の演奏技術を身に付け、その成果を演奏会で発表することができる。 ・ピアノアンサンブル（連弾）を学び、演奏することができる。 ○ 室内楽専攻 ・各自の扱う楽器の演奏に必要な基礎技術を学び、室内楽を合奏することができる。（管弦打楽器の場合） ・箏の基礎的な演奏技術を習得し、任意の箏曲を合奏することができる。（箏曲の場合）						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 ガイダンス 第2回 実技レッスン① 第3回 実技レッスン② 第4回 実技レッスン③ 第5回 実技レッスン④ 第6回 実技レッスン⑤ 第7回 実技レッスン⑥ 第8回 中間発表会 第9回 実技レッスン⑦ 第10回 実技レッスン⑧ 第11回 実技レッスン⑨ 第12回 実技レッスン⑩ 第13回 実技レッスン⑪ 第14回 実技レッスン⑫ 第15回 修了演奏会 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ・実技を中心とした授業のため、各コースとも授業時間外の練習が不可欠である。個人レッスンの時間が十分に活用できるように、日々練習に努めること。 ・室内楽を専攻する者に対しては、事前に課外授業を行う予定である。 《標準学修時間の目安》 ・1回あたり予習・復習を含めて1時間以上の学修が必要である。						
使用教科書 後日、専攻ごとに指定する。						
参考書 なし						
評価方法 ・授業への取り組み（20%） ・中間発表会の成績（40%） ・修了演奏会の成績（40%）						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
保育実習指導Ⅱ	16220	原子はるみ／三沢大樹	2	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ・保育実習Ⅰや既習教科の内容との関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行ない、保育に対する課題や認識を明確にする。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅱの意義や目的を説明できる。 ・保育の実践力を身に付けることができる。 ・保育実習Ⅰ（保育所）の自己評価から、新たな自己課題を設定できる。 ・保育士の専門性と職業倫理について説明できる。 ・実習を総括し、保育に対する課題を明確にできる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション、保育実習Ⅰ（保育所）の振り返り 第2回 実習Ⅱの総合的な学び①（子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解） 第3回 実習Ⅱの総合的な学び②（子どもの保育と保護者支援） 第4回 保育の実践力を培う学習①（子どもの状態に応じた適切なかわり） 第5回 保育の実践力を培う学習②（表現技術） 第6回 保育の実践力を培う学習③（表現技術） 第7回 保育の実践力を培う学習④（表現技術） 第8回 保育計画について（指導計画の立案） 第9回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 第10回 保育士の専門性と職業倫理について、保育実習Ⅰ（施設）について 第11回 実習課題の確認、訪問指導者との打ち合わせ 第12回 実習保育所による事前オリエンテーション 第13回 実習直前ガイダンス 第14回 事後指導①（実習報告会） 第15回 事後指導②（保育実習Ⅱ総括） 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学びが実習に繋がることを意識し、教科書を熟読する等、保育所で行われる実習に向けて保育の知識と技術を身に付けるよう努力を惜しまないこと。 ・授業には全て出席しなければならない。やむなく欠席した場合は、担当教員に授業内容を確認すること。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・1回あたり予習・復習を含めて1時間の学修が必要である。 						
使用教科書 よくわかる保育所実習第五版，百瀬ユカリ，創成社，ISBN978-4-7944-8056-9						
参考書 保育者養成シリーズ保育実習，林邦夫・谷田貝公昭監修/高橋弥生・小野友紀編著，一藝社						
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性，授業内での発表（50%） ・提出課題（30%） ・報告会，報告書（20%） 						
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、保育実習Ⅱを選択する学生が同時に履修するものである。 ・テキストの他に、実習ファイルを毎時持参すること。 						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
保育実習指導Ⅲ	16230	松田賢一／志賀直信	2	前期	演習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 児童福祉施設（保育所以外）における実習に臨むにあたって必要な事前の学習を深め、実習を円滑に進めるとともに、実習後において評価と自己の振り返りとともに自己課題を明確にすることを目標とする。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義と目的を理解し、実習への課題を明確にすることができる。 ・実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、実習に臨むことができる。 ・実習を振り返り、今後の学習における自己課題を明確にすることができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 15回の授業の詳細は、最初の授業にて説明をする 以下のような項目が演習内容である。 1. 保育実習（施設）による総合的な学び (1) 利用者の権利を考慮した養護、支援の具体的理解 (2) 利用者支援と地域生活支援 2. 実践力の育成 (1) 利用者の状態に応じた適切ななかかわり (2) ソーシャルワークの機能を活かした支援の実践 3. 計画と観察、記録、自己評価 (1) 実習の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 実習における観察、記録、自己評価に基づく支援の改善 4. 保育士の専門性と職業倫理 5. 事後指導における実習の総括と評価 (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・児童家庭福祉、社会的養護等の関連科目のテキスト、講義内容をもう一度確認して、社会福祉施設への理解を深めること。 ・社会福祉施設の概要を文献、インターネット等で調べ、まとめておくこと（実習前まで） ・実習施設、関連施設等から行事等のボランティアの依頼があった場合は、可能な限り参加して施設理解に努めること。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・次回までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。 						
使用教科書 福祉小六法2015，中央法規，978-4-8058-5078-7						
参考書 保育実習ガイドライン第2版（福祉施設実習編）：全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会						
評価方法 課題の提出状況、授業への参加態度・意欲等を総合して評価する。						
その他 特になし。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
保育実習Ⅱ	16320	原子はるみ／三沢大樹	2	その他	実験・実習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 「保育実習」は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うため、子どもに対する理解を通じて保育の理論と実践の関係を習得することを目的とする。保育実習Ⅱにおいては、保育所における実習（おおむね10日間）2単位を履修するものとする。本学では実習期間を2週間と設定し、規程の日数に満たない場合は追加実習を行う。 保育実習Ⅱにおいては参加実習を主体として 1 担当保育士の指導の下で保育を実践しながら、保育士として必要な資質、能力、技術を習得する。 2 子どもの家庭や地域の生活実態にふれ、家庭環境、福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うと共に、子育て支援に必要とされる様々な能力を養う。 《到達目標》 保育実習指導Ⅱの授業で提示する「保育実習Ⅱの評価票」に基づく。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 保育所の実習では、①～⑧をねらいとして、参加を通し体験する。 ① 保育全般に参加し、子ども一人一人の個人差を理解し、その対応を習得する。 ② 指導計画を立案し、実践する。 ③ 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を習得する。 ④ 他の教職員と協力してよりよい保育に取り組む。 ⑤ 地域社会に対する理解を深め、連携の方法を習得する。 ⑥ 子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 ⑦ 保育士としての職業倫理を学ぶ。 ⑧ 保育所の保育士に求められる資質、技量、能力に照らし、自己の課題を明確にする。 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 日頃から実習生として自覚を持つこと。保育所保育指針を熟読し、手遊びやピアノの練習等に努めるなど、保育所で行われる実習に向けた努力を惜しまないこと。 《標準学修時間の目安》 ・1日の実習日誌の作成に1～2時間程度の学修が必要となる。						
使用教科書						
参考書 保育所保育指針解説書，厚生労働省，フレーベル館						
評価方法 ・実習配属施設への出勤状況 ・実習保育所における実習評価 ・保育実習記録 以上を総合して評価する。						
その他 ・保育実習Ⅱを履修する者は、保育実習指導Ⅱ（事前事後指導）を同時に履修すること。 【受講条件】 1年次開講の卒業必修科目、保育士必修科目を単位習得済みであること。 また、これらの選択必修科目についても、1年次で履修すべき単位を習得済みであること。 ただし、特段の理由がある場合については、保育学科教務委員会の審査を経て特別に履修を許可することがある。（科目等履修生など）						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
保育実習Ⅲ	16330	松田賢一／志賀直信	2	その他	実験・実習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 保育実習Ⅰ（保育所）での体験に基づき、児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護を実践し、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養うとともに、利用者に対する理解を深くし、理論と実践の関係について習熟させることをねらいとする。 児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設において、10日間、見学・観察実習、参加実習、責任実習を行う。また、実習録を毎日記入する。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設の養護について理解し、実践することができる。 ・福祉施設利用者の権利について理解し、尊厳をもって対応することができる。 ・保育、養護の理論と技術を社会福祉施設で総合的に応用することができる。 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設（保育所以外）において、概ね10日間の実習を行う。 ・日誌を毎日記入し、提出する。 ・責任実習がある場合においては、指導案を立案し、実施する。 ・実習を通しての評価を基に、自己の実習を振り返り、課題を明確化する。 【受講条件】 1年次開講の卒業必修科目、保育士必修科目を単位習得済みであること。 また、これらの選択必修科目についても、1年次で履修すべき単位を修得済みであること。 ただし、特段の理由がある場合については、保育学科教務委員会の審査を経て特別に履修を許可することがある（科目等履修生など）。 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習ガイドライン（第2版）（福祉施設実習編）を事前に読み、内容の詳細を理解してから実習に臨むこと。 ・実習生としての立場をわきまえ、実習生として相応しい礼節を身につけておくこと。 ・日誌に用いる漢字の誤記には日頃から注意を払い、必要に応じて文章力を向上させるトレーニングを各自で行うことが望ましい。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・1回の報告書（レポート）作成に2～4時間程度の学修が必要となる。 						
使用教科書 なし						
参考書 保育実習ガイドライン（第2版）（福祉施設実習編）						
評価方法 実習施設での評価と本学における評価を総合する。						
その他 特になし。						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
レクリエーション指導法	18110	滝本 貴	2	後期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 レクリエーションは、健康づくりや保育、教育など様々な現場で用いられている。本授業では、こうしたレクリエーションにおける、基本的な支援の概要を理解するとともに、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象としたレクリエーションワークの技術を身につけることを目的とする。さらに、地域のレクリエーション協会などが主催する様々な事業にも積極的に参加し、現場での経験を積むことにより、より高度なスキルを持つレクリエーション・インストラクターの養成を目指す。						
《到達目標》 1) 指導にホスピタリティ、アイスブレイキングの技法が生かすことができる。 2) 指導にコミュニケーションスキルを生かすことができる。 3) 幅広い年齢層に対応したレクリエーション指導ができる。 4) 共に喜びを分かち合うことができる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション：はじめまして、ホスピタリティ、コミュニケーションゲーム 第2回 レクリエーションの意義①：レクリエーションとは 第3回 " ②：レク運動の歴史 第4回 インストラクターの役割：期待、能力、技術 第5回 レクリエーション支援①：ライフスタイルとレクリエーション 第6回 " ②：少子高齢社会の課題とレクリエーション 第7回 " ③：地域とレクリエーション 第8回 ウォークラリー①：ウォークラリーとは、ポイントオリエンテーリング、作図 第9回 " ②：ポイントウォークラリーの実際 第10回 レクリエーション事業：レクリエーション事業展開 第11回 事業計画①：レクリエーションプログラムの組み立て 第12回 " ②：レクリエーションプログラムの作成（案内状、ポスターなど） 第13回 " ③：レクリエーションプログラムの発表 第14回 レクリエーション活動の安全管理 第15回 つどいを楽しむ：まとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 授業で配布される資料を復習して基礎となる理論をしっかりと身につけること。 《標準学修時間の目安》 1回の講義あたり、各2時間程度の予習・復習が必要である。						
使用教科書						
参考書 なし						
評価方法 授業時間内に出題する課題のレポート内容により評価する。						
その他 授業の他にも、地域で行われる様々なレクリエーション活動に積極的に参加すること。必要に応じてプリントを使用する。						

科 目 名		教 員 名	配当年次	期間	形態	単位数
レクリエーション現場実習	18210	松 田 賢 一	2	その他	実験・実習	1
授業目標・到達目標 《授業目標》 レクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目である。目的をもって、地域で開催されている事業を選択し、参加することを目指す。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり、介護予防に関わる事業を説明できる ・社会参加を促進する事業を説明できる ・青少年の健全育成、子育て支援に関わる事業を説明できる ・地域づくり、コミュニティづくりに関わる事業を説明できる ・生涯学習、生涯スポーツの振興に関わる事業を説明できる ・地域文化、生涯スポーツの振興に関わる事業を説明できる ・その他、地域で行われる公益目的の事業を説明できる 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 事業参加の対象となる事業の形態は、以下のいずれかに該当すること ①日本レク協会、都道府県レク協会、市区町村レク協会の主催事業 ②日本レク協会および都道府県レク協会に加盟する団体の主催事業 ③教育委員会などの行政や民間団体の主催する事業で、日本レク協会や都道府県レク協会が関係（共催、後援、受託等）している事業 ④日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校連絡協議会が主催する事業で、日本レク協会や都道府県レク協会が関係している事業 ⑤以上のような目的を持って行われるレク・インストラクターを目指す学生にとってふさわしいと考えられる事業 <ul style="list-style-type: none"> ・上記事業の形態のうち必ず1回は、①～④に該当するものに参加しなければならない。 ・1回の事業の時間は、1日あたり3時間以上を目安とする ・事業の時間については、次のように考える 【事業参加】受付から解散までの時間 【スタッフ時間】準備から撤収までの時間 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 <ul style="list-style-type: none"> ・主催事業が告知されたら、その内容等を確認し、事前の学習をし、現場実習に臨む。 ・現場実習が終了後、「振り返り」をし、直ちにレポート作成する。 《標準学修時間の目安》 <ul style="list-style-type: none"> ・1回の報告書（レポート）作成に1～2時間程度の学修が必要となる。 						
使用教科書						
参考書 なし						
評価方法 指定されたレク大会には、全て出席し、そのレポートを提出することが評価の対象となる。（得点配分100%）						
その他 なし						

科目名		教員名	配当年次	期間	形態	単位数
音楽	II 11210	佐々木茂 三沢大樹／類家 唯	2	前期	演習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 音楽Iで習得した知識や技術をさらに発展させるための授業である。様々な音楽表現活動を通して楽しさや喜びを経験し、音楽表現に係る教材等の活用や、具体的展開のための知識や技術の習得を目指す。授業では、器楽（ピアノ）と歌唱（合唱）技術の実技学習に加えて、弾きうたい（伴奏法）の学習に取り組む。ピアノ実技に関しては習熟度別（グループA・B）に指導を行うため、複数名の教員が授業に参加し個人指導を行う。 《到達目標》 [歌唱（合唱）] ・強さや表情記号に留意し、豊かな響きで合唱表現することができる。 [弾きうたい（伴奏法）] ・C-durの主要三和音（転回形を含む）を用いて、鍵盤楽器を用いた簡易伴奏の技術を習得する。 ・主要三和音で構成されたC-durの楽曲を、F-durやG-durに移調することができる。 ・正しい記譜法を用いて、任意の子どもの歌の楽譜を作成することができる。 [音楽鑑賞] ・集中して音楽を聴くことができ、鑑賞した楽曲について説明することができる。 [ピアノグループB（中級者）] ・ピアノの基礎的な表現技術（強弱、デュナーミク、アクセント、スターカット、フレージング、ペダル）を用いて、自分なりの演奏表現ができる。 ・ブルクミュラー25の練習曲に取り組み、人前で暗譜演奏することができる。 [ピアノグループA（上級者）] ・音楽Iで習得したピアノ表現の技術を高め、特に読譜力を習得する。 ・ロマン派や近代の作曲家の作品に取り組むことで想像力を深め、暗譜かつ人前で演奏することができる。						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 ガイダンス、音楽鑑賞 第2回 合唱①、ピアノ① 第3回 合唱②、ピアノ② 第4回 合唱③、ピアノ③ 第5回 合唱④、ピアノ④ 第6回 合唱⑤、ピアノ⑤ 第7回 合唱⑥、ピアノ⑥ 第8回 ピアノ試験（ピアノ⑦） 第9回 弾き歌い（伴奏法）①、ピアノ⑧ 第10回 弾き歌い（伴奏法）②、ピアノ⑨ 第11回 弾き歌い（伴奏法）③、ピアノ⑩ 第12回 弾き歌い（伴奏法）④、ピアノ⑪ 第13回 弾き歌い（伴奏法）⑤、ピアノ⑫ 第14回 弾き歌い（伴奏法）⑥、ピアノ⑬ 第15回 弾き歌い試験（弾き歌い（伴奏法）⑦）、ピアノまとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習等）》 ピアノの技術習得には十分な練習が必要である。ピアノ個人練習室や自宅のピアノで毎日練習する習慣を身に付けること。 《標準学修時間の目安》 1回あたり予習・復習を含めて4時間以上の学修が必要である。						
使用教科書 歌唱の基礎、荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹、圭文社、ISBN978-87446-077-1						
参考書 各グループあるいは各自に指定するピアノ教本						
評価方法 ・ピアノ独奏（50%） ・弾き歌い（伴奏法）（40%） ・授業への積極性（10%）…合唱と音楽鑑賞に関する評価を含む。						
その他 なし						

科 目 名		教 員 名	配当年次	期 間	形 態	単 位 数
図 画 工 作 II	11220	木 村 美 佐 子	2	後 期	演 習	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 幼児の造形活動は、健やかな成長に欠かすことのできない重要な活動である。これらは、本来自主的・主体的な活動であり、豊かな環境が大きく作用する。本演習では、幼児が扱う多様な素材・用具に触れ、その特性と使い方を理解し、適切な援助と環境構成ができることを目指す。また、幼児の発達に応じた教材を研究し、協同して制作することを目指す。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の造形活動を促す適切な環境を構成できる ・ 保育で用いられる様々な素材に触れ、特性と使い方を説明できる ・ 様々な技法を理解し、使用する用具の使用法、活動内容を説明できる ・ 豊かな造形活動を展開するための、援助方法を説明できる ・ グループのメンバーと協力して制作できる 						
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション 第2回 保育に活かす技法遊び 第3回 保育に活かす技法遊び 第4回 保育教材の理解と研究Ⅰ① 第5回 保育教材の理解と研究Ⅰ② 第6回 保育教材の理解と研究Ⅰ③ 第7回 保育教材の理解と研究Ⅰ④ 第8回 基本的な素材・用具の特性と使い方の理解① 粘土で遊ぶ 第9回 基本的な素材・用具の特性と使い方の理解② 紙で遊ぶ 第10回 基本的な素材・用具の特性と使い方の理解③ 廃材で遊ぶ 第11回 保育教材の理解と研究Ⅱ 乳幼児向けの保育教材制作① 第12回 保育教材の理解と研究Ⅱ 乳幼児向けの保育教材制作② 第13回 保育教材の理解と研究Ⅱ 乳幼児向けの保育教材制作③ 第14回 保育教材の理解と研究Ⅱ 乳幼児向けの保育教材制作④ 第15回 まとめ 《授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習）》 ・ 課題制作は、授業外での活動が不可欠である。計画的、主体的に活動すること 《標準学修時間の目安》 ・ 1回あたり、予習・復習を含めて4時間の学修が必要である						
使用教科書 なし						
参考書 なし						
評価方法 提出作品（80％） 授業への積極性（20％）						
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は使用せず、随時プリントを配布する ・ 受講生の人数により、講義内容を変更することがある 						

科目名			教員名	配当年次	期間	形態	単位数
国	語	10077	片岡邦夫	2	前期	講義	2
授業目標・到達目標 《授業目標》 本授業は、幼児教育に携わる職業人として必要な日本語の確かな理解力と表現力の育成を目標とする。とりわけ、読みやすく分かりやすい文章表現の、実践技法の習得を主眼とする。 授業では、近年の日本語ブームの背景にふれながら、まず日本語の特質を確かめる。さらに、現代日本語のあるべき姿を探るべく、古文・古典の世界にも触れ、文語の特質を理解し、現代口語への変遷の過程をなぞりながら、特に戦後70年の期間を経て定着してきた現代日本語の現況と課題を認識できる人を育成する。 日本語の確かで豊かな表現力を理解するための考察を実践実習を通じて行い、また、人間関係を豊かにする話し言葉についても考察し、敬語表現の実際を学ぶ。講義と演習（作文・小論文執筆）が相半ばする授業の展開を図る。また、美しく豊かな日本語の基礎的な教養を身につけるための文語体文章にも講義の形態の中で触れる。 《到達目標》 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を大切にしていこうとする意識をもつことができる。 ・言葉の性質・特質を理解して、言葉をより正しく豊かに使う担い手になろうとする意欲をもつことができる。 ・機械によらず、手書きによる文字とコミュニケーションの大切さを理解し、自らその使い手になる意欲をもつことができる。 ・読解演習を通して、比較的難度の高い、散文・韻文・文語体文章を読解してことの楽しさを知ることができる。 ・必要に応じ、対象となる読み手に向けて、論理性のある理解しやすく説得力のある文章を書こうとする意欲をもつことができる。 							
講義計画・準備内容 《講義計画》 第1回 オリエンテーション。言語の特質について考える。 第2回 現代日本語を学ぶ。ことばの持つ役割 第3回 現代日本語を学ぶ。敬意表現、文法（口語） 第4回 現代日本語を学ぶ。文語体文章にふれる（文語文法） 第5回 現代日本語を学ぶ。書くことの意味 第6回 現代日本語を学ぶ。漢字と仮名 第7回 現代日本語を学ぶ。漢字と仮名 第8回 現代日本語を学ぶ。読解演習（文学） 第9回 現代日本語を学ぶ。読解演習（文学） 第10回 現代日本語を学ぶ。読解演習（非文学） 第11回 現代日本語を学ぶ。読解演習（非文学） 第12回 現代日本語を学ぶ。論文の書き方 第13回 現代日本語を学ぶ。諸通信、たよりの作成 第14回 現代日本語を学ぶ。諸通信、たよりの作成 第15回 総括と授業をふりかえっての評価 《授業外に行うべき学習（予習・復習、学習準備等）》 ①日刊新聞の時事コラムを1日1回読み通す（購読していない場合は大学図書館にある）。低声でもよいから一編を音読すること。 ②上記の時事コラムを音読する。要約し、自分の思いをノートに記す。 ①は必須、②は可能であれば。 《標準学修時間の目安》 ・音読すべきコラム記事を準備する時間も含めて、1回15分間。							
使用教科書 自作のテキストを用いる							
参考書 特になし							
評価方法 毎回の授業での意欲・関心・態度、そして書く作業、提出する作文、小論文によって評価を行う。							
その他 特になし							